

鳥取県の政策に関する県民意識調査
結果報告書
(令和6年6月調査)

令和6年 10 月



目 次

	ページ
【 調査の概要 】	
1 調査の目的.....	1
2 調査の概要.....	1
3 資料のみかた.....	1
4 回収状況と信頼区間.....	2
5 回答者の情報.....	3
【 結果の概要 】	
結果の概要.....	6
【 調査結果 】	
I 鳥取県の住みやすさについて.....	9
問 1 あなたは、鳥取県に対して愛着や誇りを感じていますか.....	9
問 2 あなたが、今暮らしている地域の住みやすさを教えてください.....	11
問 3 あなたは鳥取県での暮らしについてどう思われますか.....	13
問 4 鳥取県に暮らしていて、あなたは今の程度「幸せ」ですか.....	15
問 5 あなたの「幸福度」を判断するときに、あなたが重視することは何ですか.....	17
II 鳥取県の施策の満足度と今後の優先度について.....	19
1 豊かな自然でのびのび鳥取らしく生きる.....	19
問 6-1 「豊かな自然でのびのび鳥取らしく生きる」取組の満足度.....	19
問 6-1-2 「豊かな自然でのびのび鳥取らしく生きる」取組の重要度.....	21
2 人々の絆が結ばれた鳥取のまちに住む.....	24
問 6-2 「人々の絆が結ばれた鳥取のまちに住む」取組の満足度.....	24
問 6-2-2 「人々の絆が結ばれた鳥取のまちに住む」取組の重要度.....	26
3 幸せを感じながら鳥取の時を楽しむ.....	29
問 6-3 「幸せを感じながら鳥取の時を楽しむ」取組の満足度.....	29
問 6-3-2 「幸せを感じながら鳥取の時を楽しむ」取組の重要度.....	31
4 男女共同参画社会づくり.....	34
問 7 男女に関する役割についてどう思いますか.....	34
問 8 男性の家事、育児、介護への積極的な参画を促進するために、行政が行うべき施策は何だと思 いますか.....	35
問 9 男女共同参画社会を実現するために、行政が特に力を入れるべきことは何だと思 いますか.....	37
III 重点施策への関心・認識.....	39
問 10 あなたは、これまで犯罪者となった場合の事を考えたり、被害を受けた後の生活などを想像して 不安を感じたことがありますか.....	39
問 11 あなたは、犯罪被害にあわれた方や、そのご家族の方々にワンストップで様々な支援を行う、 鳥取県犯罪被害者総合サポートセンターの存在を知っていますか.....	41

問 12	あなたが犯罪被害にあった場合を想定したとき、行政に求めたい支援は何ですか.....	43
問 13	あなたが犯罪にあったときに、受ける二次被害として最も深刻だと思われる被害は何ですか.....	45

【 自由記載 】	(問5、問8、問9、問 10、問 12、問 13 の回答を含む自由記載)	47
-----------------	--	----

【 資料 】

調査票	51
集計結果.....	62

【 調査の概要 】

1 調査の目的

鳥取県は、都会にはない鳥取県の強みを活かし、県民の皆さんとともに様々な地方創生の取組を進めています。

これからも、県民の皆さんが住み慣れた地域で安全に安心して暮らし続けていただけるよう現在の状況や今後の要望など、率直なご意見をお伺いするため調査を行ったものです。

2 調査の概要

- (1)調査対象 鳥取県内在住の18歳以上75歳未満の者 3,000名
- (2)抽出方法 住民基本台帳に基づく無作為抽出法
- (3)調査時期 令和6年6月
- (4)調査方法 (2)により抽出した者に対し、郵送により調査票を送付して、回答は郵送またはインターネットにより受付した。なお、調査票の提出は無記名とした。
- (5)有効回答数 1,638名
- (6)回収率 54.6% (1,638/3,000)
・郵送回答:894(54.6%)・インターネット回答:744(45.4%)
- (7)回答者の属性 性別:男性703人(42.9%)、女性862人(52.6%)
その他・回答したくない46人(2.8%)、無回答27人(1.6%)
年齢:18~19歳(2.6%)、20~29歳(11.7%)、30~39歳(12.5%)、
40~49歳(16.7%)、50~59歳(18.3%)、60~69歳(22.2%)、
70歳以上(15.1%)、無回答(1.0%)

3 資料のみかた

(1) 比率(%:パーセント)の表示について

原則として、各設問の無回答を含む集計対象総数(副設問では設問該当対象数)に対する百分率(%)を表している。複数回答を求める設問では、百分率の合計は100%を超える。

また、百分率は小数点以下第2位を四捨五入し、小数点第1位までを表示した。このため、百分率の合計が100%とならず、端数が生じたものがある。

(2)「無回答」の取り扱いについて

以下については「無回答」として取り扱うこととした。

- ・回答が選択されていない場合
- ・指定回答数以上を回答している場合 例)単数回答の設問に複数回答を行っている場合など

(3)クロス集計の「性別:その他」及び「年代:18~19歳」標本の取り扱いについて

クロス集計の「性別:その他」及び「年代:18~19歳」は標本数が少ないため、他の性別又は年代と比較・分析する場合は除外することとした。

(4)問6について

問6は鳥取県の総合戦略の施策の取組に対する満足度と重要度に関する設問としていますが、令和6年4月に総合戦略が改正されたため、問6で扱う施策の取組も新総合戦略に合わせて変更しました。そのため、前回調査との単純な年次比較ができないことから、過去5年間の年次推移については、今回の調査とは別に参考として掲載しています。

4 回収状況と信頼区間

(1) 必要標本数について

今回の調査においては、18歳以上75歳未満の鳥取県推計人口 353,242 人(令和5年10月1日時点)から無作為に 3,000 人を抽出し、調査の依頼を行った。そのうち有効回答数は 1,638 人であり、回収率は 54.6%であった。

まず、標本数の設定については、次の式によって与えられる。

$$A = \frac{N}{\left[\frac{\varepsilon}{X(\alpha)}\right]^2 \cdot \frac{N-1}{\sigma^2} + 1}$$

- A = 必要標本数
- α = 推定を誤る確率
- $X(\alpha)$ = 正規分布の性質から与えられる値(1.96)
- N = 母集団の大きさ(満18歳以上75歳未満の県民)
- σ^2 = 母分散
- ε = 精度

本調査では、信頼度を 95%として計算を行った。この場合、 $X(\alpha)$ は、1.96 であり、母集団の大きさは 353,242 人。精度を仮に 3%、母比率を 50%とし、それぞれ代入して計算すると、以下のとおりとなる。

$$A = \frac{353,242}{\left[\frac{3}{1.96}\right]^2 \cdot \frac{353,242}{50 \times 50} + 1} = 1063.897$$

よって、今回の調査において必要な最小標本数は 1,063 人であり、有効回答 1,638 人はこの条件を満たしているといえる。

(2) 標本誤差について

有効回答票の標本誤差を次の式によって計算した。

$$B = \pm 1.96 \cdot \sqrt{\left[\frac{N-n}{N-1}\right] \cdot \frac{Q(1-Q)}{n}}$$

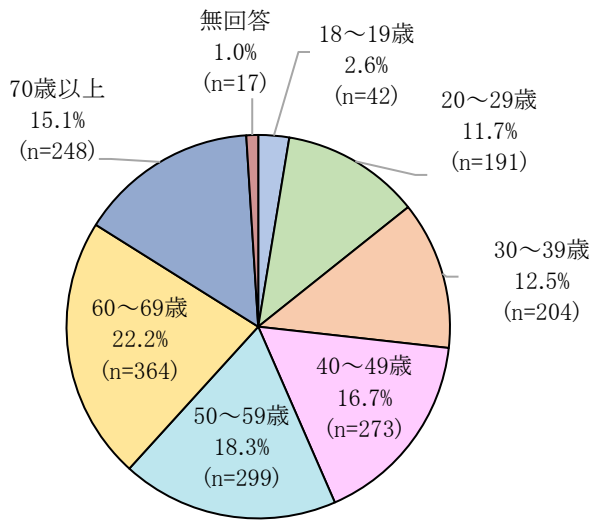
- B = 標本誤差
- N = 母集団の大きさ(満18歳以上75歳未満の県民)
- n = 回答者総数(1,638 人)
- Q = 母比率(0.5 とする)

$$B = \pm 1.96 \cdot \sqrt{\left[\frac{351,604}{353,241}\right] \cdot \frac{0.5(1-0.5)}{1,638}} = \pm 2.36$$

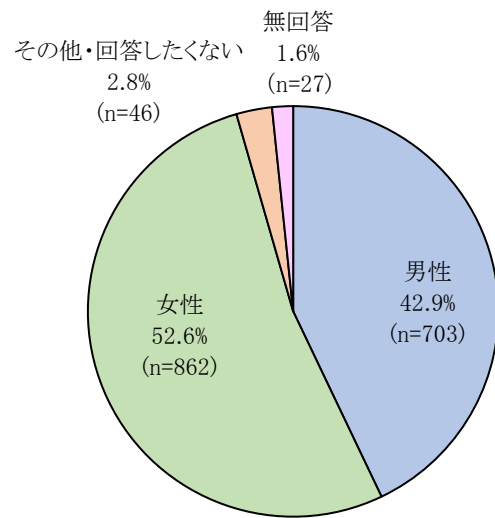
すなわち、標本誤差は $\pm 2.4\%$ しかないといえる。

5 回答者の情報

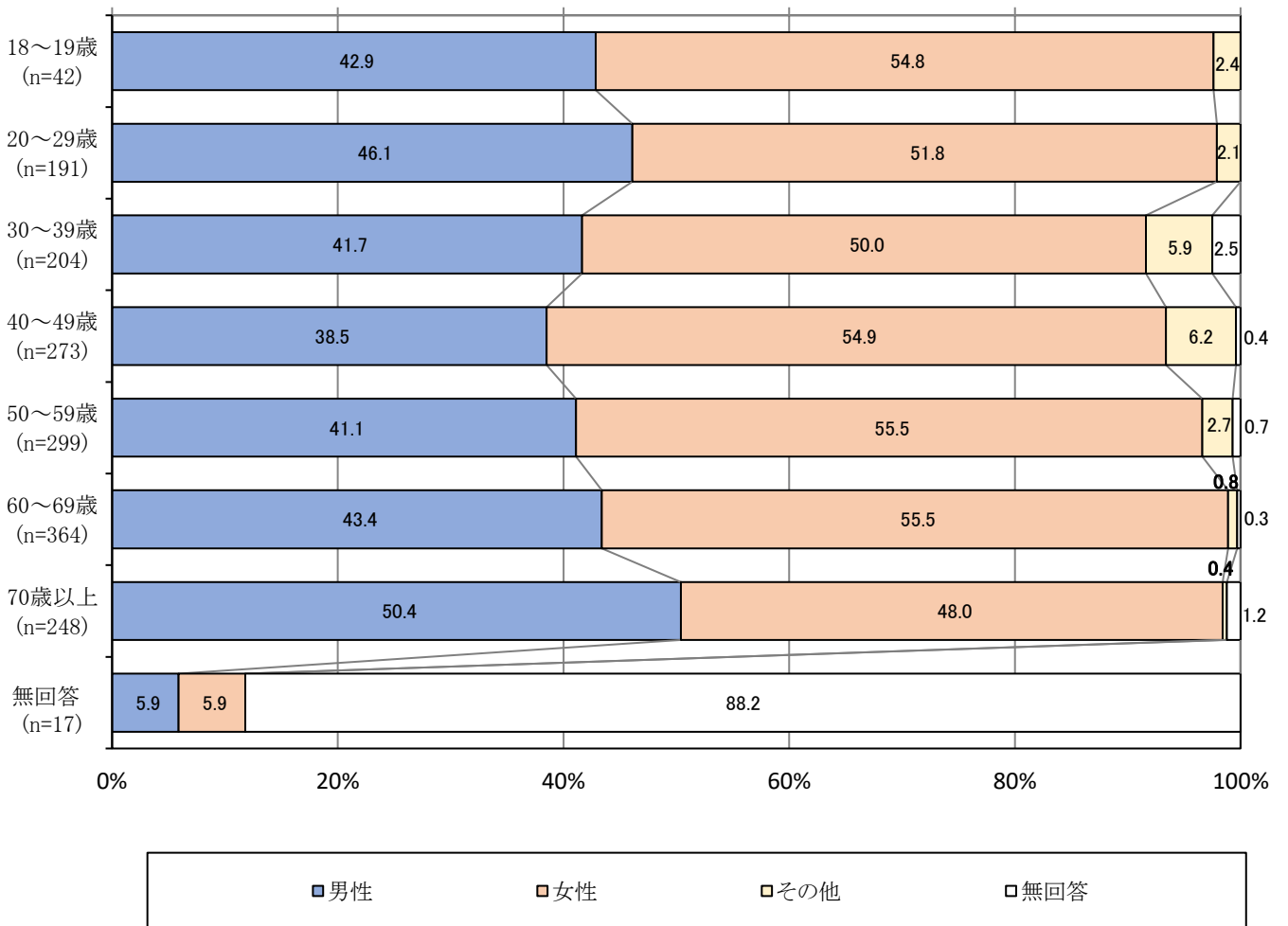
(1) 年代



(2) 性別



(3) 性別 × 年代



<市町村別調査対象者数>

区 分		人 口			抽 出 数		
		男性	女性	合計	男性	女性	合計
東 部 地 区	鳥取市	62,072	61,747	123,819	527	524	1,051
	岩美町	3,451	3,381	6,832	29	29	58
	八頭町	4,910	5,018	9,928	42	43	85
	若桜町	795	764	1,559	7	6	13
	智頭町	1,899	1,862	3,761	16	16	32
	(小計)	73,127	72,772	145,899	621	618	1,239
中 部 地 区	倉吉市	13,979	14,712	28,691	119	125	244
	湯梨浜町	5,045	5,189	10,234	43	44	87
	三朝町	1,855	1,792	3,647	16	15	31
	北栄町	4,410	4,560	8,970	37	39	76
	琴浦町	4,913	4,967	9,880	42	42	84
	(小計)	30,202	31,220	61,422	257	265	522
西 部 地 区	米子市	46,402	48,732	95,134	394	414	808
	境港市	10,596	10,509	21,105	90	89	179
	南部町	3,271	3,227	6,498	28	27	55
	伯耆町	3,203	3,185	6,388	27	27	54
	日吉津村	1,152	1,219	2,371	10	10	20
	大山町	4,619	4,553	9,172	39	39	78
	日南町	1,206	1,000	2,206	10	9	19
	日野町	807	774	1,581	7	7	14
	江府町	736	730	1,466	6	6	12
	(小計)	71,992	73,929	145,921	611	628	1,239
合 計		175,321	177,921	353,242	1,489	1,511	3,000

※人口は鳥取県統計課「鳥取県の推計人口」より、令和5年10月1日時点の18歳以上75歳未満の推計人口を用いた。

<回答者の情報>

【性別】

区分	件数	割合(%)
男性	703	42.9
女性	862	52.6
その他 ・回答した くない	46	2.8
無回答	27	1.6
計	1,638	100

【年代】

区分	件数	割合(%)
18～19歳	42	2.6
20～29歳	191	11.7
30～39歳	204	12.5
40～49歳	273	16.7
50～59歳	299	18.3
60～69歳	364	22.2
70歳以上	248	15.1
無回答	17	1.0
計	1,638	100

【職業】

区分	件数	割合(%)
会社員 (公務員含む)	766	46.8
自営業 (家族従業者含む)	140	8.5
パート ・ アルバイト	242	14.8
学生	72	4.4
専業主婦 ・主夫	119	7.3
無職	272	16.6
無回答	27	1.6
計	1,638	100

【住まい】

区分	件数	割合(%)
鳥取市	598	36.5
米子市	441	26.9
倉吉市	116	7.1
境港市	97	5.9
岩美町	26	1.6
八頭町	43	2.6
若桜町	8	0.5
智頭町	18	1.1
湯梨浜町	48	2.9
三朝町	15	0.9
北栄町	43	2.6
琴浦町	42	2.6
南部町	24	1.5
伯耆町	30	1.8
日吉津村	12	0.7
大山町	32	2.0
日南町	12	0.7
日野町	8	0.5
江府町	8	0.5
無回答	17	1.0
計	1,638	100

【 結 果 の 概 要 】

I 鳥取県の住みやすさについて

- 鳥取県に対する愛着や誇りは、約7割の人が「感じている」又は「少し感じている」と答えている。
- 今暮らしている地域について、約6割の人が「住みやすい」と答えている。
- 鳥取県に暮らしていて、豊かな自然環境に恵まれていると思う人は約9割と圧倒的に多く、また5割以上の人が、治安が良い、住民が親切であると答えている。
- 生活するにあたっての公共交通機関の状況について、約6割の人が「整っていない」と思っている。
- 鳥取県での暮らしの幸せの程度について、約9割の人が「普通」から「とても幸せ」と答えている。
- 幸福度の判断で重視することについて、6割以上の人が「家計の状況」「自身の健康の状況」と答えている。

II 鳥取県の施策の満足度と今後の優先度について

【豊かな自然でのびのび鳥取らしく生きる】

- 「豊かな観光資源を活用した観光誘客の取組」「強い農林水産業で食の魅力を発信する取組」に満足を感じている割合が多い。なお、すべての項目において、満足を感じている割合が不満を感じている割合を上回っている。

（今後優先すべき重要度の高い項目）

- 「豊かな観光資源を活用した観光誘客の取組」「強い農林水産業で食の魅力を発信する取組」が、今後優先すべき項目の上位を占めている。

【人々の絆が結ばれた鳥取のまちに住む】

- 「日本一子育てしやすい『シン・子育て王国』の推進」「地域の健康と安心を守る取組」に満足を感じている割合が多い。一方で、「中山間地の生活や社会機能を守る取組」「危機を乗り越え、地域を元気にする取組」「若い力が輝く協働のまちづくり」に不満を感じている割合が多い。

（今後優先すべき重要度の高い項目）

- 「若い力が輝く協働のまちづくりの取組」「日本一子育てしやすい『シン・子育て王国』の推進」が、今後優先すべき項目の上位を占めている。

【幸せを感じながら鳥取の時を楽しむ】

- 「防災・減災対策の強化」「暮らしやすく元気になるまちづくりを進める取組」に満足を感じている割合が多い。一方で、「県内産業を支える人づくりの推進」「県内産業の持続的発展をめざす取組」に不満を感じている割合が多い。

（今後優先すべき重要度の高い項目）

- 「県内産業の持続的発展をめざす取組」「暮らしやすく元気になるまちづくりを進める取組」「県内産業を支える人づくりの推進」が、今後優先すべき項目の上位を占めている。

【男女共同参画社会づくり】

- 男女に関する役割などについて、約8割の人が「現実として家事や子育てが女性の役割となっていると思う」、約7割の人が「現実として介護が女性の役割となっていると思う」と答えている。
- 男性の家事、育児、介護への積極的な参画を促進するために行政が行うべき施策について、約6割の人が「男性の家事・育児・介護への参画を当たり前のことと捉える社会全体の機運の醸成」と答えている。
- 男女共同参画社会を実現するために行政が特に力をいれるべきことについて、約6割の人が「保育・介護の施設・サービスや子育て・介護支援の充実など、仕事との両立を可能とする環境の整備」「性別によらない雇用や公正な待遇の確保、または働きやすい環境の整備を進める企業の取組支援」、約4割の人が「子育てや介護等で離職した人の再就職支援」と答えている。

Ⅲ 重点施策への関心・認識

【犯罪被害者支援について】

- 犯罪の被害者となった場合のことを考えたり、被害を受けた後の生活などを想像して不安を感じたことがあるかについて、約4割の人が「考えたことはないが、不安はある」、約3割の人が「考えたことがあり、不安を感じている」と答えている。
- 鳥取県犯罪被害者総合サポートセンターの存在を知っているかについて、約6割の人が「知らない」、約2割の人が「県内で犯罪被害者等の支援に関する広報や啓発活動等について見聞きしたことがあるが、サポートセンターの存在は知らない」「サポートセンターの存在は知っているが、取組内容については知らない」と答えている。
- 犯罪被害にあった場合を想定したとき、行政に求めたい支援について、約6割の人が「必要となる医療費や裁判費用などの負担軽減、生活再建等に至る経済的な支援」、約5割の人が「犯罪被害者等が相談しやすい相談窓口の設置」と答えている。
- 犯罪にあったときに、受ける二次被害として最も深刻と思われる被害について、約3割の人が「知人・友人の言動、近隣の噂や中傷」「報道機関の配慮に欠けた取材や偏見、インターネット上の偽情報や誤情報の拡散」と答えている。

【 調 査 結 果 】

I 鳥取県の住みやすさについて

問1 あなたは、鳥取県に対して愛着や誇りを感じていますか。(〇は1つ)

～鳥取県に対しての愛着や誇りを感じている人が約7割～

鳥取県に対する愛着や誇りは、「感じている」が41.9%、「少し感じている」が26.5%と、愛着や誇りを感じている人が68.4%となっている。一方、「あまり感じていない」が4.2%、「感じていない」が2.3%で、愛着や誇りを感じていない人は6.5%と1割に満たない。

令和元年度-6年度を比較してみると、「感じている」「少し感じている」の合計は令和2年度が74.7%と最も割合が高く、それ以降が減少しており、令和6年度は前年度と比較すると横ばいとなっている。

年代別でみると、愛着や誇りを「感じている」「少し感じている」を合わせた割合は、50歳代以上が高くなっている。

性・年代別でみると、「感じている」「少し感じている」を合わせた割合は、男性は40歳代と60歳代以上が高く、女性では50～60歳代が高くなっている。

地域別でみると、「感じている」「少し感じている」を合わせた割合は、西部地区が他の地域に比べて高くなっている。

図1 鳥取県に対して愛着や誇りを感じているか(n=1,638)

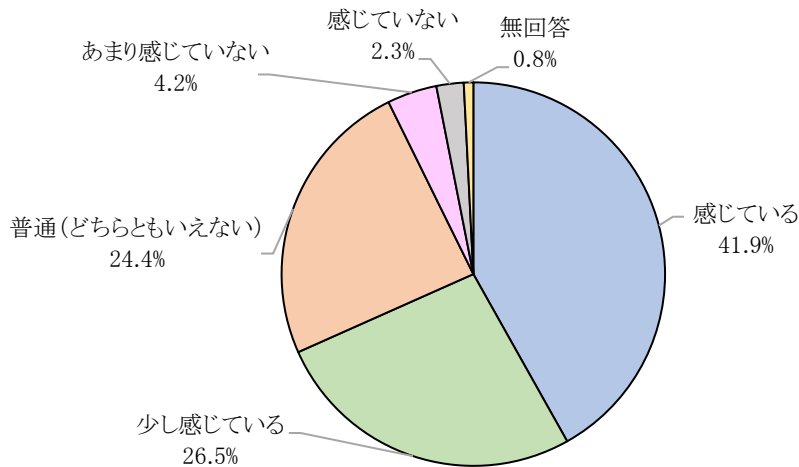


図2 鳥取県に対しての愛着や誇りについて

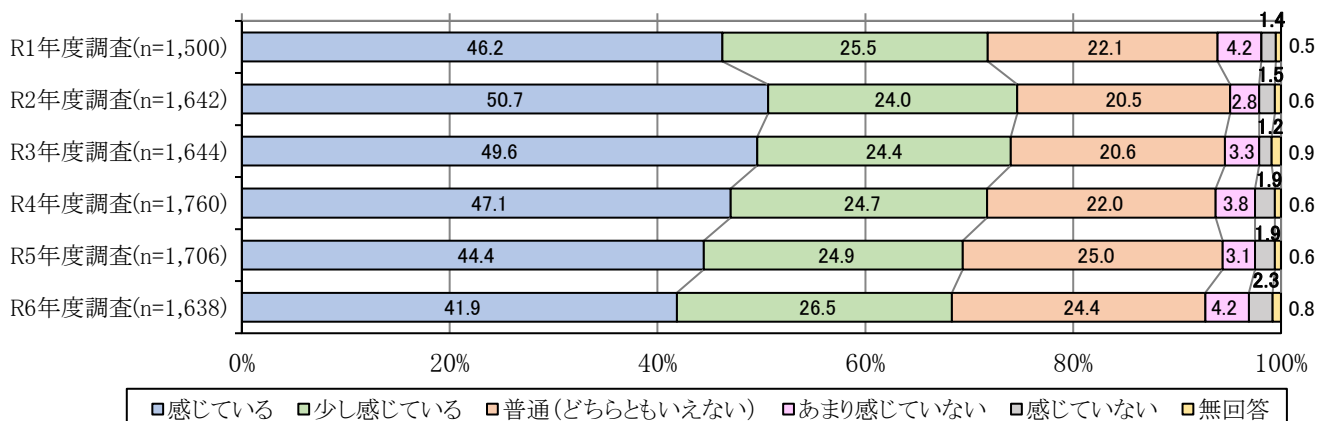
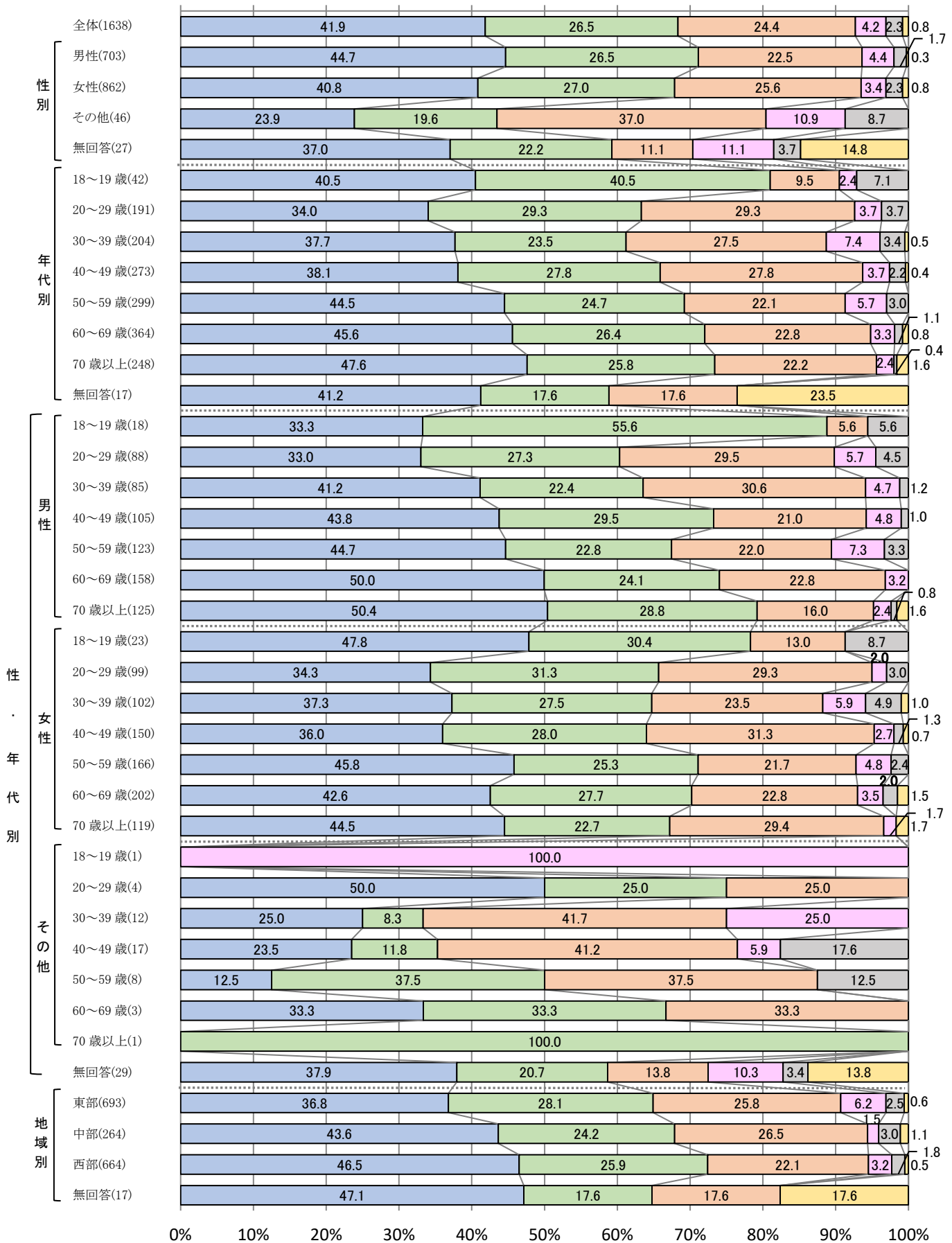


図3 鳥取県に対しての愛着や誇りについて



■感じている □少し感じている □どちらともいえない □あまり感じていない □感じていない □無回答

問2 あなたが、今暮らしている地域の住みやすさを教えてください。(〇は1つ)

～「とても住みやすい」「どちらかというに住みやすい」を合わせると約6割の人が住みやすいと回答～

今暮らしている地域の住みやすさは、「とても住みやすい」が19.8%、「どちらかというに住みやすい」が41.7%で、住みやすいと答えている人が合わせて61.5%となっている。

一方、「どちらかというに住みにくい」が7.8%、「住みにくい」が2.7%で、住みにくいと答えている人は合わせて10.5%となっている。

令和元年度-6年度を比較してみると、「とても住みやすい」「どちらかというに住みやすい」の合計は、令和2年度の70.7%が最も割合が高く、それ以降は減少傾向となっているが、令和6年度は前年度と比べると横ばいとなっている。

年代別でみると、「とても住みやすい」「どちらかというに住みやすい」を合わせた割合は、50歳代以上で高くなっている。

性・年代別でみると、「とても住みやすい」「どちらかというに住みやすい」を合わせた割合は、男性は30歳代、60歳代以上で高く、女性は50～60歳代が高くなっている。

地域別でみると、「とても住みやすい」「どちらかというに住みやすい」を合わせた割合は、西部地区が他の地域に比べ高くなっている。

図4 今暮らしている地域の住みやすさ(n=1,638)

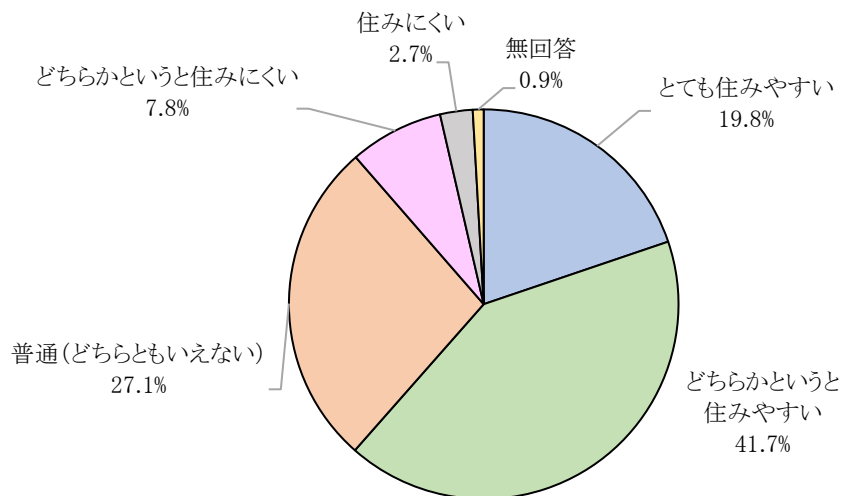


図5 今暮らしている地域の住みやすさ

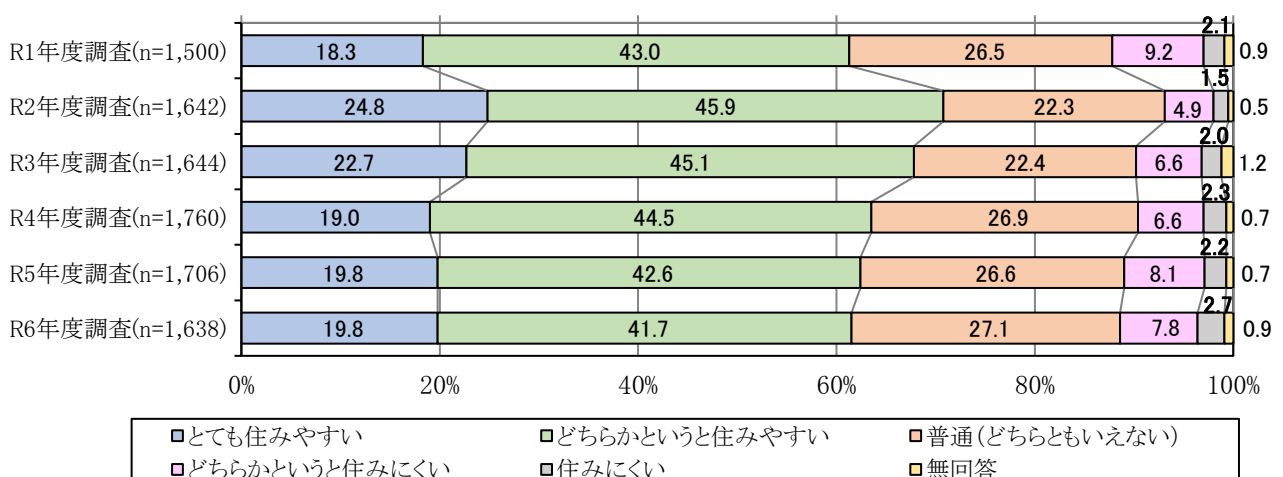
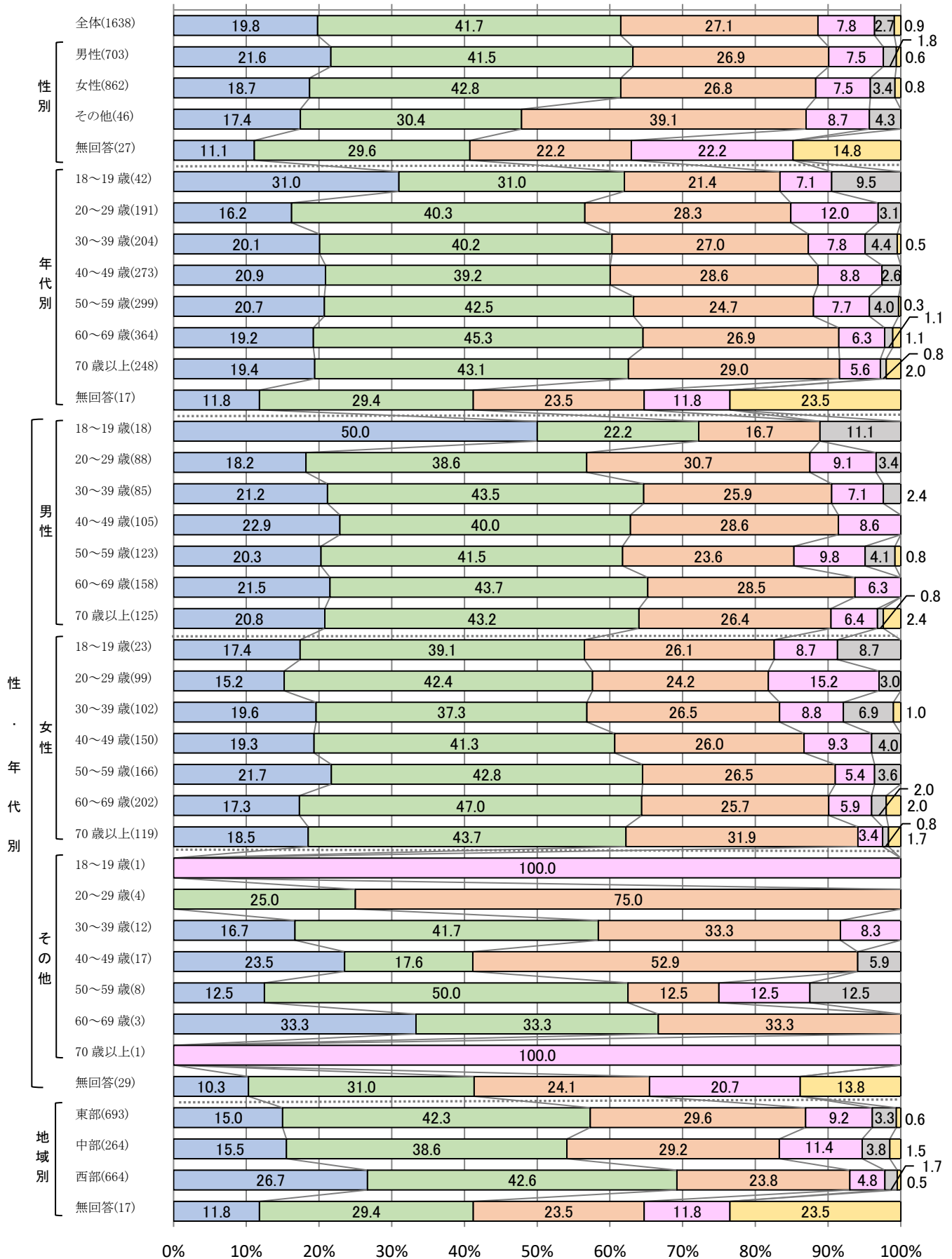


図6 今暮らしている地域の住みやすさ(性別・年代・地域別)



とても住みやすい どちらかという住みやすい どちらともいえない
どちらかという住みにくい 住みにくい 無回答

**問3 鳥取県に暮らしていて、次の項目(設問)についてどう思われますか。
項目ごとにいずれかに○を記入してください。**

～「豊かな自然環境に恵まれている」と思う人が約9割～

鳥取県に暮らしていてよく感じる(そう思う)項目は、上位項目では「豊かな自然環境に恵まれている」が89.1%と最も割合が高く、次いで「地域の治安が良いと感じている」が66.4%、「住んでいる住民(県民)が親切である」が53.6%、「地域での人と人とのつながりがある」が49.0%と続き、自然環境、治安、人とのつながりを鳥取県に暮らす良い面として答えている。

一方、鳥取県に暮らしていて良いと感じない(そう思わない)項目は、上位項目では「生活するにあたり、公共交通機関が整っている」が61.2%で最も割合が高く、次いで「地域の防災組織が整っている」が17.9%、「子どもの教育環境が充実している」が16.8%となっている。

令和元年度-6年度を比較してみると、「豊かな自然環境に恵まれている」は、よく感じる(そう思う)との回答が全ての年度で約9割、「住んでいる住民(県民)が親切である」は全ての年度で5割台、「地域の治安が良いと感じている」は全ての年度で6割台となっている。また「地域の治安が良いと感じている」「ストレスなく日常生活を送ることができている」は、令和5、6年度は割合が微増している。

図7 鳥取県の暮らしについて(n=1,638)

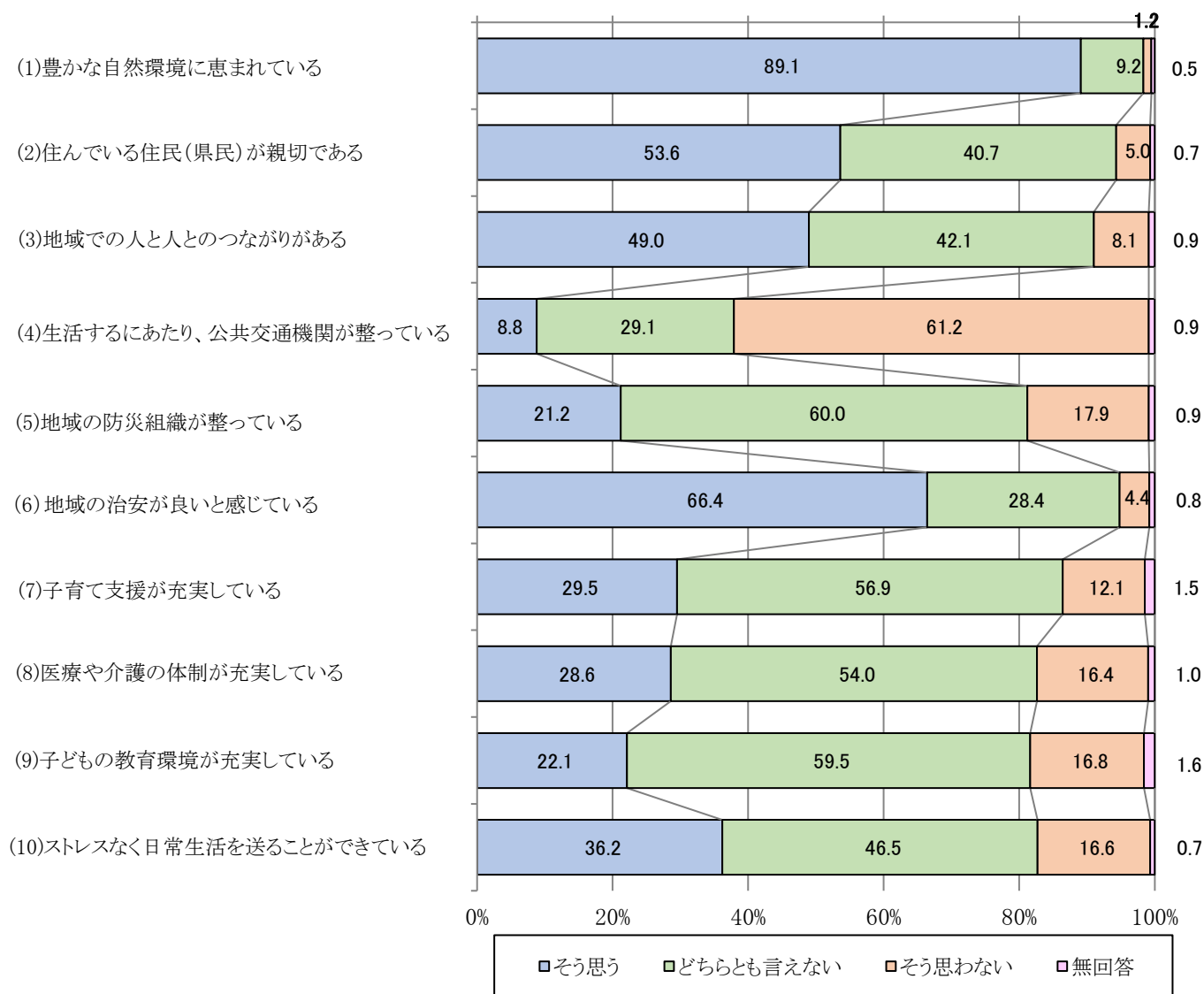
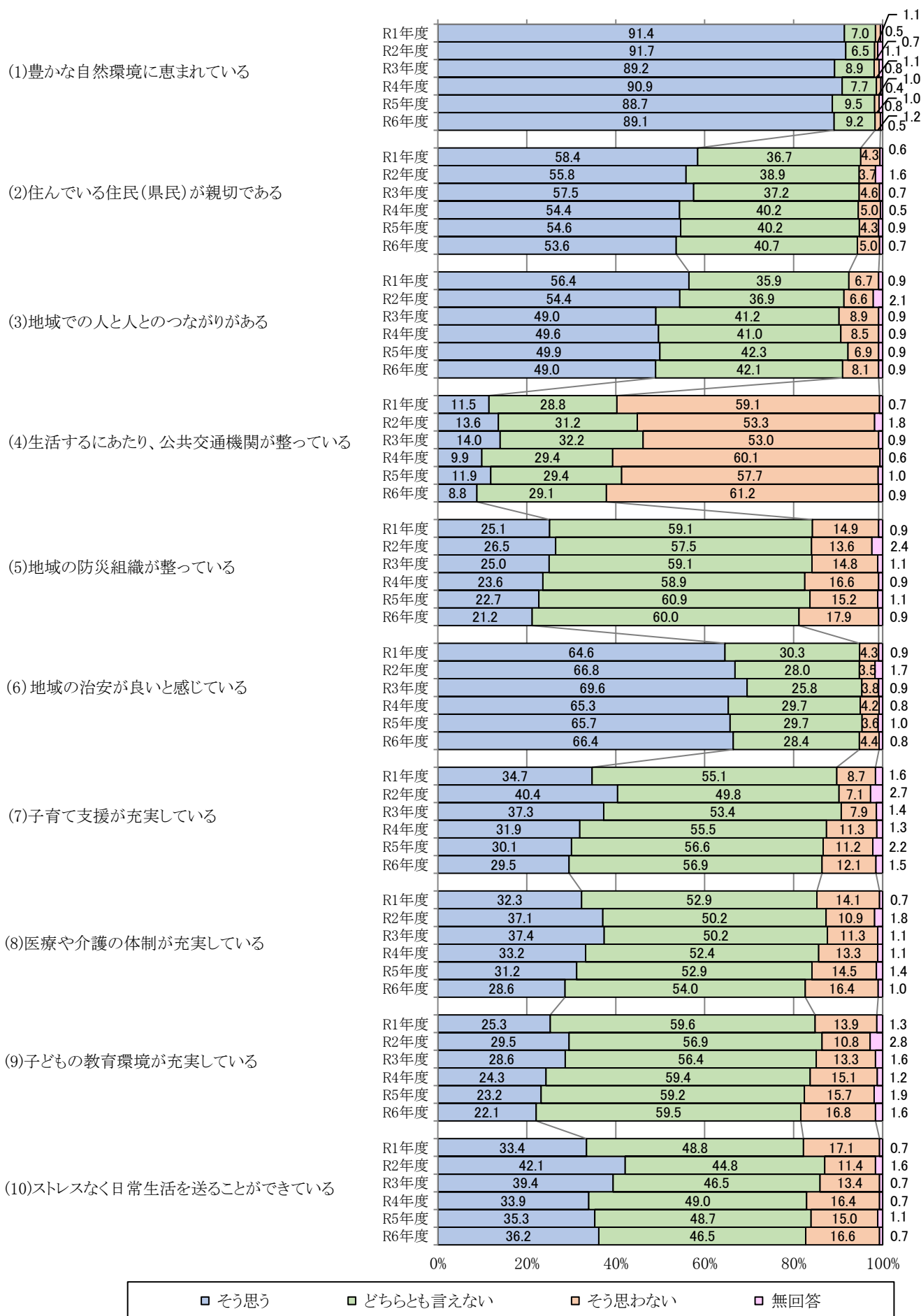


図8 鳥取県の暮らしについて(年次比較)



問4 鳥取県に暮らしていて、あなたは今の程度「幸せ」ですか。

～5点「普通」から10点「とても幸せ」が約9割～

幸福度について10点満点で質問したところ、5点「普通」が29.7%と最も割合が高く、8点が20.2%、7点が18.4%、6点が12.1%と続き、5点「普通」以上と回答した割合は90.4%となっている。

性・年代別でみると、幸福度5点以上は男性の20歳代と60歳代、女性の50歳代以上で高く、一方男性の30歳代は他の年代と比べて低くなっている。

図9 鳥取県に暮らしていて、あなたは今の程度「幸せ」ですか(年次比較)

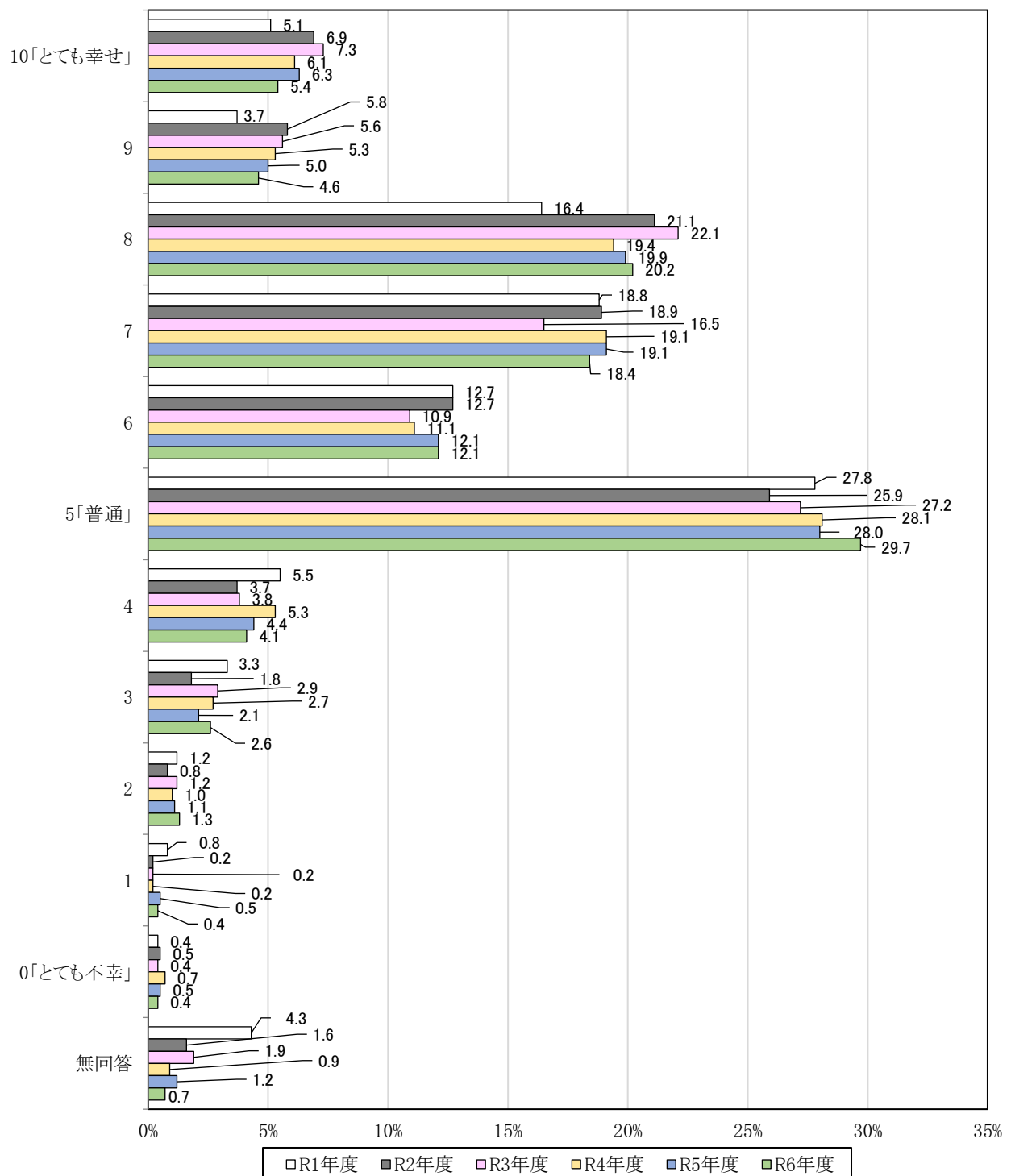
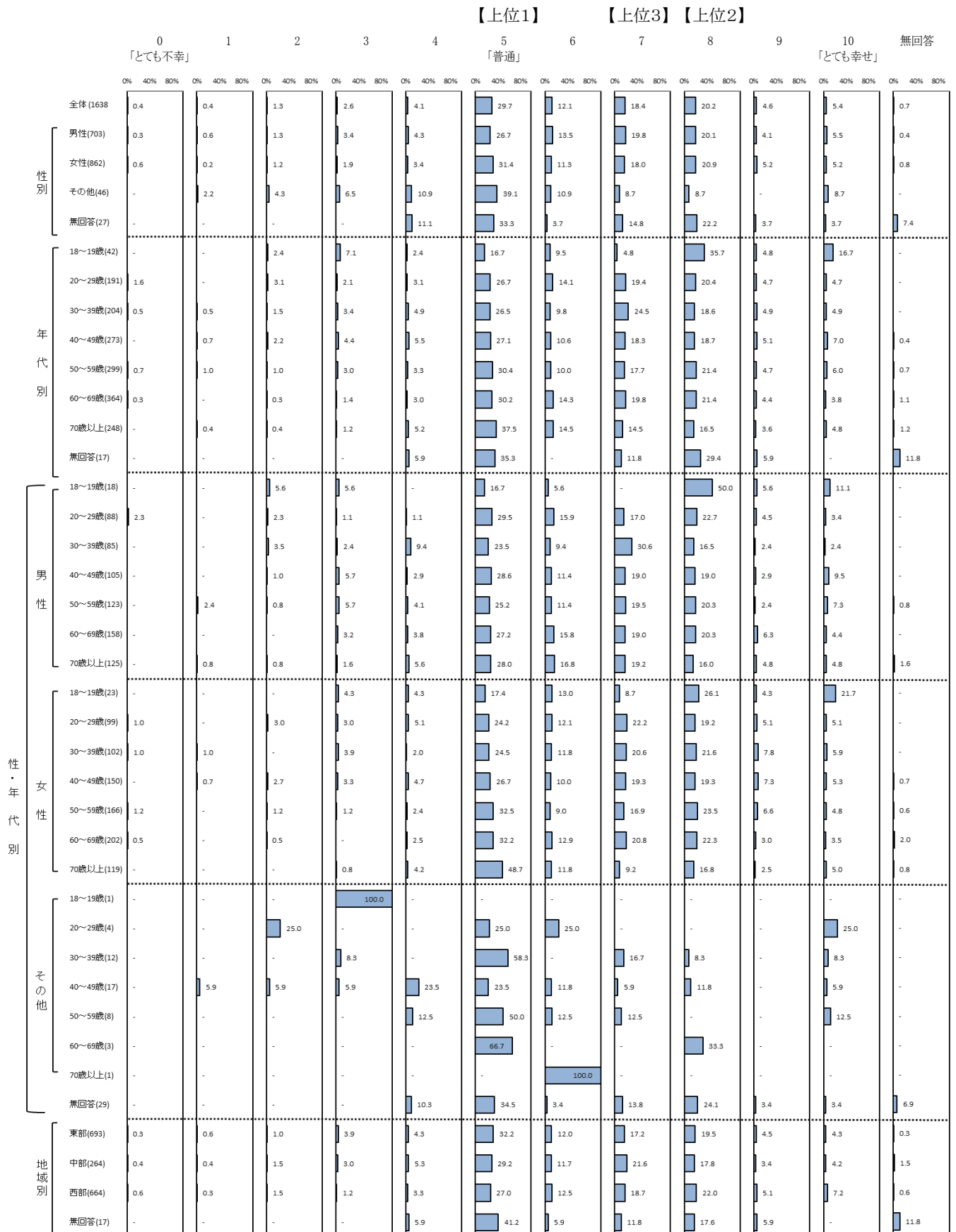


図 10 鳥取県に暮らしていて、「幸せ」ですか(性別・年代別・地域別)



問5 あなたの「幸福度」を判断するときに、あなたが重視することは何ですか。(〇はいくつでも)

～「家計の状況」「自身の健康の状況」「家族関係」を重視～

幸福度を判断するときに重視することは、「家計の状況」が67.9%と最も割合が高く、次いで「自身の健康の状況」が67.0%、「家族関係」が56.8%、「精神的なゆとり」が56.3%となっている。

令和元年度-6年度を比較してみると、上位3項目は常に「家計の状況」、「自身の健康の状況」、「家族関係」となっている。

年代別でみると、「家計の状況」は40～50歳代、「自身の健康の状況」は60歳代以上、「自由な時間(充実した余暇)」「趣味などのいきがい」「友人関係」は30歳代以下が高くなっている。

性・年代別でみると、「家計の状況」「家族関係」は女性の30～40歳代、「精神的なゆとり」は女性の30歳代が高くなっている。

問11 「幸福度」の判断で重視することは(年次比較)

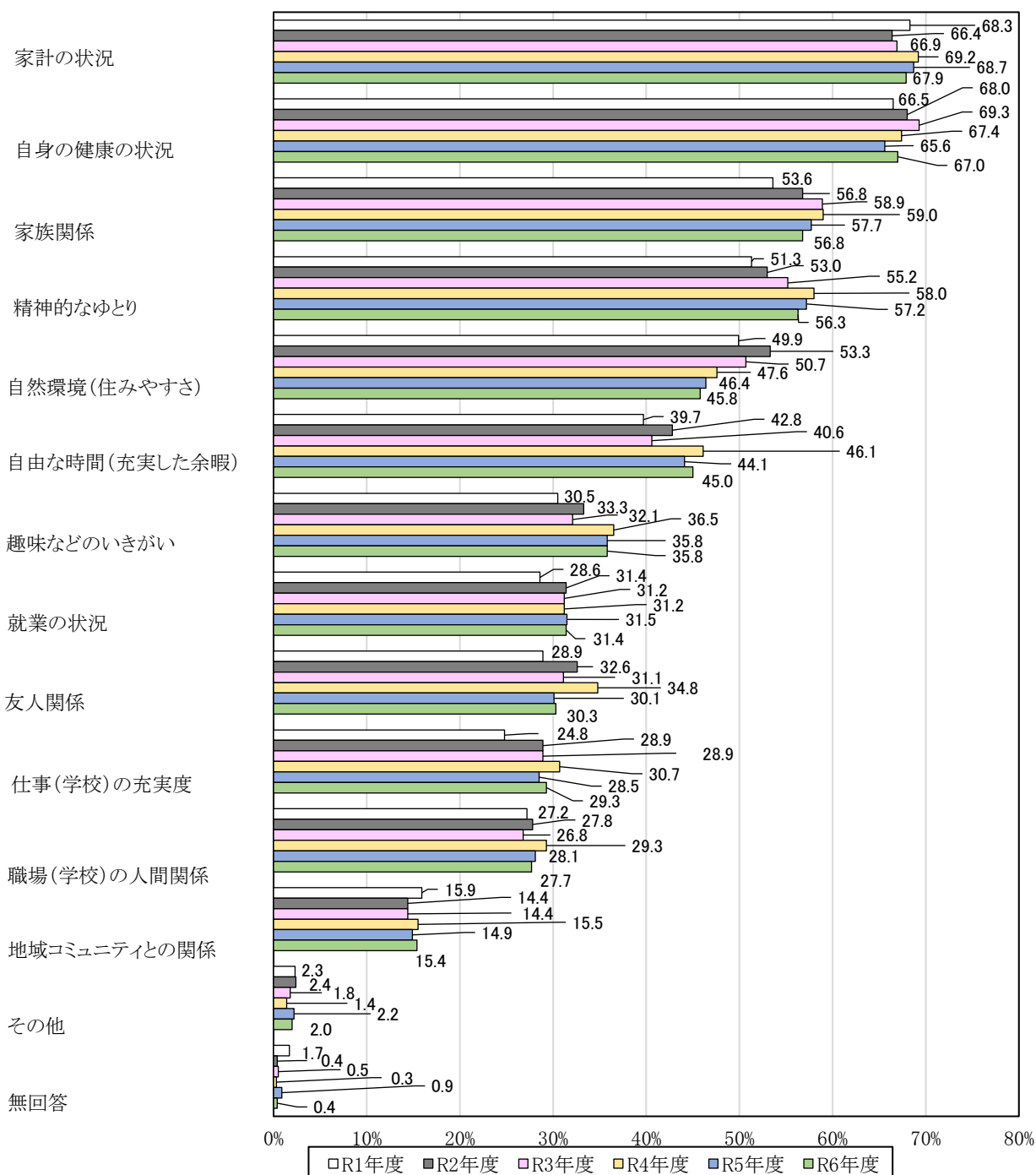
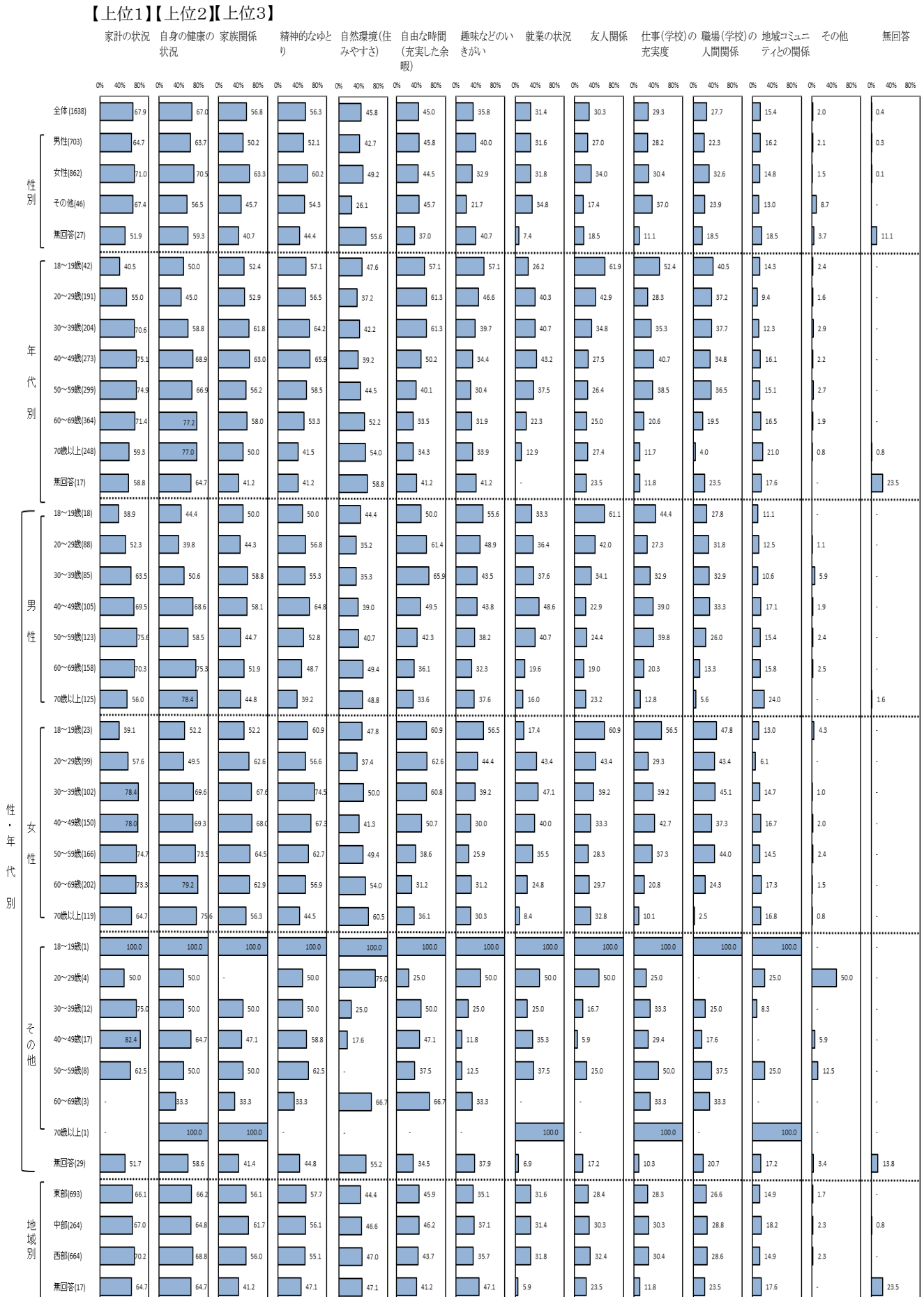


図 12 「幸福度」の判断で重視すること(性別・年代別・地域別)



II 鳥取県の施策の満足度と今後の優先度について

1 豊かな自然でのびのび鳥取らしく生きる

問6 鳥取県の施策等について、あなたの満足度をお聞きますので、それぞれ5段階で評価をお願いします。(1~5のいずれかの数字に○をしてください。)

※「5」は満足、「1」は不満

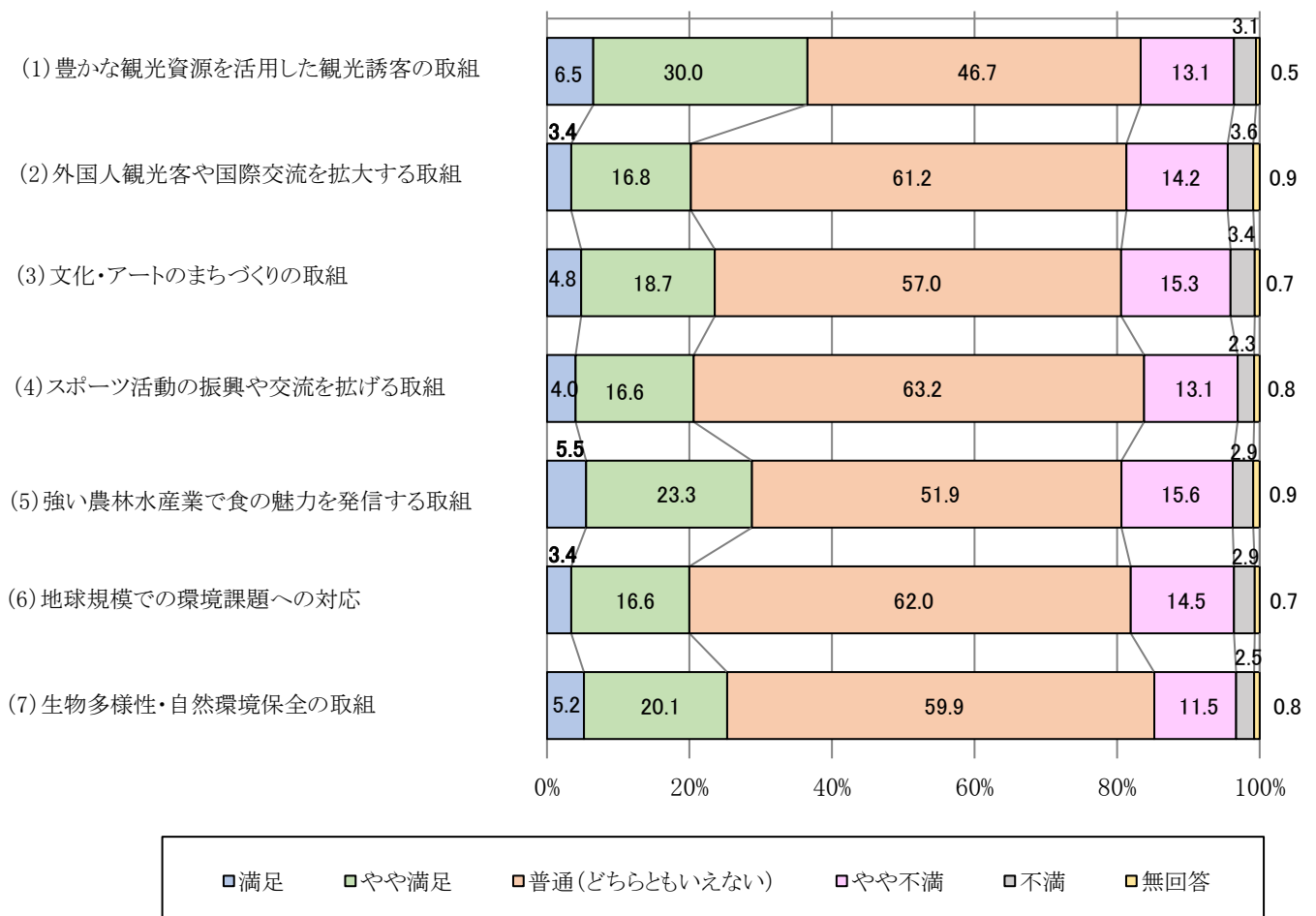
問 6-1 「豊かな自然でのびのび鳥取らしく生きる」取組の満足度

～「豊かな観光資源を活用した観光誘客の取組」の満足度がトップ～

「豊かな自然でのびのび鳥取らしく生きる」の取組の満足度(満足・やや満足の計)は、「豊かな観光資源を活用した観光誘客の取組」が36.5%と最も割合が高く、次いで「強い農林水産で食の魅力を発信する取組」が28.8%、「生物多様性・自然環境保全の取組」が25.3%と続いている。

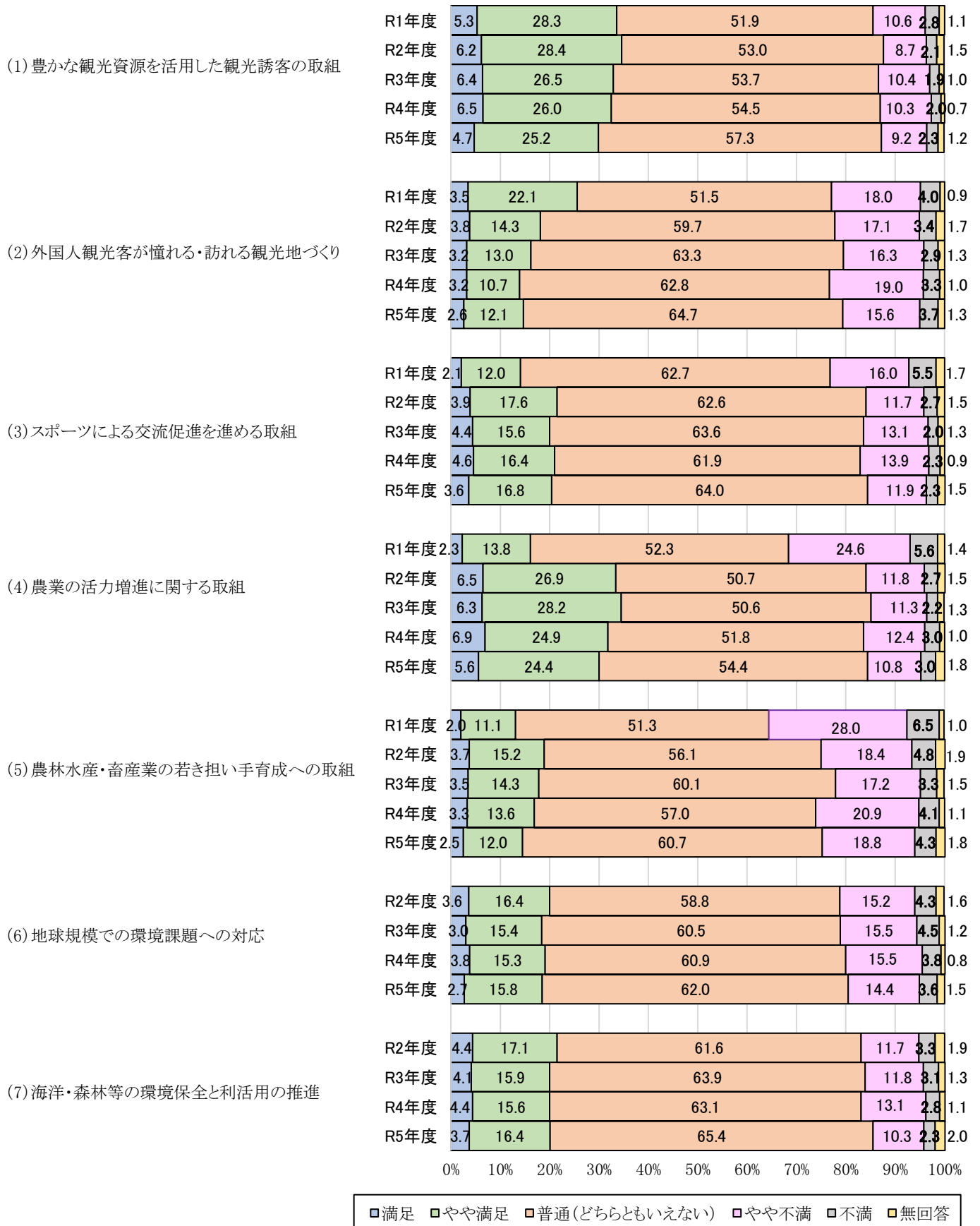
令和元年度-6年度を比較してみると、「豊かな観光資源を活用した観光誘客の取組」の満足度が令和3年度以降微減傾向であったのが、令和6年度は前年度と比べて6.6ポイント増加しており、「外国人観光客や国際交流を拡大する取組」についても、前年度の類似の項目である「外国人観光客があこがれる・訪れる観光地づくり」と比べて、5.5ポイント高くなっている。

図13 豊かな自然でのびのび鳥取らしく生きる



(参考)

図 14 「豊かな自然でのびのび鳥取らしく生きる」取組の満足度(令和元年～5年度)



※「アート・文化による地域づくりへの取組」の満足度は 30 ページに掲載

問 6-1-2 「豊かな自然でのびのび鳥取らしく生きる」の施策等のうち、あなたが今後優先すべき(重要度が高い)と思う項目を3つお選びください。

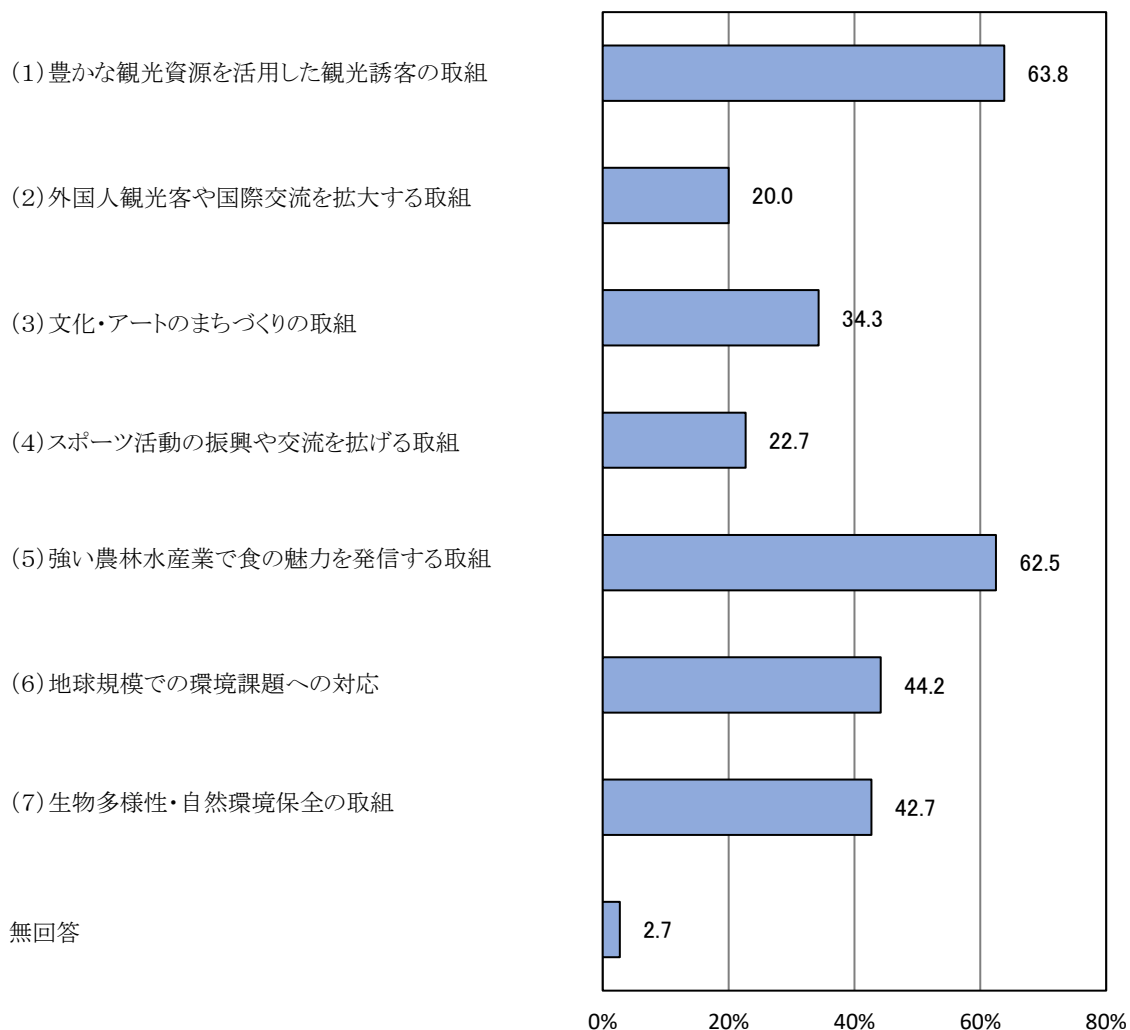
～観光資源を活用した誘客、農林水産による食の魅力発信の取組が上位～

今後優先すべき重要度の高い項目は、「豊かな観光資源を活用した観光誘客の取組」が63.8%と最も高く、次いで「強い農林水産業で食の魅力発信する取組」が62.5%、「地球規模での環境課題への対応」が44.2%と続いている。

「豊かな観光資源を活用した観光誘客の取組」は、年代別で見ると年代が若いほど高く、性・年代別で見ると、女性の20歳代で高くなっている。

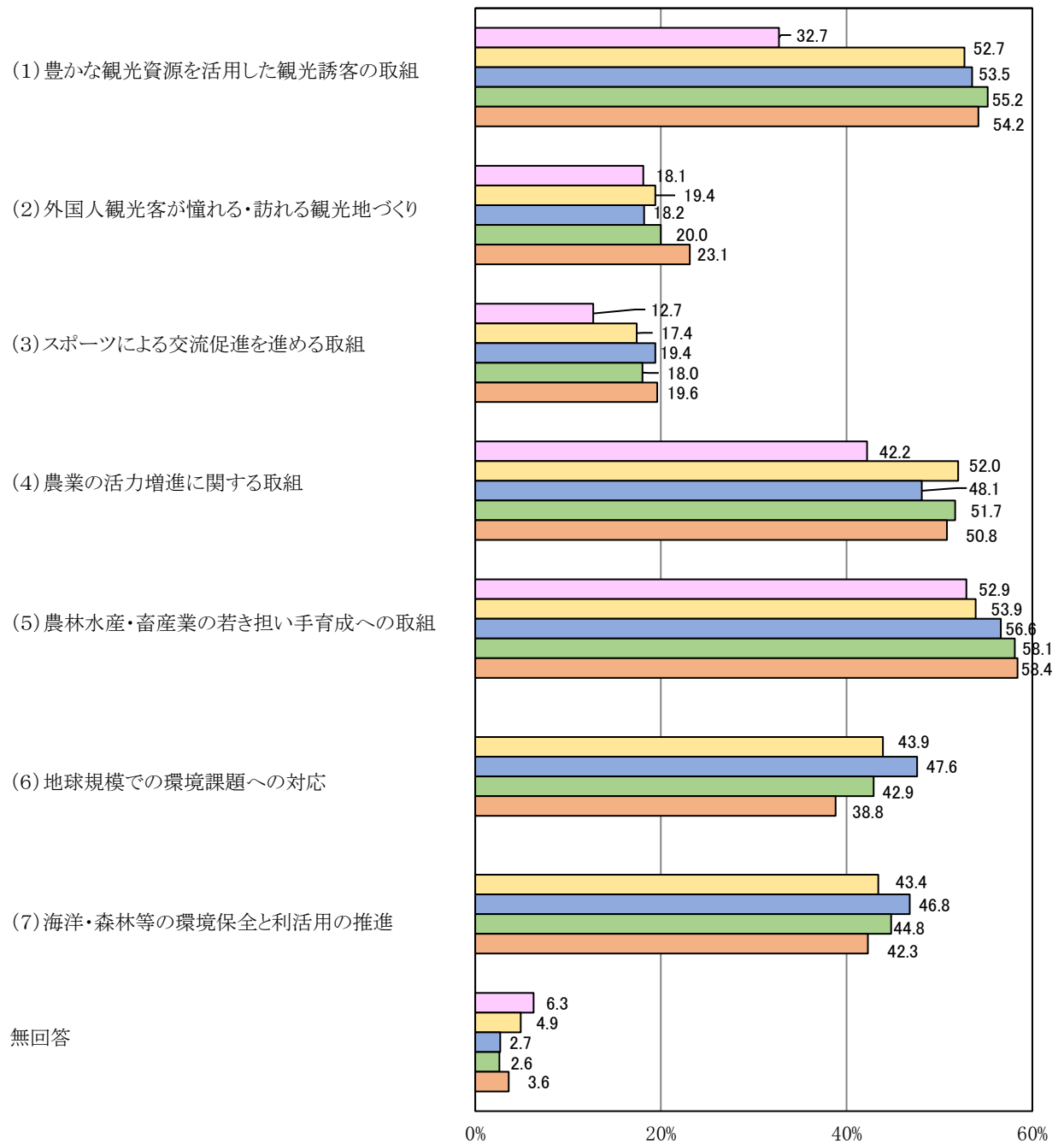
性・年代別で見ると、「強い農林水産業で食の魅力発信する取組」は男性の20歳代、60歳代、女性の30歳代、「地球規模での環境課題への対応」は女性の50歳代以上で高くなっている。

図15 豊かな自然でのびのび鳥取らしく生きる項目のうち今後優先すべき(重要度が高い)項目(3つまで)



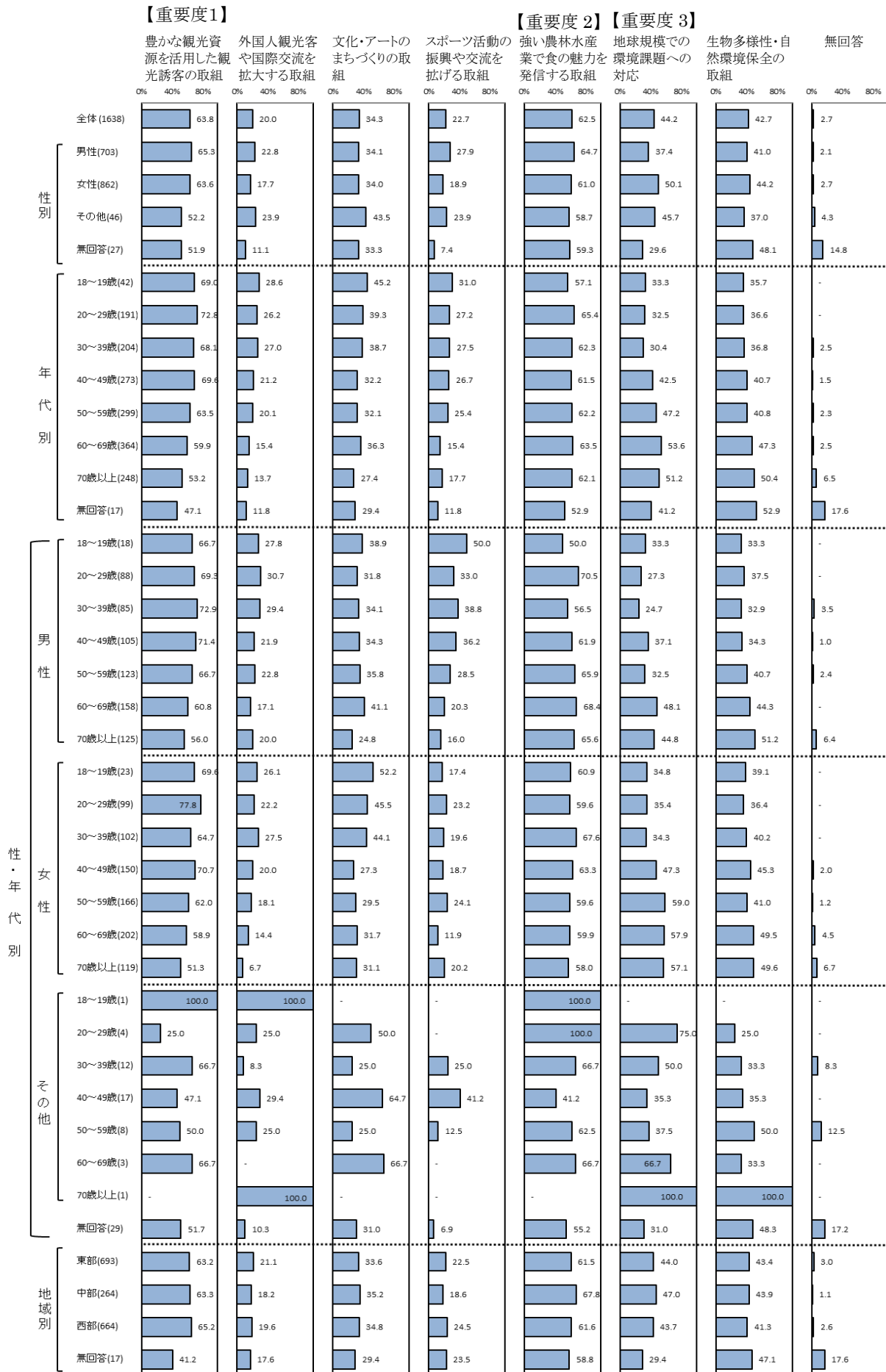
(参考)

図16 「豊かな自然でのびのび鳥取らしく生きる」取組の重要度(令和元年～5年度)



□R1年度調査(n=1,500) □R2年度調査(n=1,642) □R3年度調査(n=1,644) □R4年度調査(n=1,760) □R5年度調査(n=1,706)

図 17 「豊かな自然でのびのび鳥取らしく生きる」取組の重要度(性別・年代別・地域別)



2 人々の絆が結ばれた鳥取のまちに住む

問 6-2 「人々の絆が結ばれた鳥取のまちに住む」取組の満足度

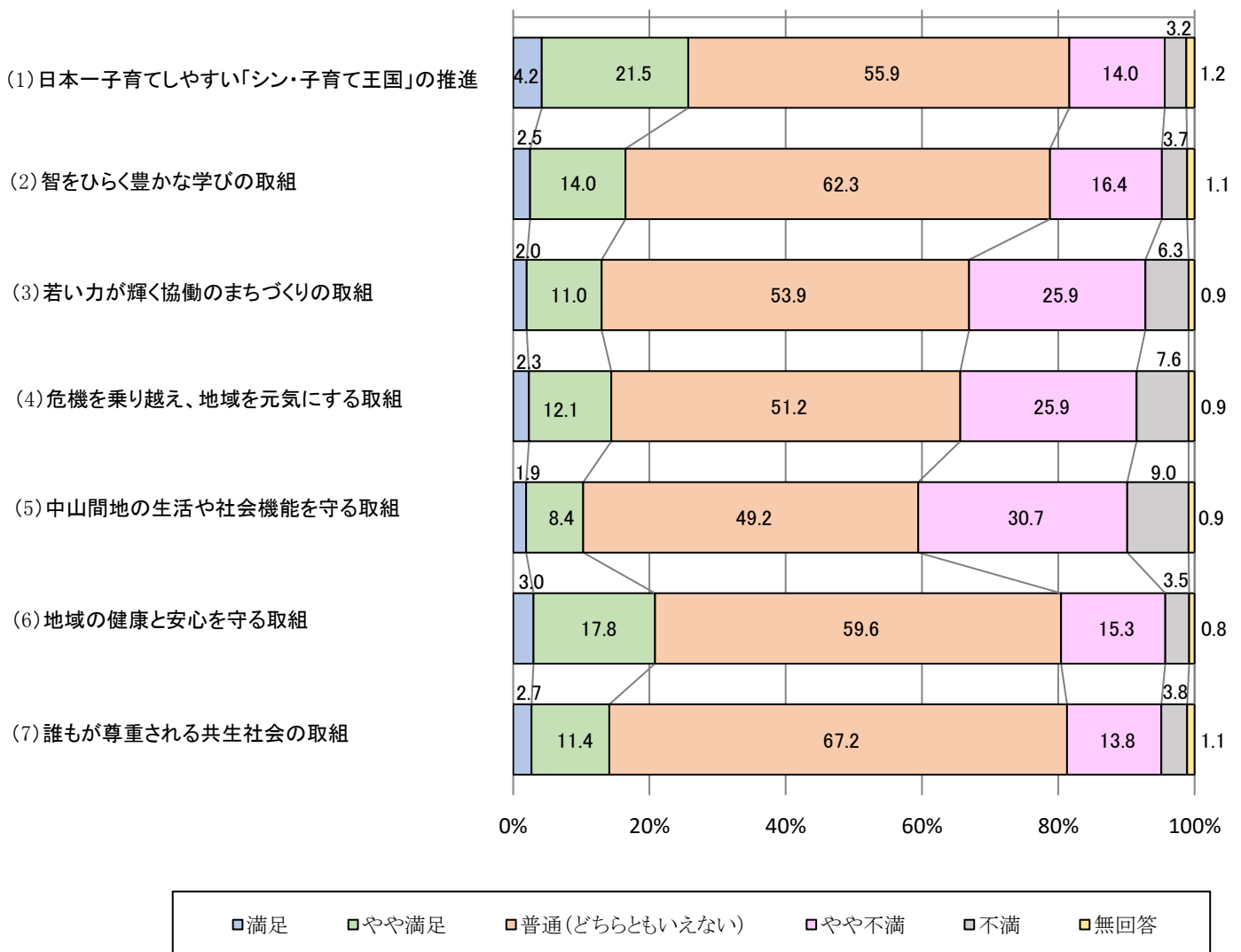
～「日本一子育てしやすい『シン・子育て王国』の推進」の満足度が高い～

「人々の絆が結ばれた鳥取のまちに住む」の取組の満足度(満足・やや満足の計)は、「日本一子育てしやすい『シン・子育て王国』の推進」が 25.7%と最も高く、次いで「地域の健康と安心を守る取組」が 20.8%、「智をひらく豊かな学びの取組」が 16.5%となっている。

また、「日本一子育てしやすい『シン・子育て王国』の推進」の満足度は、前年度の類似の項目である「結婚・出産・子育ての希望を叶える取組」「地域で子育て世代を支える取組」と比べて、5ポイント以上高くなっている。

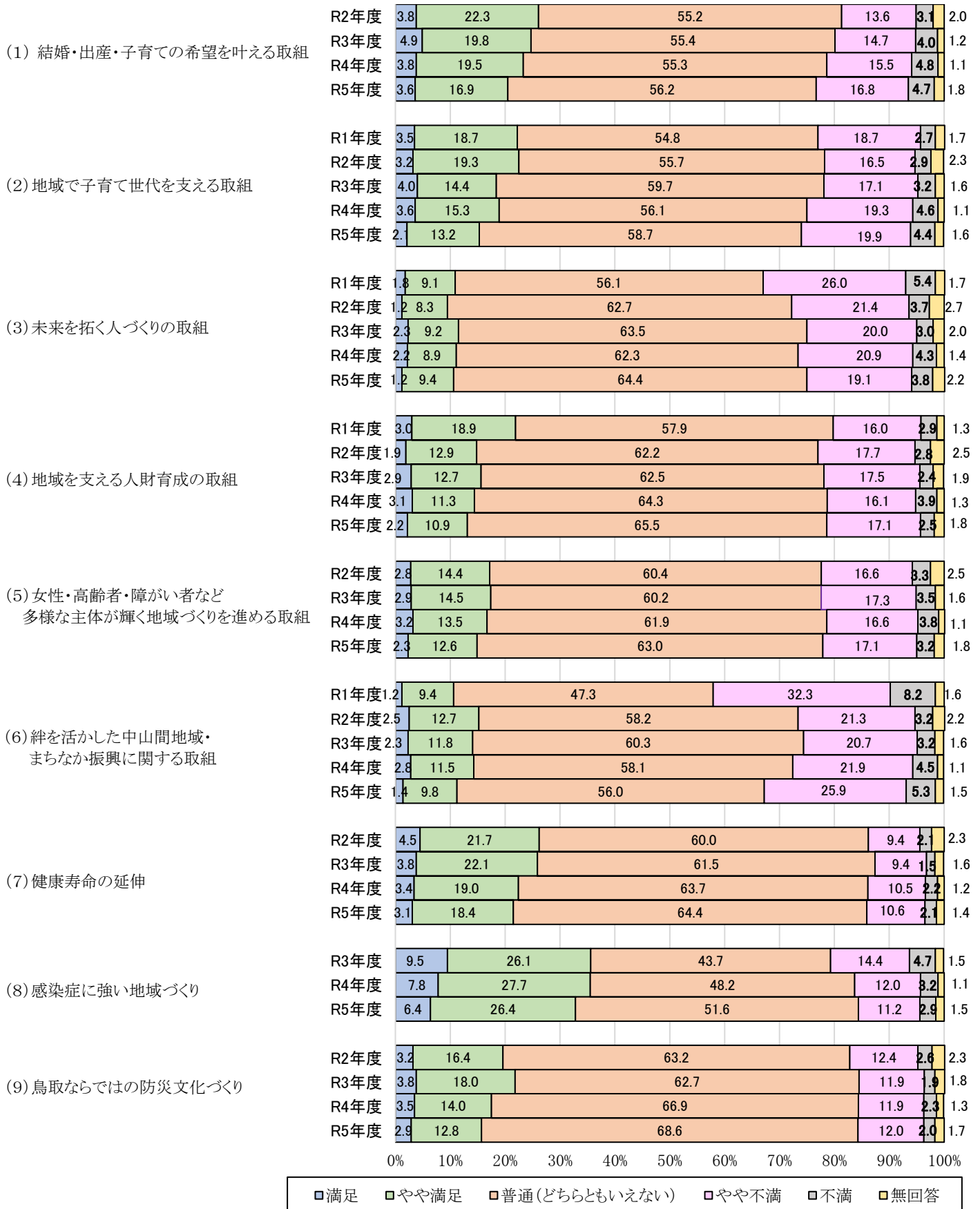
一方、不満(不満・やや不満の合計)については、「中山間地の生活や社会機能を守る取組」が 39.7%と最も高く、約4割が不満を感じている。

図18 人々の絆が結ばれた鳥取のまちに住む



(参考)

図 19 「人々の絆が結ばれた鳥取のまちに住む」取組の満足度(令和元年～5年度)



問 6-2-2 「人々の絆が結ばれた鳥取のまちに住む」の施策のうち、今後優先すべき(重要度が高い)と思う項目を3つお選びください。

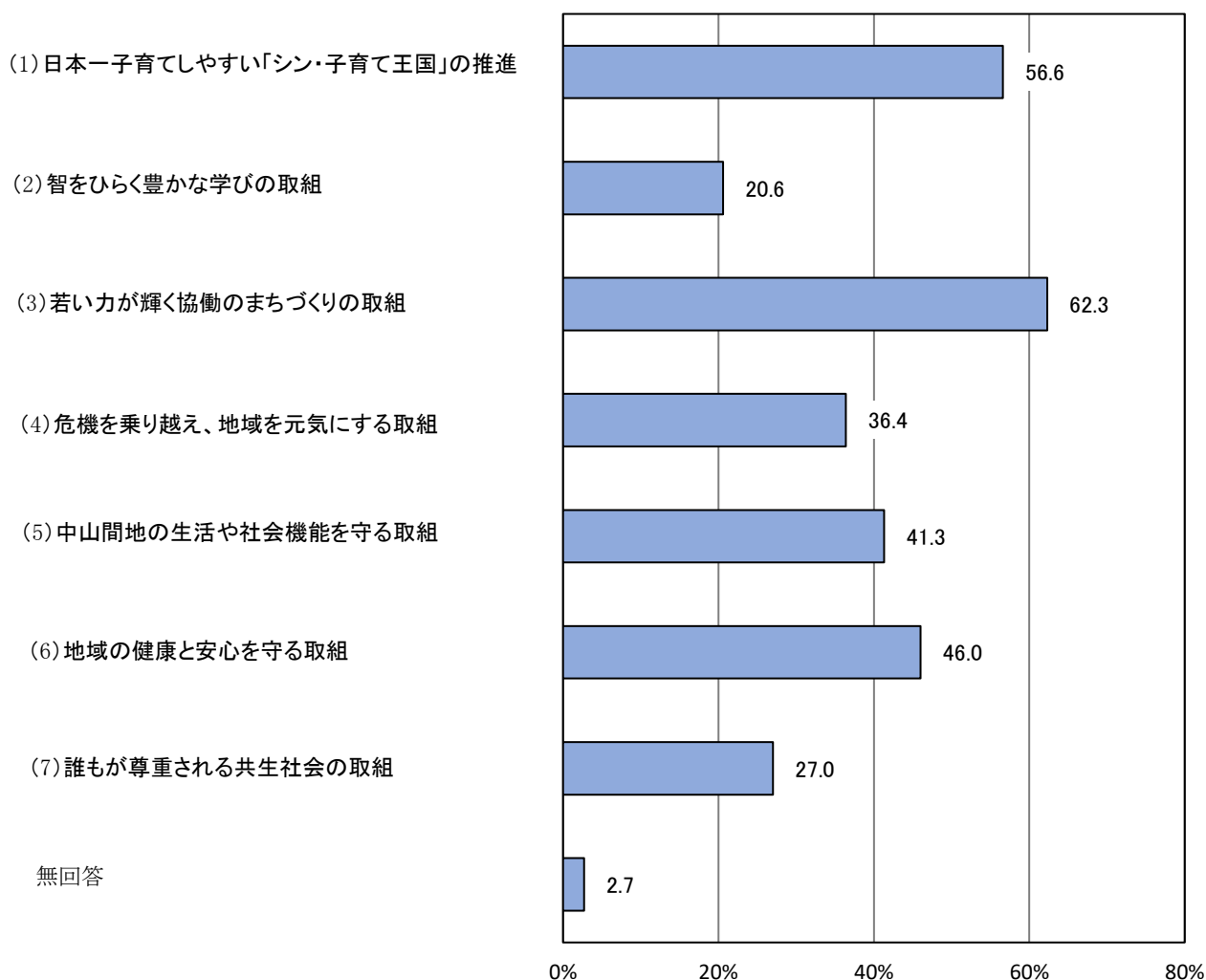
～「若い力が輝く協働のまちづくり」「『シン・子育て王国』の推進」「地域の健康と安心」の取組が上位～

今後優先すべき重要度の高い項目は、「若い力が輝く協働のまちづくりの取組」が62.3%と最も高く、次いで「日本一子育てしやすい『シン・子育て王国』の推進」が56.6%、「地域の健康と安心を守る取組」が46.0%となっている。

年代別でみると、「若い力が輝く協働のまちづくり」は20歳代以下、40歳代で高くなっている。

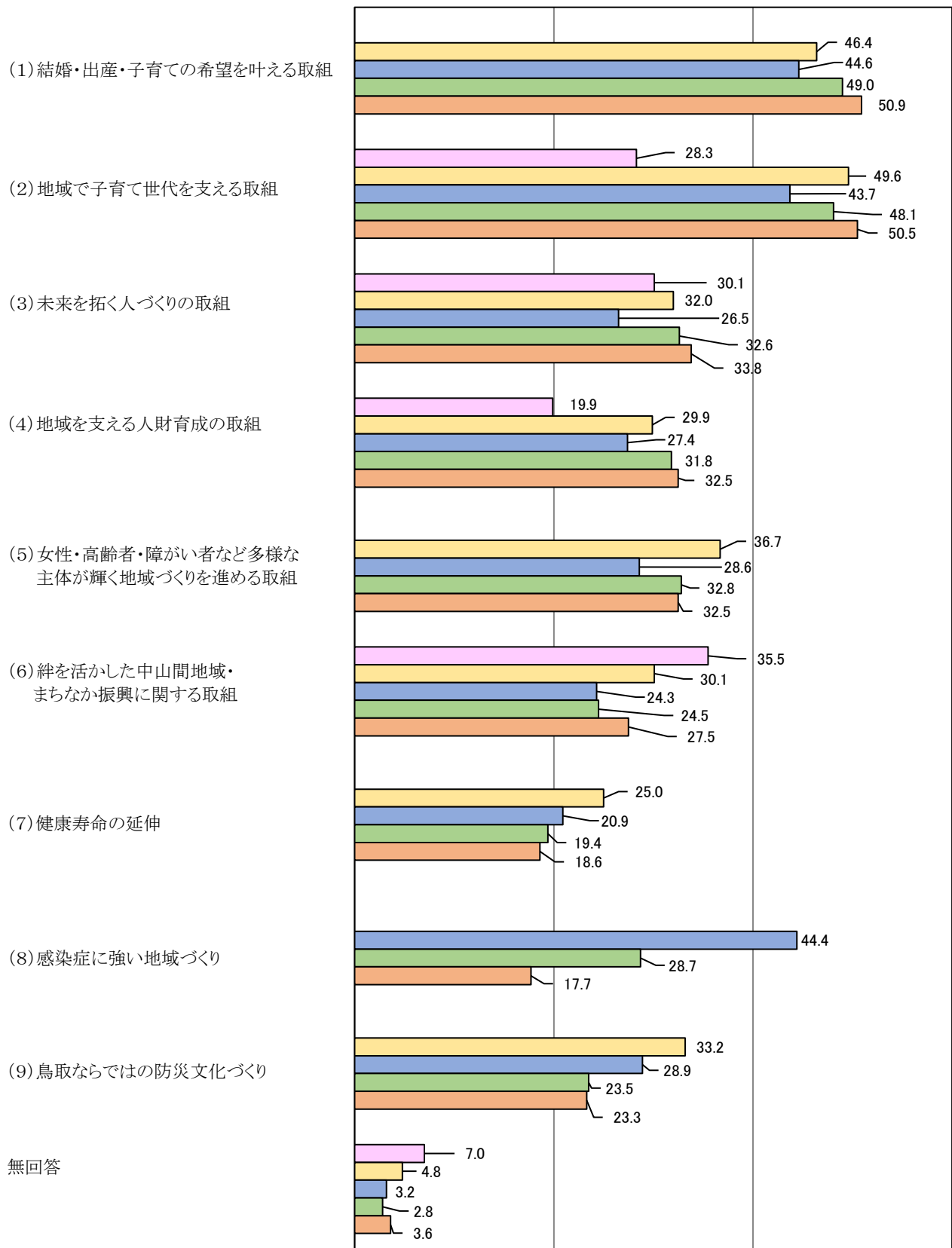
性・年代別でみると、「日本一子育てしやすい『シン・子育て王国』の推進」は女性の20～30歳代、「地域の健康と安心を守る取組」は女性の50～60歳代、「中山間地の生活や社会機能を守る取組」は男性の60歳代で高くなっている。

図20 人々の絆が結ばれた鳥取のまちに住む項目のうち今後優先すべき(重要度が高い)項目(3つまで)



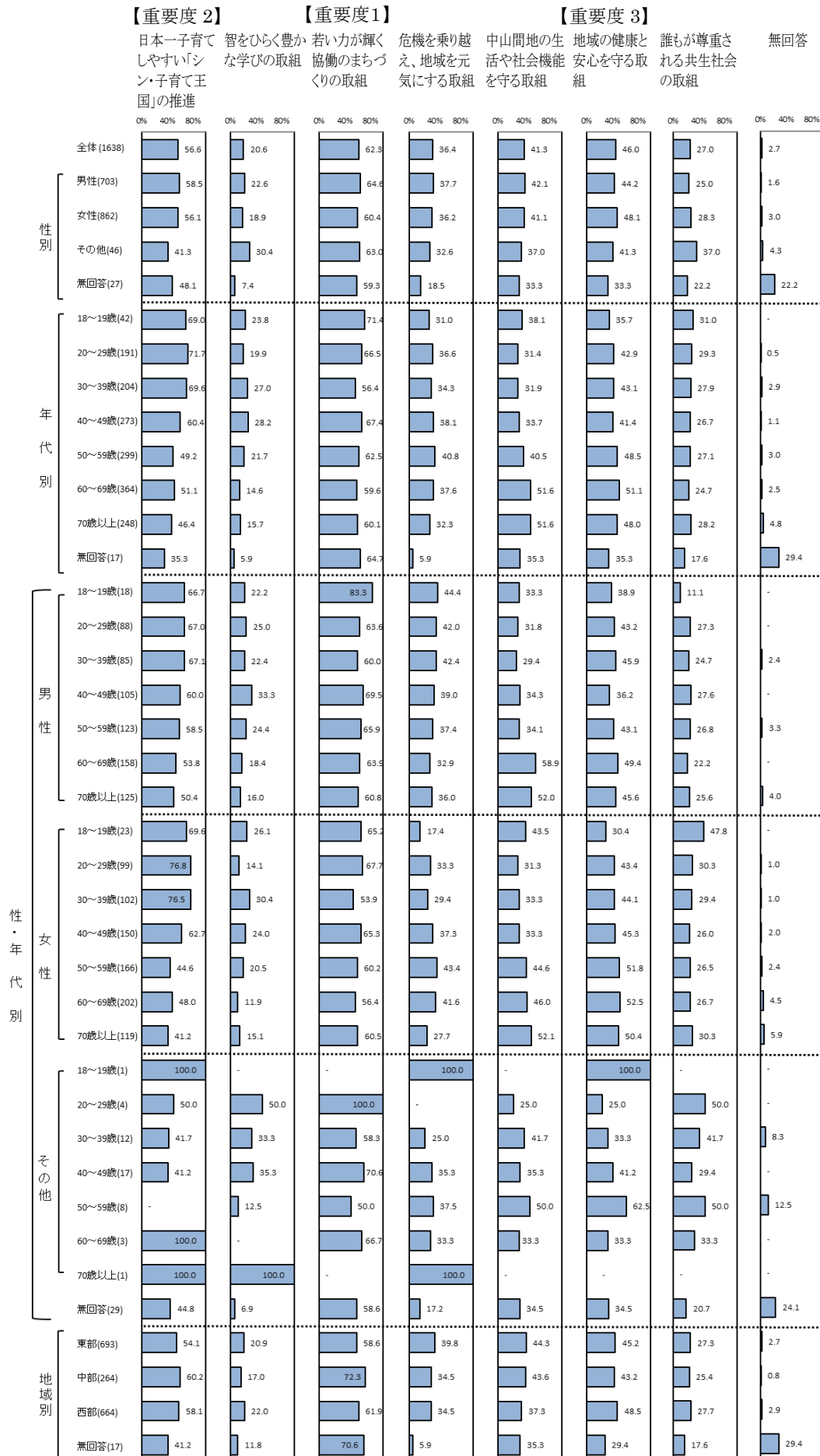
(参考)

図21 「人々の絆が結ばれた鳥取のまちに住む」取組の重要度(令和元年～5年度)



□R1年度調査(n=1,500) □R2年度調査(n=1,642) □R3年度調査(n=1,644) □R4年度調査(n=1,760) □R5年度調査(n=1,706)

図 22 「人々の絆が結ばれた鳥取のまちに住む」取組の重要度(性別・年代別・地域別)



3 幸せを感じながら鳥取の時を楽しむ

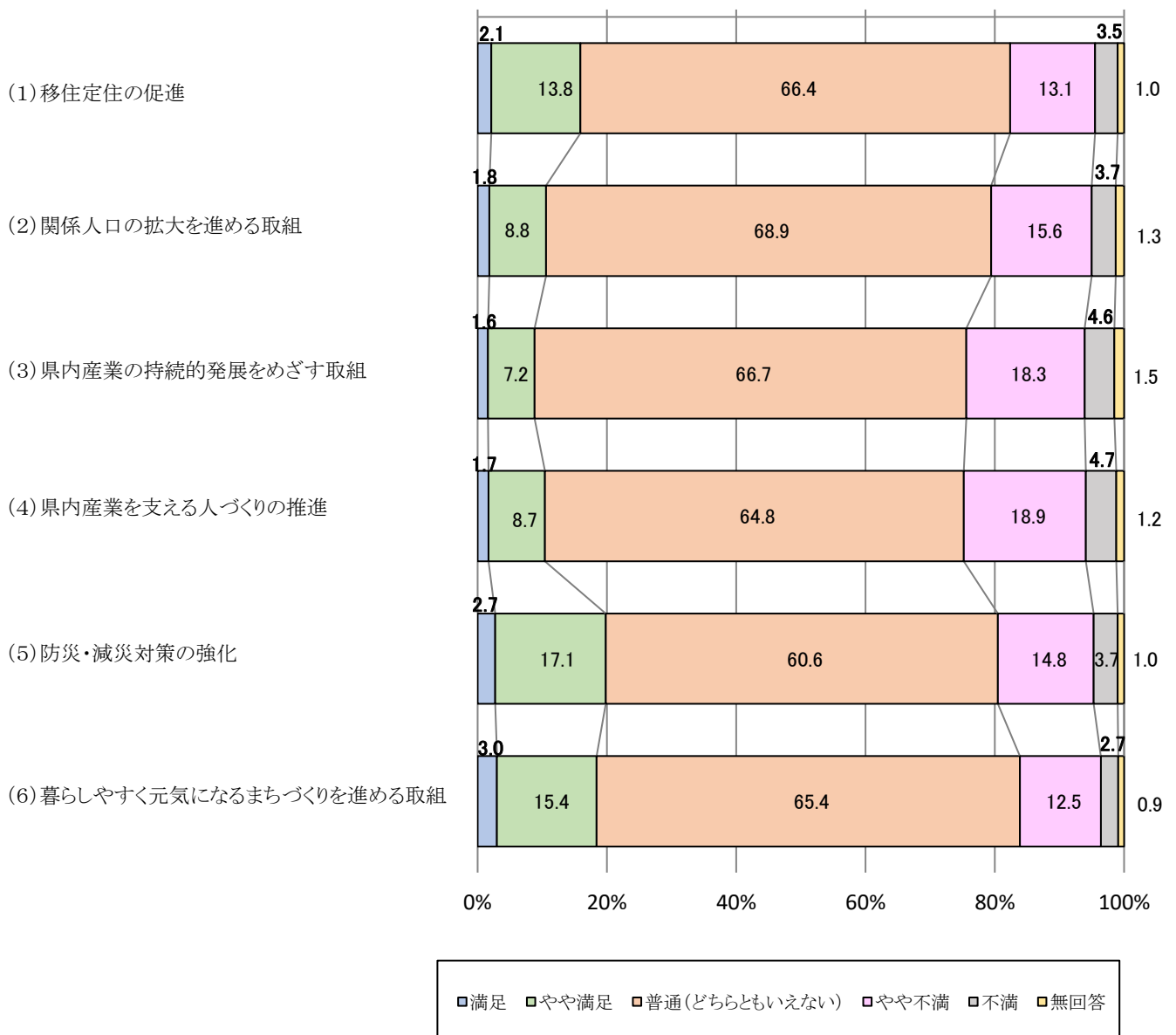
問 6-3 「幸せを感じながら鳥取の時を楽しむ」取組の満足度

～「防災・減災対策の強化」「暮らしやすく元気になるまちづくり」「移住定住の促進」の取組が上位～

「幸せを感じながら鳥取の時を楽しむ」ための取組の満足度(満足・やや満足の計)は、「防災・減災対策の強化」が19.8%と最も高く、次いで「暮らしやすく元気になるまちづくりを進める取組」が18.4%、「移住定住の促進」が15.9%となっている。

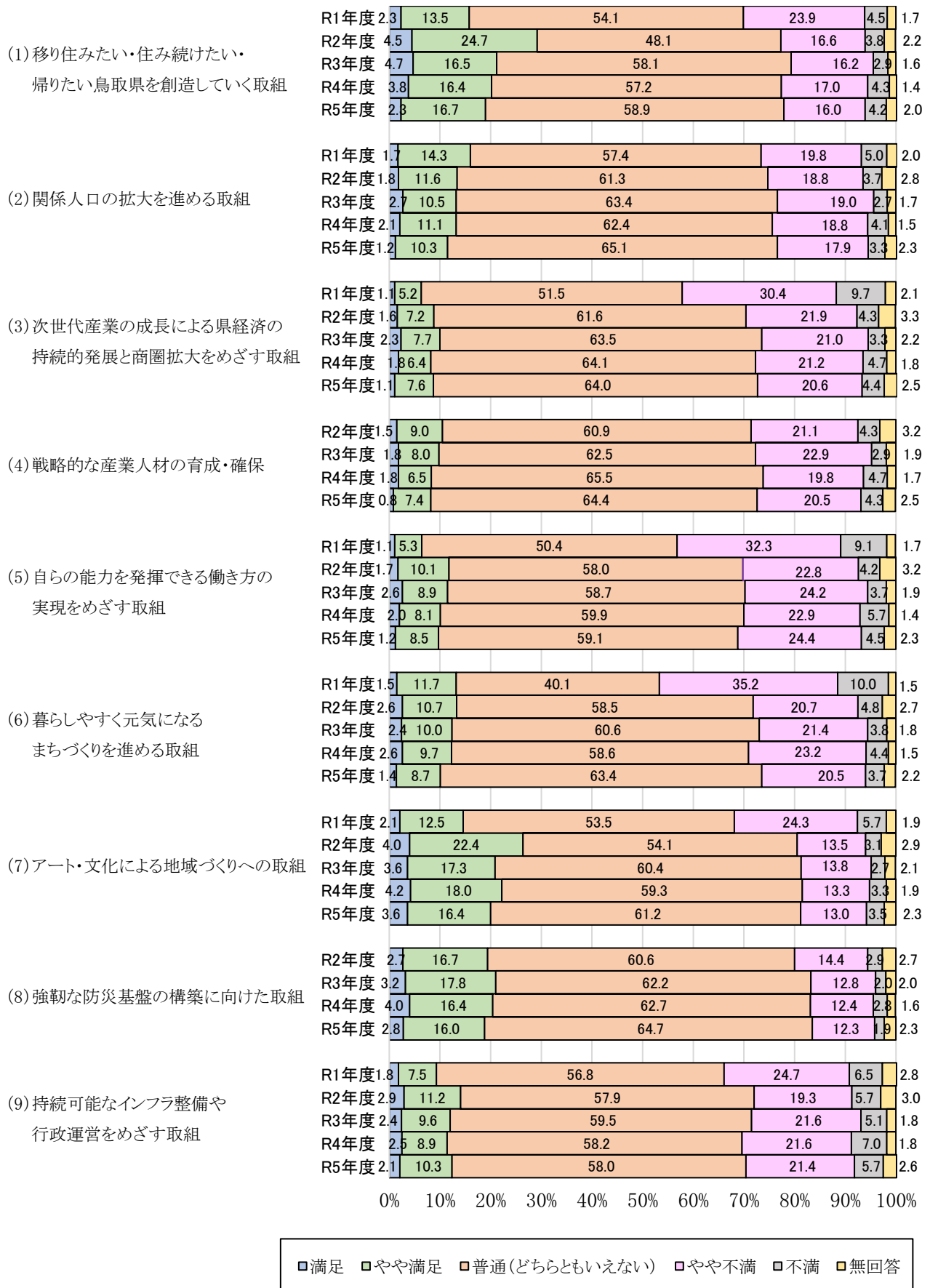
前年度と比較してみると、「暮らしやすく元気になるまちづくりの取組」の満足度が、8.3ポイント増加している。

図23 幸せを感じながら鳥取の時を楽しむ



(参考)

図 24 「幸せを感じながら鳥取の時を楽しむ」取組の満足度(令和元年～5年度)



問 6-3-2 「幸せを感じながら鳥取の時を楽しむ」の施策等のうち、今後優先すべき(重要度が高い)と思う項目を3つお選びください。

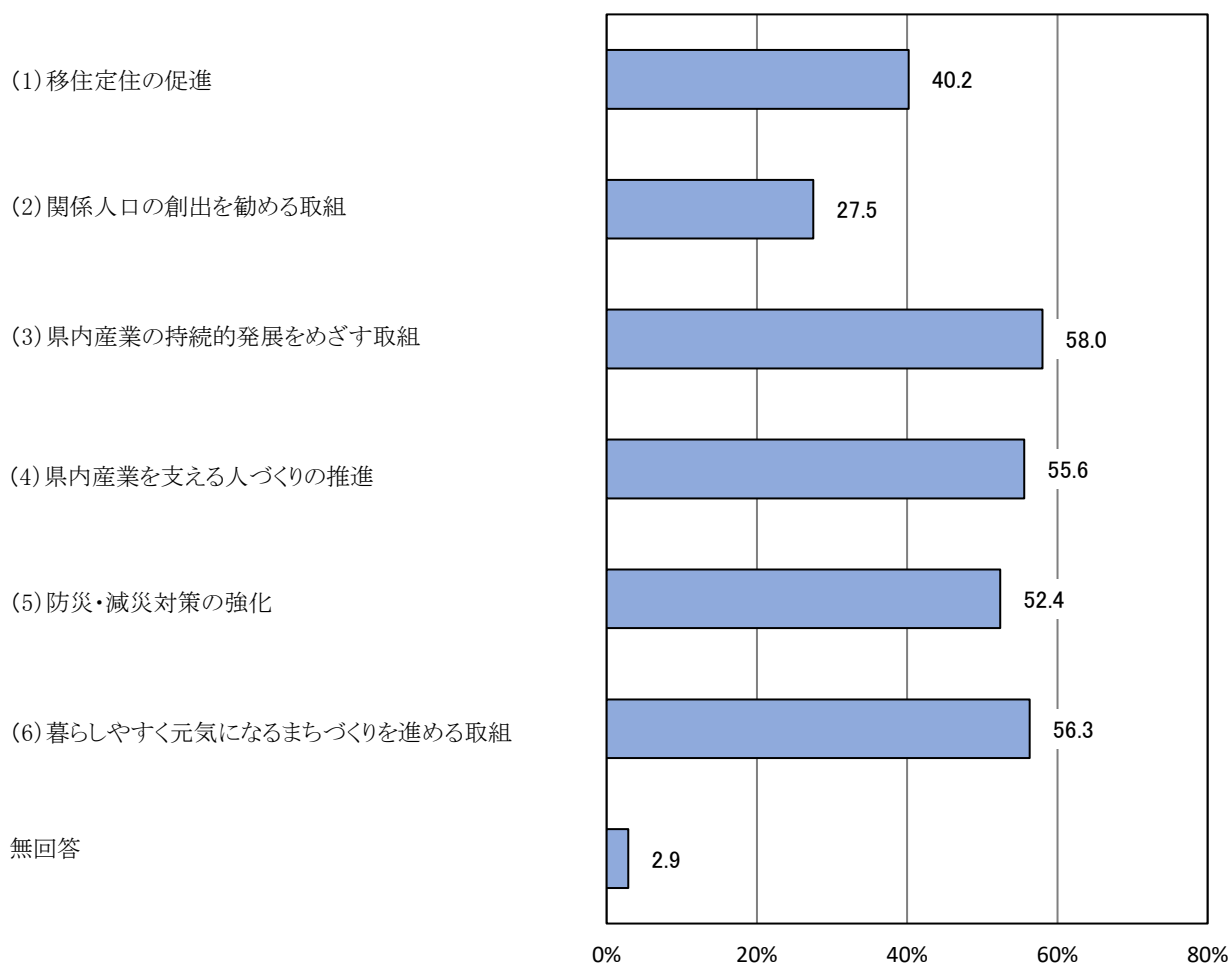
～県内産業の持続的発展・暮らしやすく元気になるまちづくり・県内産業を支える人づくりの推進の取り組みが上位～

今後優先すべき重要度の高い項目は、「県内産業の持続的発展をめざす取組」が58.0%と最も高く、次いで「暮らしやすく元気になるまちづくりを進める取組」が56.3%、「県内産業を支える人づくりの推進」が55.6%となっている。

年代別で見ると、「県内産業の持続的発展をめざす取組」「県内産業を支える人づくりの推進」は50～60歳代で高く、「暮らしやすく元気になるまちづくりを進める取組」は20歳代が他の年代と比べて約10ポイント高くなっている。

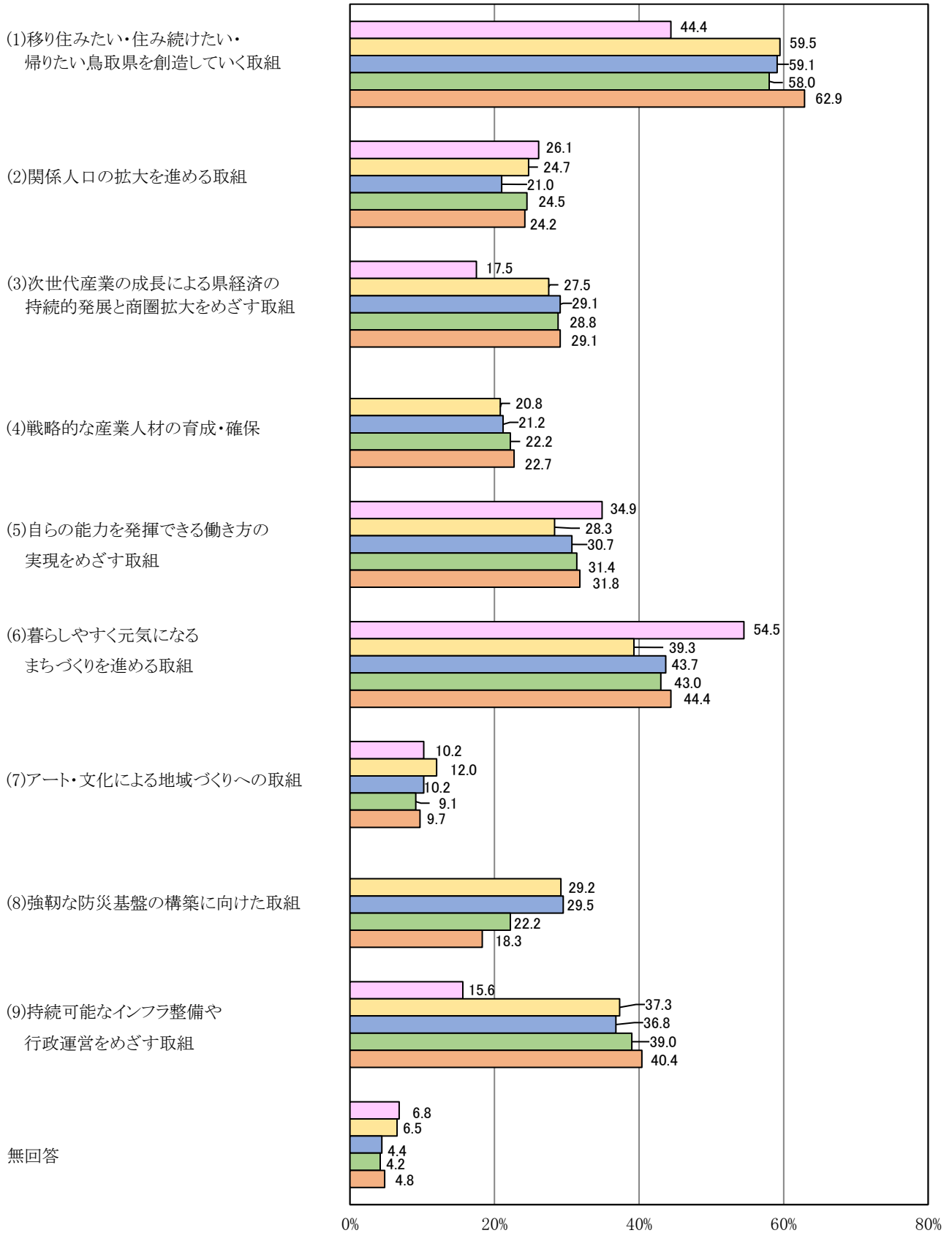
性・年代別で見ると、「県内産業の持続的発展をめざす取組」は男性の50歳代以上、「県内産業を支える人づくりの推進」は男性の50～60歳代、「暮らしやすく元気になるまちづくりを進める取組」は女性の20歳代で高くなっている。「防災・減災対策の強化」は、全ての年代で男性より女性の割合が高くなっている。

図25 幸せを感じながら鳥取の時を楽しむ項目のうち今後優先すべき(重要度が高い)項目(3つまで)



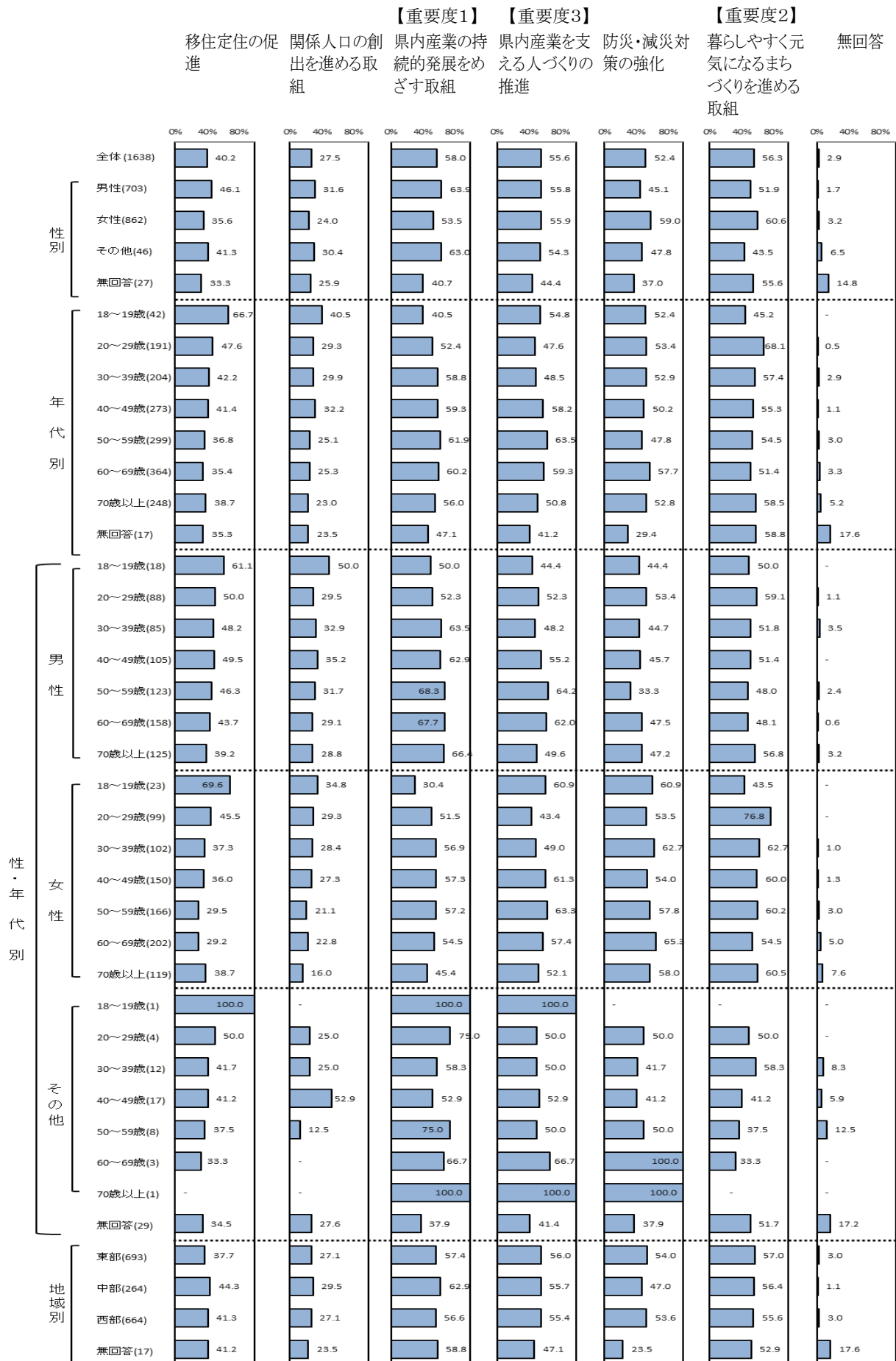
(参考)

図26 「幸せと感じながら鳥取の時を楽しむ」取組の重要度(令和元年～5年度)



□R1年度調査(n=1,500) □R2年度調査(n=1,642) □R3年度調査(n=1,644) □R4年度調査(n=1,760) □R5年度調査(n=1,706)

図 27 「幸せを感じながら鳥取の時を楽しむ」取組の重要度(性別・年代別・地域別)



4 男女共同参画社会づくり

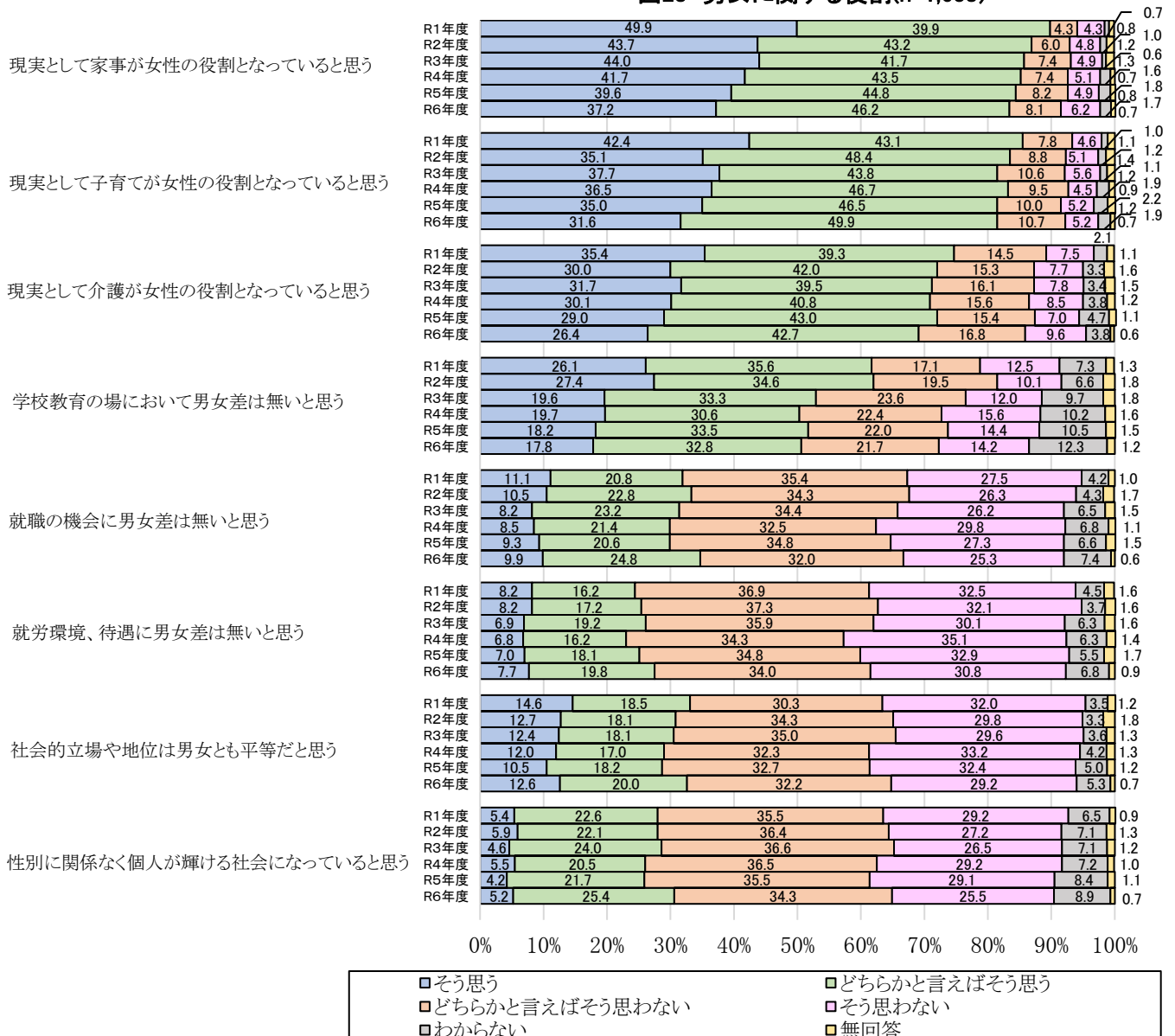
問7 男女に関する役割などについてお聞きします。次の項目(設問)についてどう思われますか。項目ごとにいずれかに○を記入してください。

～現実として「家事、子育て、介護が女性の役割」となっていると思う人が多数、就職・就労・社会での男女差は無いとの回答が増加～

男女に関する役割などについて、「そう思う」「どちらかと言えばそう思う」を合わせると、「現実として家事が女性の役割となっていると思う」が83.4%と最も高く、次いで「現実として子育てが女性の役割となっていると思う」が81.5%、「現実として介護が女性の役割となっていると思う」が69.1%となっている。

令和元年度-6年度を比較してみると、「就職の機会に男女差は無いと思う」「就労環境、待遇に男女差は無いと思う」「社会的立場や地位は男女とも平等だと思う」「性別に関係なく個人が輝ける社会になっていると思う」は「そう思う」「どちらかと言えばそう思う」の合計の割合が前年度と比較して2～5ポイント程度増加している。

図28 男女に関する役割(n=1,638)



問8 男性の家事、育児、介護への積極的な参画を促進するために、行政が行うべき施策は何だと思いますか。(〇は3つまで)

～「ワーク・ライフ・バランスを実現できる労働環境整備への支援」が前年度と比較して増加～

男性の家事、育児、介護への積極的な参画を促進するために、行政が行うべき施策は、「男性の家事・育児・介護への参画を当たり前のことと捉える社会全体の機運の醸成」が 61.1%と最も割合が高く、次いで「ワーク・ライフ・バランスを実現できる労働環境整備への支援」が 51.3%、「性別に関係なく家事・育児・介護に参画することについての若い世代や未婚者への普及啓発」が 41.6%となっている。

令和元年度-6年度を比較してみると、「ワーク・ライフ・バランスを実現できる労働環境整備への支援」は前年度と比較して約7ポイント増加している。

性・年代別でみると、「男性の家事・育児・介護への参画を当たり前のことと捉える社会全体の機運の醸成」は女性の 30 歳代で最も高くなっている一方、男性の 30 歳代は他の年代と比べても低くなっている。「ワーク・ライフ・バランスを実現できる労働環境整備への支援」は女性の 20～30 歳代で高く、「性別に関係なく家事・育児・介護に参画することについての若い世代や未婚者への普及啓発」は女性の 60 歳代以上で高くなっている。また、「男性の家庭での活躍を促す、経営者・従業員に向けた職場における意識啓発」は男性の 30 歳代で高くなっている。

図29 男性の家事、育児、介護への積極的な参画を促進するために、行政が行うべき施策は何だと思いますか(n=1,638)

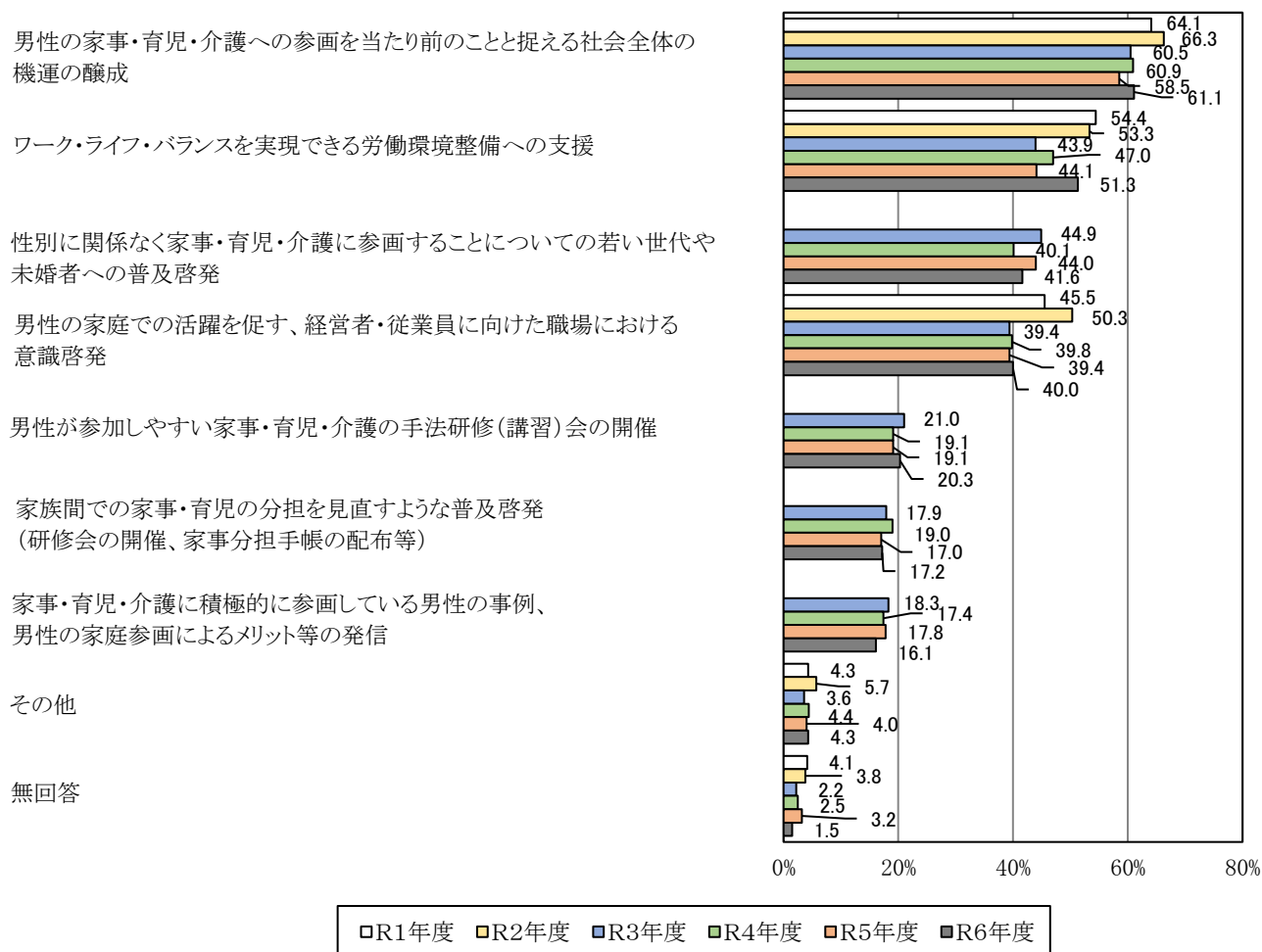
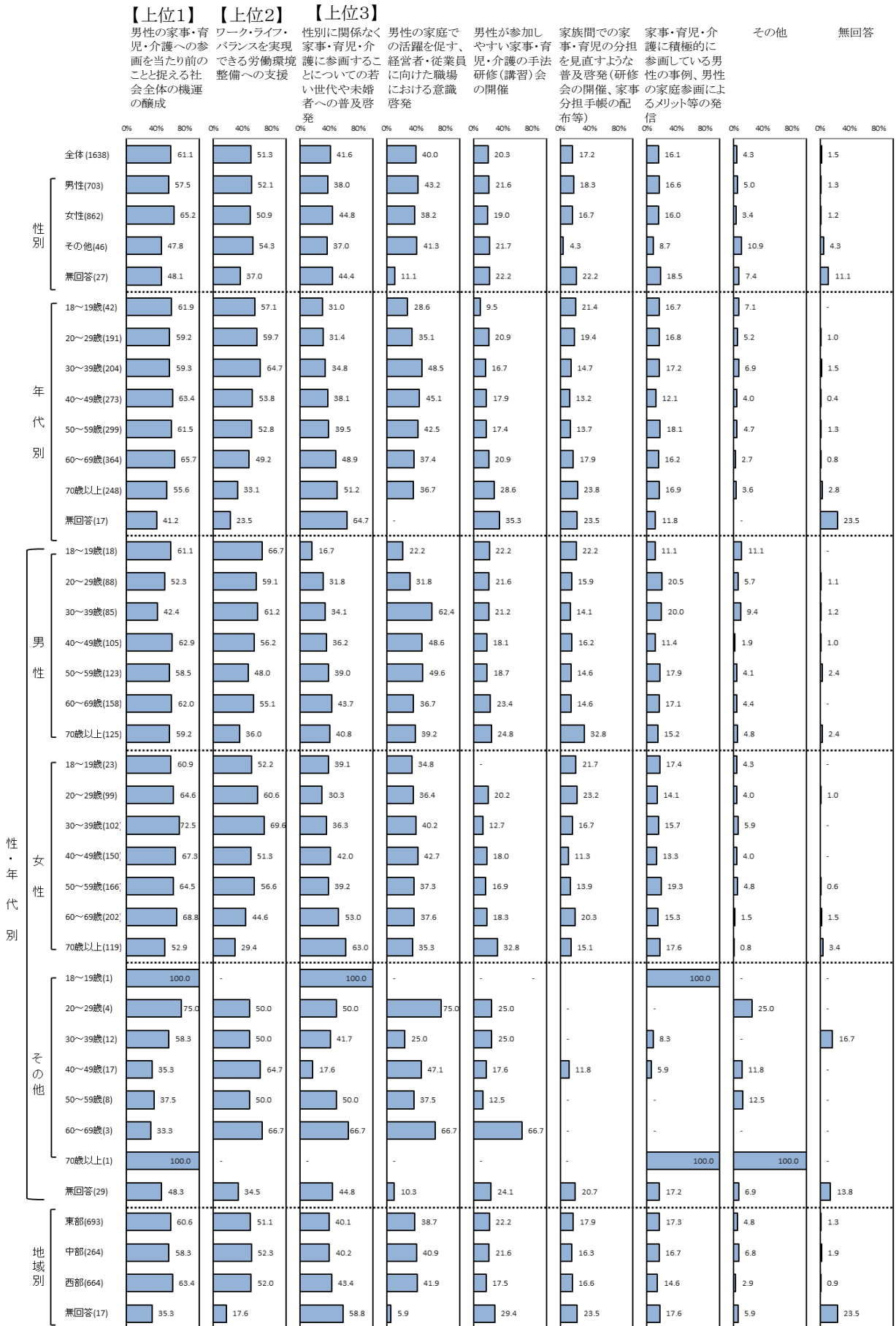


図 30 男性の家事、育児、介護への積極的な参画を促進するために、行政が行うべき施策
(性別・年代別・地域別)



問9 男女共同参画社会を実現するために、行政が特に力を入れるべきことは何だと思いますか。(〇は3つまで)

～「保育・介護の施設・サービスや子育て・介護支援の充実など、仕事との両立を可能とする環境整備」や「性別によらない雇用や公正な待遇の確保、または働きやすい環境の整備を進める企業の取組支援」が上位～

男女共同参画社会を実現するために、行政が特に力を入れるべきことは、「保育・介護の施設・サービスや子育て・介護支援の充実など、仕事との両立を可能とする環境の整備」が58.3%と最も高く、次いで「性別によらない雇用や公正な待遇の確保、または働きやすい環境の整備を進める企業の取組支援」が57.4%、「子育てや介護等で離職した人の再就職支援」が37.5%となっている。

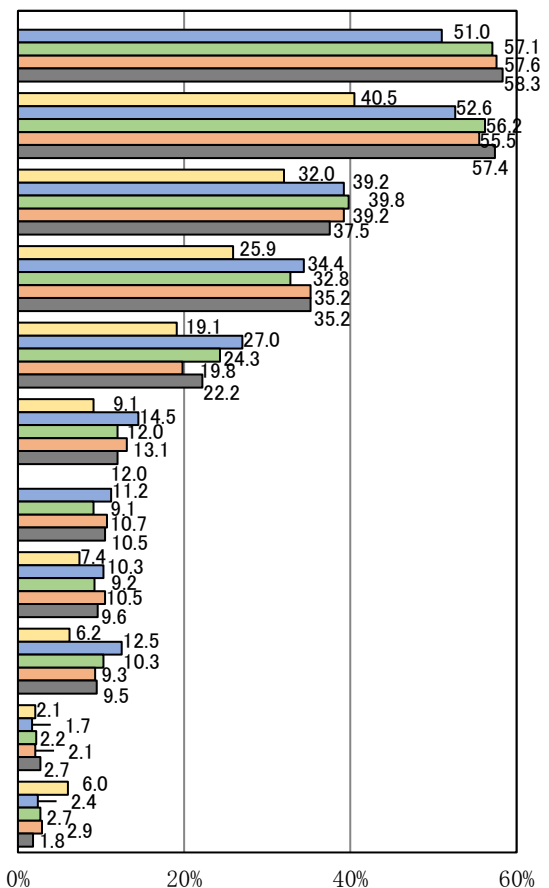
令和2年度-6年度を比較してみると、上記の3項目は常に上位を占めており、「性別によらない雇用や公正な待遇の確保、または働きやすい環境の整備を進める企業の取組支援」は前年度と比較して約2ポイント増加している。

年代別でみると、「保育・介護の施設・サービスや子育て・介護支援の充実など、仕事との両立を可能とする環境の整備」「性別によらない雇用や公正な待遇の確保、または働きやすい環境の整備を進める企業の取組支援」は50歳代以上で高く、「長時間労働の縮減やテレワーク制度の普及など、働き方の見直しの啓発」は30歳代以下で高くなっている。

性・年代別でみると、「保育・介護の施設・サービスや子育て・介護支援の充実など、仕事との両立を可能とする環境の整備」は女性の50歳代以上で高くなっている。

図31 男女共同参画社会を実現するために、行政が特に力を入れるべきことは何だと思いますか (n=1,638)

- 保育・介護の施設・サービスや子育て・介護支援の充実など、仕事との両立を可能とする環境の整備
- 性別によらない雇用や公正な待遇の確保、または働きやすい環境の整備を進める企業の取組支援
- 子育てや介護等で離職した人の再就職支援
- 長時間労働の縮減やテレワーク制度の普及など、働き方の見直しの啓発
- 固定的性別役割分担意識の解消など男女共同参画の視点に立った教育や学習機会等の充実
- 民間企業・団体などにおいて管理職への女性の登用が進むような取組支援、登用の事例やメリットの発信
- 男女共同参画に関する相談の場の拡充及び周知
- 県の審議会委員や管理職など、政策決定の場への女性の積極的な登用
- 女性に対する暴力を根絶するための取組推進
- その他
- 無回答

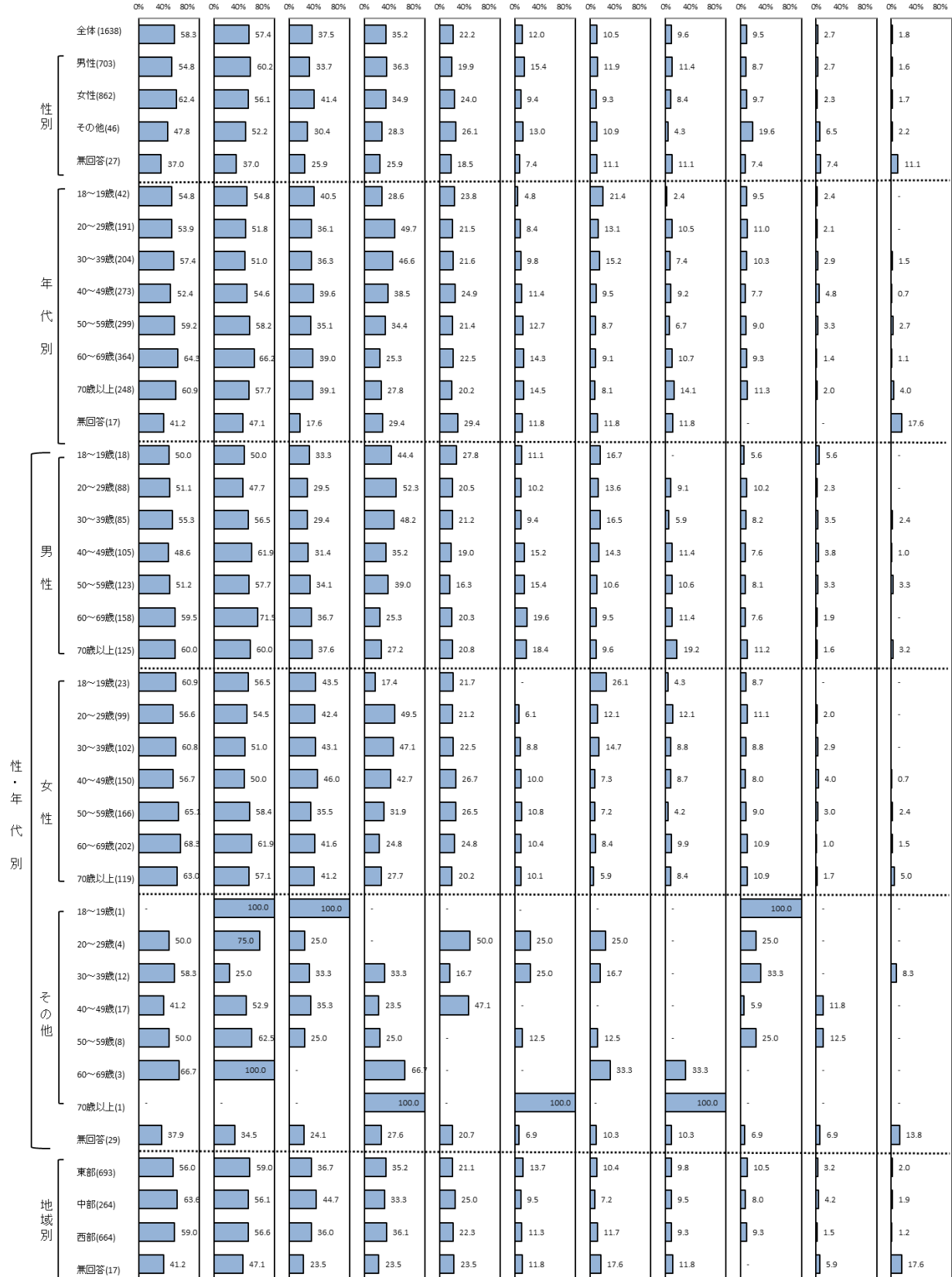


■ R2年度 ■ R3年度 ■ R4年度 ■ R5年度 ■ R6年度

図 32 男女共同参画社会を実現するために、行政が特に力を入れるべきこと(性別・年代別・地域別)

【上位1】 【上位2】 【上位3】

保育・介護の施設・サービスや子育て・介護支援の充実など、仕事との両立を可能とする環境の整備
 性別によらない雇用や公正な待遇の確保、または働きやすい環境の整備の取組支援
 子育てや介護等で離職した人の再就職支援
 長時間労働の縮減やテレワーク制度の普及など、働き方の見直しの啓発
 固定的性別役割分担意識の解消など男女共同参画の視点に立った教育や学習機会等の充実
 民間企業・団体などにおいて管理職への女性の登用が進むような取組支援、登用の事例やメリットの発信
 男女共同参画に関する相談の場の拡充及び周知
 県の審議会委員や管理職など、政策決定の場への女性の積極的な登用
 女性に対する暴力を根絶するための取組推進
 その他
 無回答



Ⅲ 重点施策への関心・認識

問 10 あなたは、これまで犯罪の被害者となった場合のことを考えたり、被害を受けた後の生活などを想像して不安を感じたことがありますか。(〇は1つだけ)

～「考えたことはないが、不安はある」が約4割～

これまで犯罪の被害者となった場合のことを考えたり、被害を受けた後の生活などを想像して不安を感じたことがあるかについて、「考えたことはないが、不安はある」が 42.3%と最も高く、次いで「考えたことがあり、不安を感じている」が 31.4%、「考えたことがあるが、不安は感じていない」が 15.7%となっている。

年代別でみると、「考えたことがあり、不安を感じている」は 30～50 歳代で高く、「考えたことはないが不安はある」は 60 歳代以上で高くなっている。

性・年代別でみると、「考えたことがあり、不安を感じている」は男性の 30 歳代、女性の 40～50 歳代で高く、「考えたことはないが、不安はある」は男性の 70 歳以上、女性の 60 歳代以上で高くなっている。

図33 犯罪被害者となった場合のことを考えたり、被害を受けた後の生活などを想像して不安を感じたことがあるか(n=1,638)

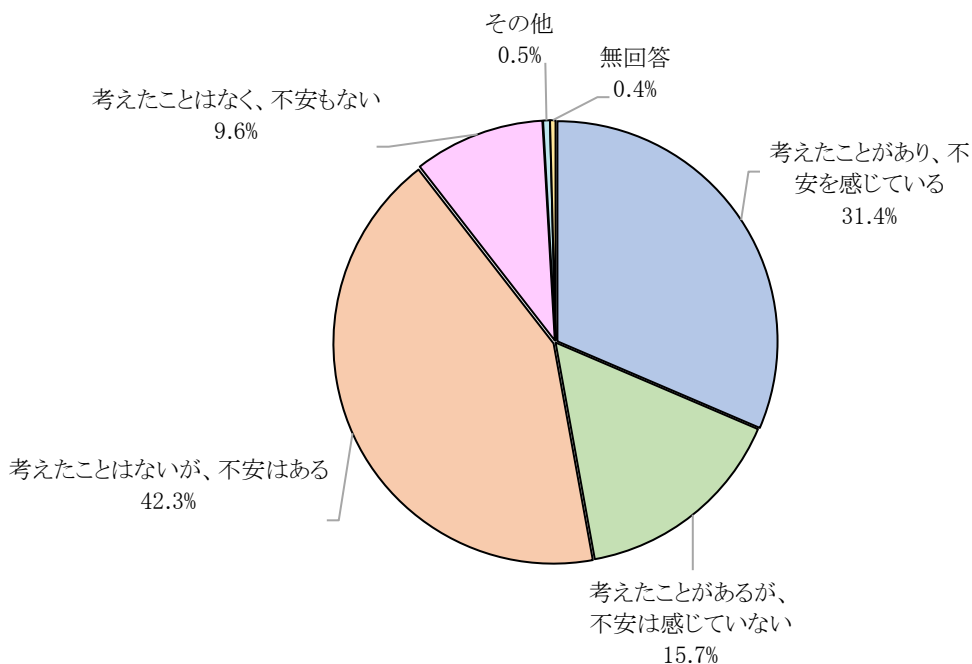
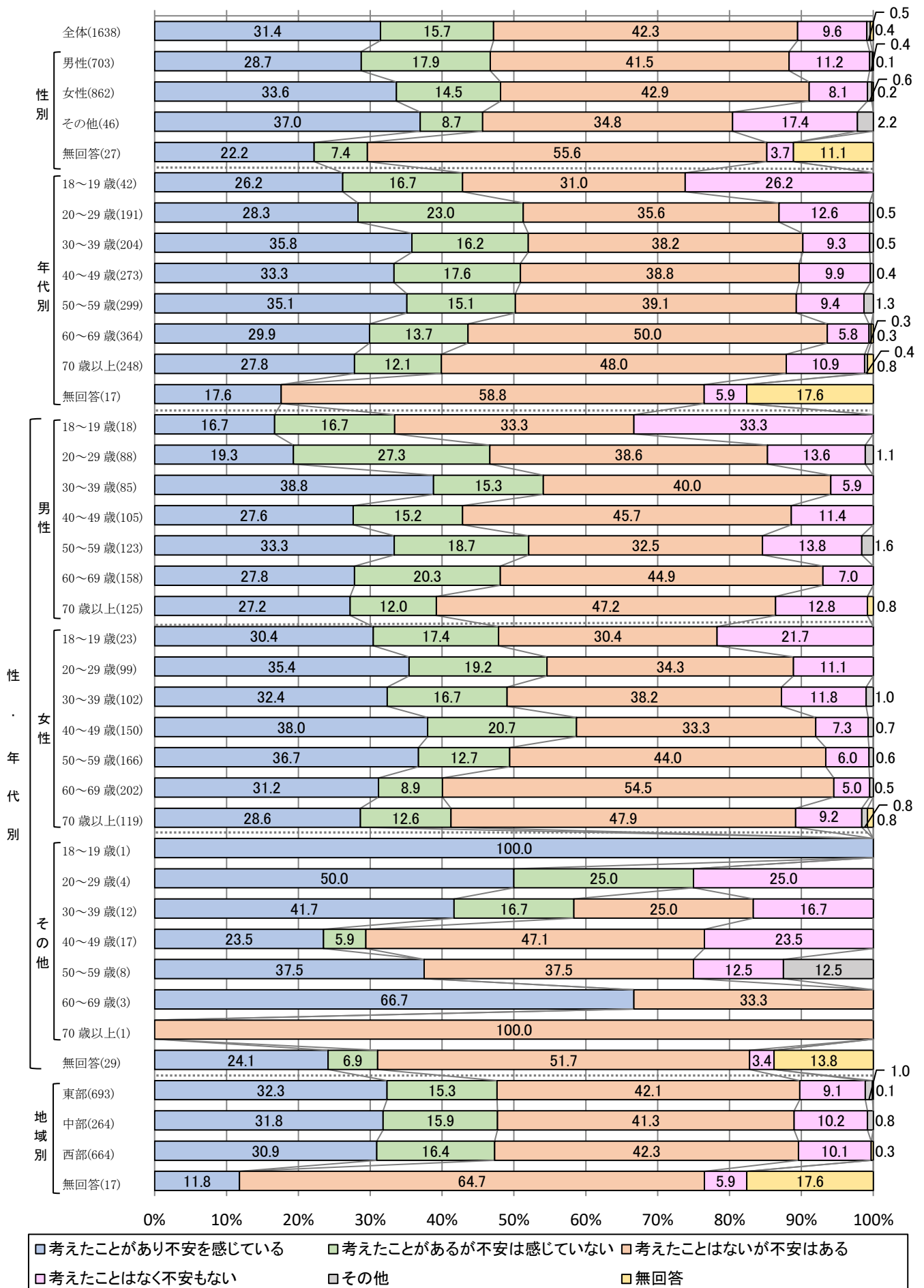


図34 犯罪被害者となったことを考えたり、被害を受けた後の生活などを想像して不安を感じたことがあるか



問 11 あなたは、犯罪被害にあわれた方や、そのご家族の方々にワンストップで様々な支援を行う、鳥取県犯罪被害者総合サポートセンターの存在を知っていますか。(〇は1つだけ)

～サポートセンターの存在を知っている人は、取組内容を知らない人も含めて約2割～

鳥取県犯罪被害者総合サポートセンターの存在を知っているかについて、「知らない」が60.3%と最も高く、次いで「県内で犯罪被害者等の支援に関する広報や啓発活動等について見聞きしたことがあるが、サポートセンターの存在は知らない」が17.5%、「サポートセンターの存在は知っているが、取組内容については知らない」が17.3%となっている。

年代別でみると、「サポートセンターの存在は知っているが、取組内容については知らない」「県内で犯罪被害者等の支援に関する広報や啓発活動等について見聞きしたことがあるが、サポートセンターの存在は知らない」は40歳代以降、年代が高くなるとともに割合が高くなっている。一方「知らない」は30歳代が最も高く、以降は年代が高くなるともに割合は低くなっている。

性・年代別でみると、「サポートセンターの存在は知っているが、取組内容については知らない」は、男性の60歳代、女性の70歳以上で高く、「県内で犯罪被害者等の支援に関する広報や啓発活動等について見聞きしたことがあるが、サポートセンターの存在は知らない」は男性の70歳以上、女性の60歳代で高くなっている。

図35 犯罪被害者やその家族の方々に様々な支援を行う、鳥取県犯罪被害者総合サポートセンターを知っているか(n=1,638)

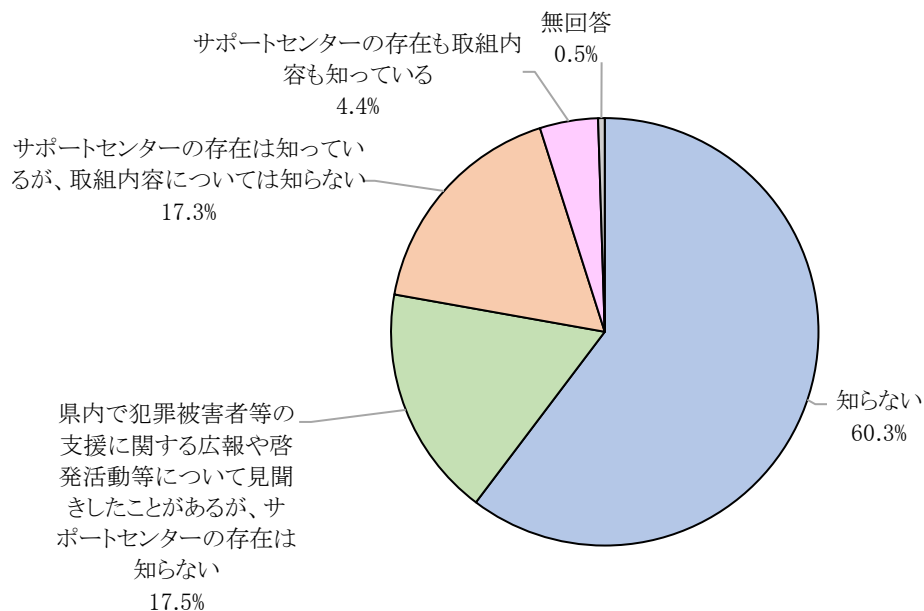
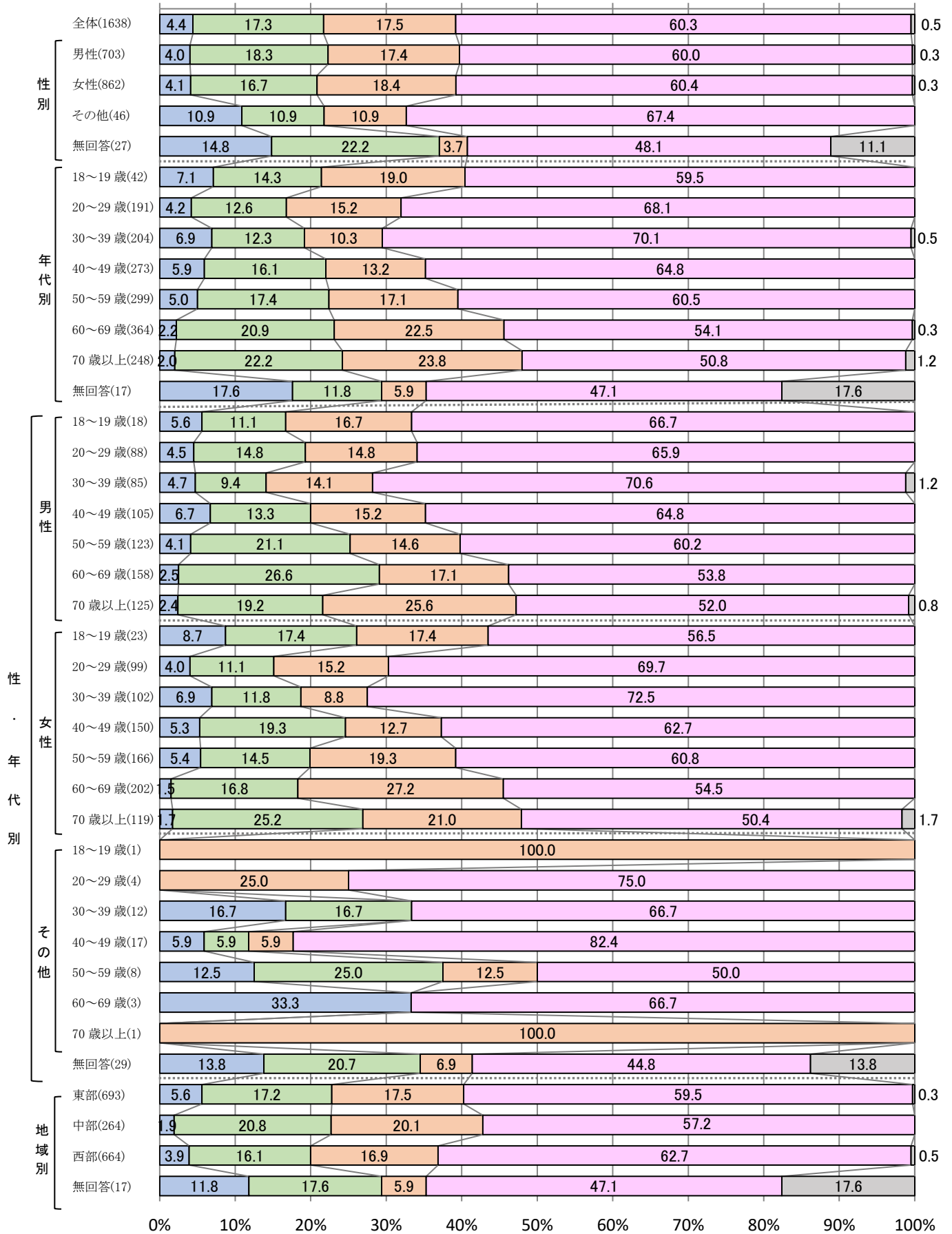


図36 鳥取県犯罪被害者総合サポートセンターの存在を知っているか



- サポートセンターの存在も取組内容も知っている
- サポートセンターの存在は知っているが取組内容については知らない
- 県内で犯罪被害者等の支援に関する広報や啓発活動等について見聞きしたことがあるがサポートセンターの存在は知らない
- 知らない
- 無回答

問 12 あなたが犯罪被害にあった場合を想定したとき、行政に求めたい支援は何ですか。
(〇は2つまで)

～「必要となる医療費や裁判費用などの負担軽減、生活再建等に至る経済的な支援」が約6割～

犯罪被害にあった場合を想定したとき、行政に求めたい支援について、「必要となる医療費や裁判費用などの負担軽減、生活再建等に至る経済的な支援」が 59.6%と最も高く、次いで「犯罪被害者等が相談しやすい相談窓口の設置」が 46.9%、「弁護士相談や裁判に関する手続き等の情報の提供」が 35.7%となっている。

年代別でみると、「犯罪被害者等が相談しやすい相談窓口の設置」は、30歳代以降、年代が高くなるとともに割合が高くなっている。「必要となる医療費や裁判費用などの負担軽減、生活再建等に至る経済的な支援」「弁護士相談や裁判に関する手続き等の情報の提供」は、30～40歳代で高くなっている。

性・年代別でみると、「必要となる医療費や裁判費用などの負担軽減、生活再建等に至る経済的な支援」は、男性の60歳代、女性の30～40歳代で高く、「犯罪被害者等が相談しやすい相談窓口の設置」は女性の70歳以上で高くなっている。

図37 犯罪被害にあった場合を想定したとき、行政に求めたい支援(n=1,638)

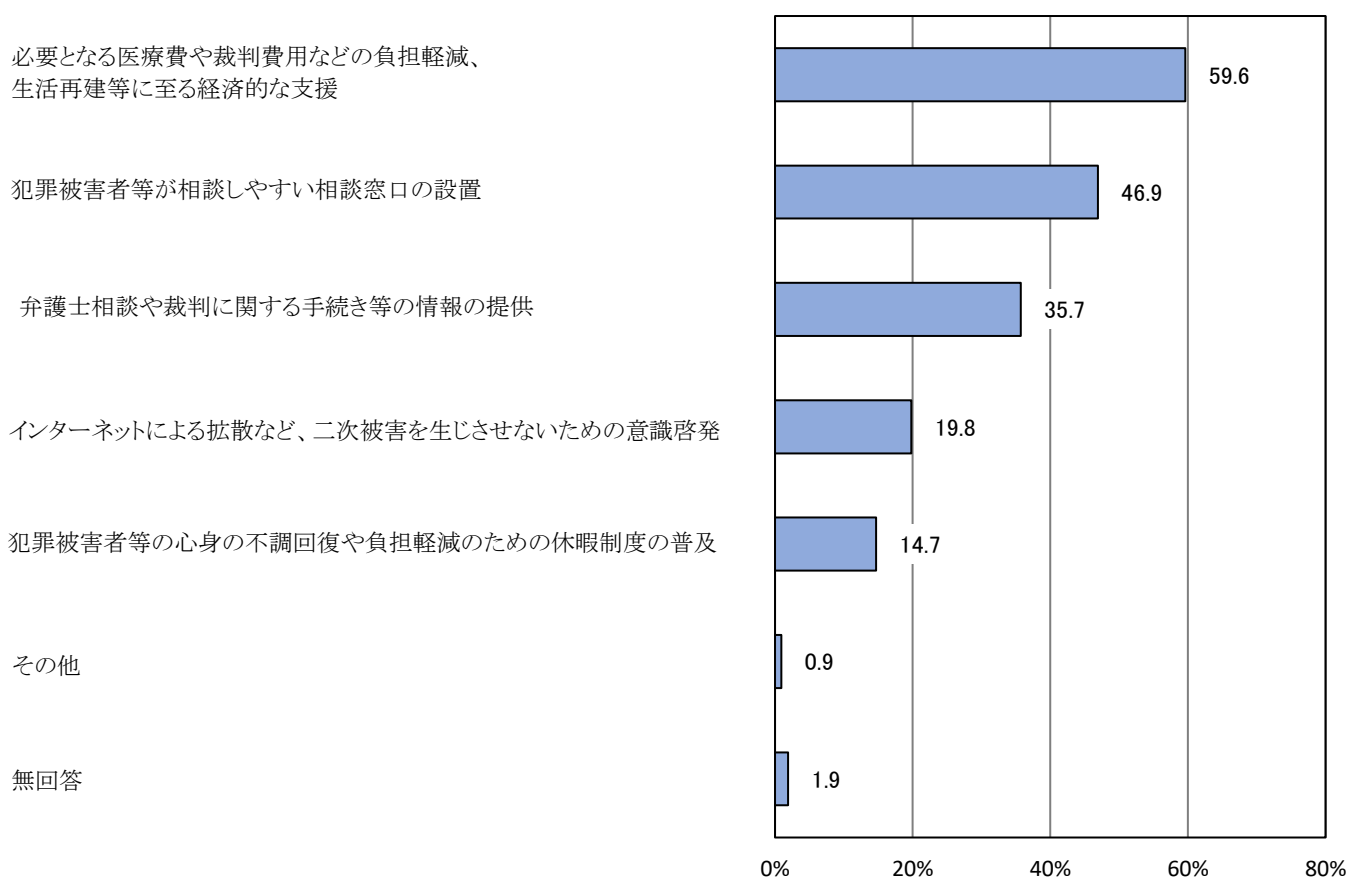
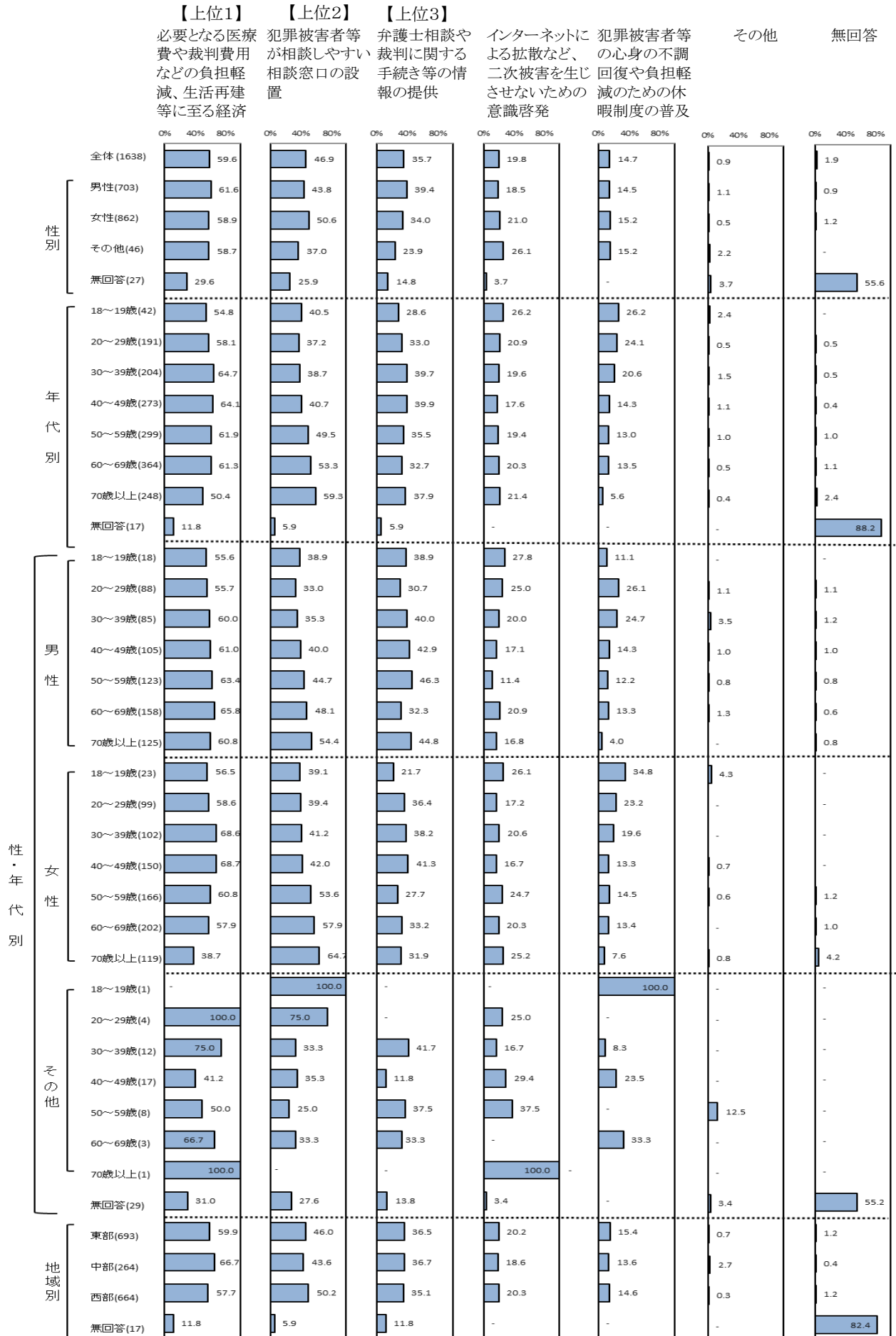


図 38 犯罪被害にあった場合を想定したとき、行政に求めたい支援(性別・年代別・地域別)



問 13 あなたが犯罪にあったときに、受ける二次被害として最も深刻だと思われる被害は何ですか。(〇は1つだけ)

二次被害・・生命・身体・財産などに対する直接の被害(一次被害)だけでなく、その一次被害に起因する誹謗中傷や不適切な対応などによる精神的な苦痛や身体の不調などの被害

～「知人・友人の言動、近隣の噂や中傷」「報道機関の配慮に欠けた取材や偏見、インターネット上の偽情報や誤情報の拡散」が約3割～

犯罪にあったときに、受ける二次被害として最も深刻と思われる被害について、「知人・友人の言動、近隣の噂や中傷」が 29.2%と最も高く、次いで「報道機関の配慮に欠けた取材や偏見、インターネット上の偽情報や誤情報の拡散」が 29.1%、「捜査、裁判の過程での精神的・時間的負担」が 17.0%となっている。

年代別で見ると、「知人・友人の言動、近隣の噂や中傷」は 70 歳以上で高く、「報道機関の配慮に欠けた取材や偏見、インターネット上の偽情報や誤情報の拡散」は 50～60 歳代で高くなっている。

性・年代別で見ると、「知人・友人の言動、近隣の噂や中傷」は女性の 70 歳以上で最も高く、全ての年代において女性が男性より高くなっている。

「捜査、裁判の過程での精神的・時間的負担」は、男性は 30 歳代以降、年代が高くなるとともに割合がわずかに高くなっている一方、女性の 30～60 歳代は年代が高くなるとともに割合は低くなっている。

図39 犯罪にあったとき、二次被害として最も深刻だと思われる被害

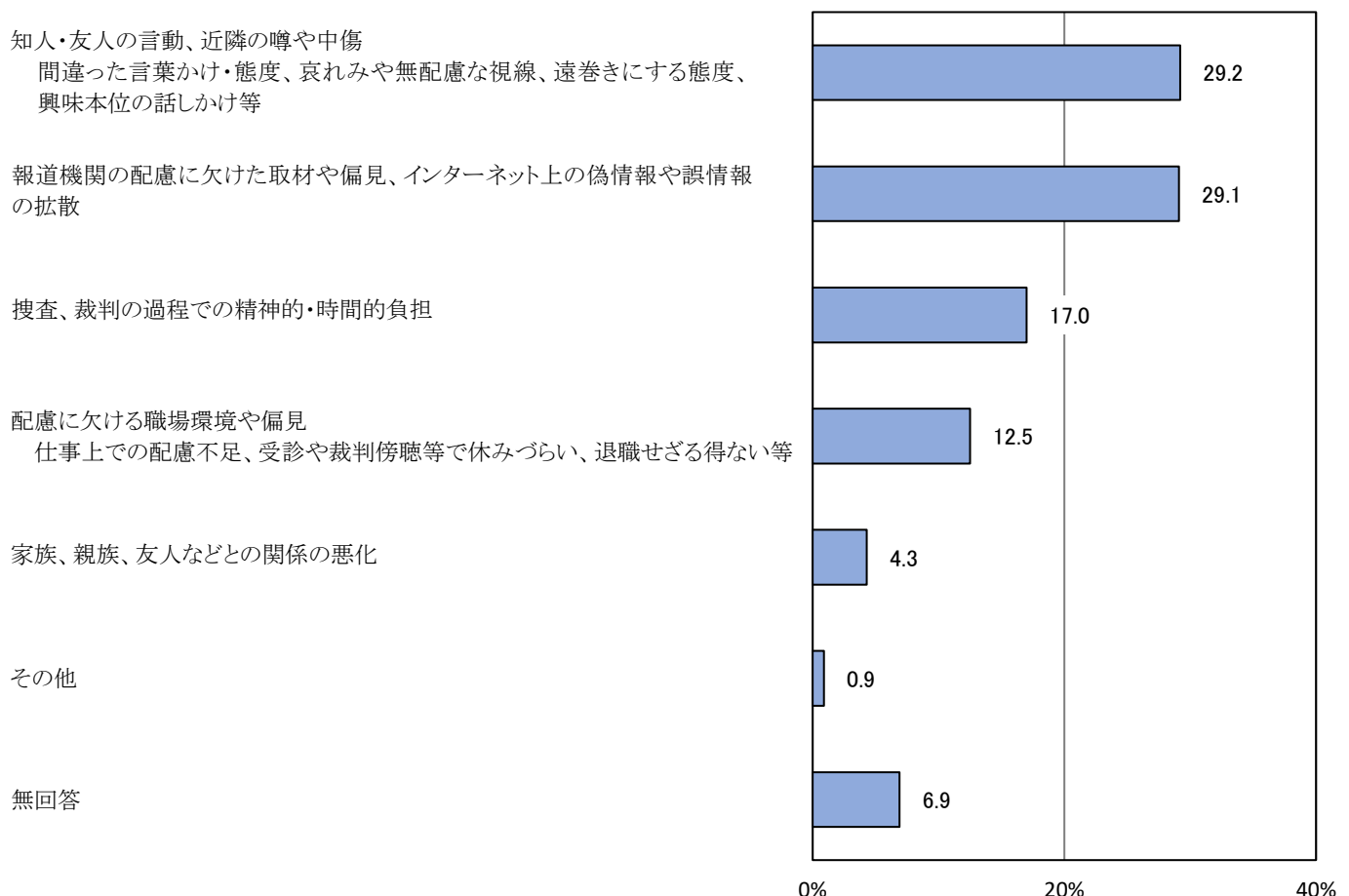
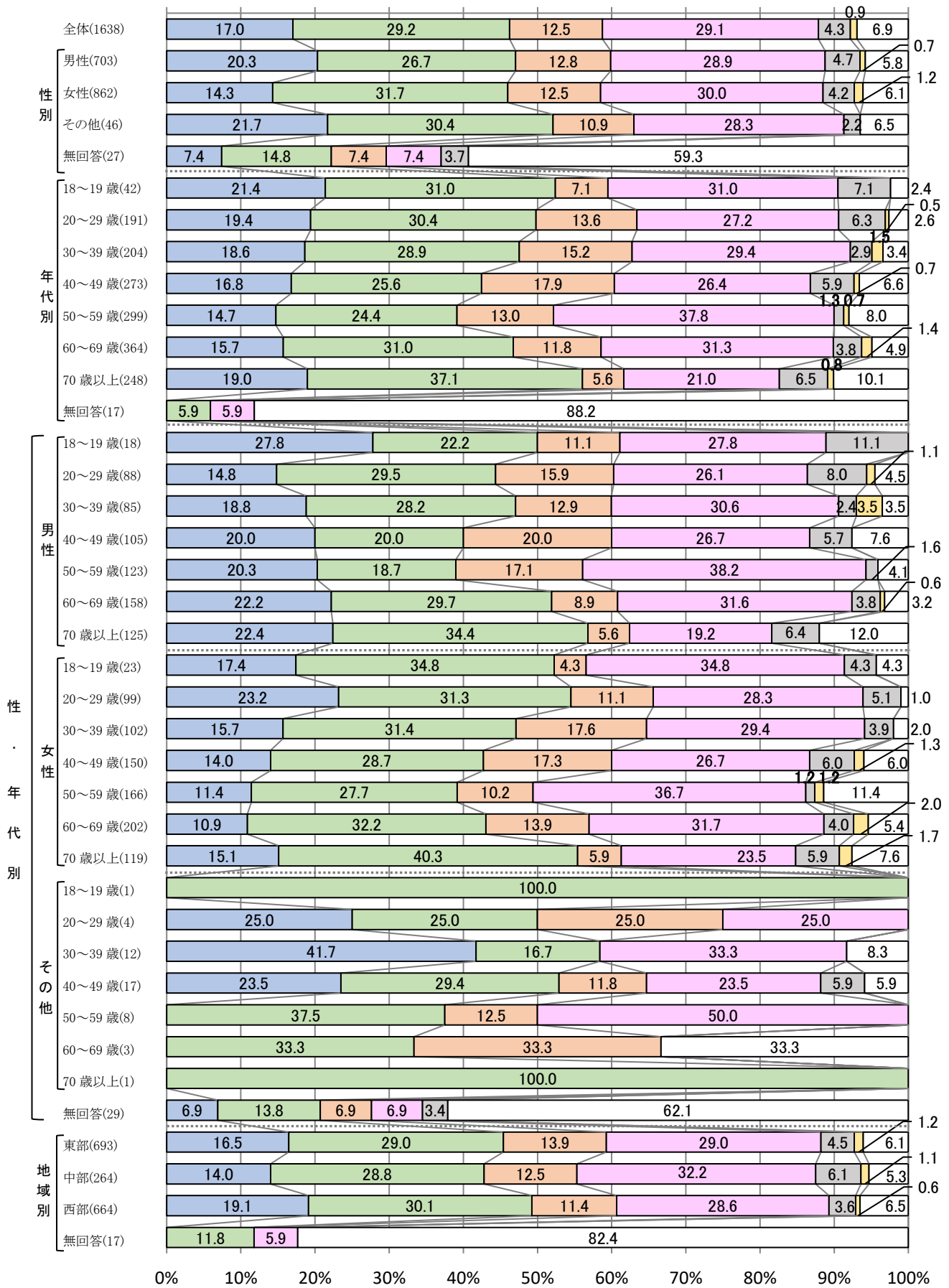


図40 犯罪にあったときに、受ける二次被害として最も深刻だと思われる被害



- 捜査、裁判の過程での精神的・時間的負担
- 知人・友人の言動、近隣の噂や中傷
- 配慮に欠ける職場環境や偏見
- 報道機関の配慮に欠けた取材や報道、インターネット上の偽情報や誤情報の拡散
- 家族、親族、友人などとの関係の悪化
- その他
- 無回答

【自由記載】

多くの方々からたくさんのご意見をいただきましたので、一部を紹介いたします。

問5 あなたの「幸福度」を判断するときに、あなたが重視することは何ですか。(選択肢 13「その他」への記載)

家族の健康、幸せ。 ◆(20～29 歳 男性 西部)
自然災害の被害が少ない。 ◆(20～29 歳 その他・回答したくない 西部)
専門医師、公共交通機関。 ◆(60～69 歳 女性 東部)
子育てのしやすさ。 ◆(50～59 歳 女性 中部)
文化度の高さ、IT 環境の充実度、交通の便。 ◆(50～59 歳 女性 東部)
買い物・食事環境。 ◆(50～59 歳 男性 東部)
相談、支援の充実。 ◆(40～49 歳 女性 東部)

問8 男性の家事、育児、介護への積極的な参画を促進するために、行政が行うべき施策は何だと思えますか。
(選択肢 8「その他」への記載)

学校(小学校)教育の中で取り組めるよう働きかける。 ◆(70 歳以上 その他・回答したくない 東部)
事業所に、育休取得率に応じた補助金を支給する制度の整備、育休を取得した職員の業務をフォローした職員への手当支給。 ◆(20～29 歳 女性 東部)
女性の家事・育児離れを推進する啓発。(男性の家事・育児への参加意欲があっても、女性側が男性に任せる意欲がなく、家事・育児を手離したまらないケースあり) ◆(30～39 歳 男性 中部)
男女問わず 40 代より年配の方の家事、育児への参加意識の無さから職場において若者が家事育児を理由に休みにくい環境になっているので、年配者の意識改革が必須。 ◆(30～39 歳 男性 西部)
経営者の意識改革に向けた取り組み。 ◆(30～39 歳 男性 西部)

問9 男女参画社会を実現するために、行政が特に力を入れるべきことは何だと思えますか。
(選択肢 10「その他」への記載)

子育て、結婚に関係なく、休んだり趣味や家庭のことに打ち込める労働環境整備支援。 ◆(40～49 歳 女性 東部)
無意識の差別の是正。 ◆(50～59 歳 女性 東部)

<p>当たり前のことと捉える社会全体の機運の醸成。 ◆(50～59歳 男性 中部)</p>
<p>40歳以上の固定的性別役割分担意識変化の改革。 ◆(40～49歳 女性 東部)</p>
<p>子育て、介護で離職しなくても良くなる仕事の仕方の見直し。誰もが家族ファーストで仕事に取り組めるようになれば行政に頼らずとも仕事と家庭の両方が充実する気がします。 ◆(40～49歳 女性 東部)</p>

問 10 あなたは、これまで犯罪の被害者となった場合のことを考えたり、被害を受けた後の生活などを想像して不安を感じたことがありますか。(選択肢5「その他」への記載)

被害者にも加害者にもなり得ると思って生活している。
あまり現実的ではなく意識がない。
被害者になったことがあり、不安を感じる。
空き巣の被害にあいました。犯人と思われる人物は他の事件で逮捕されましたが、すぐ(何年かで)出所。何度も犯罪を繰り返しているようです。家も近所であり顔も知っていたので、ずっと不安と恐怖と怒りで何年たっても不安な気持ちは無くなりません。当初は体調も悪くなり病院に通院するようなことになってしまいました。一度こんなことがあると、まるっきり元のように戻れません。

問 12 あなたが犯罪被害にあった場合を想定したとき、行政に求めたい支援は何ですか。(選択肢6「その他」への記載)

家族のサポート、個人情報など。
犯罪被害者に考慮した環境づくり、社会づくり。
過剰な報道による被害の防止。
精神的、身体的、経済的支援。
犯人の迅速な逮捕と被害の補償。

問 13 あなたが犯罪にあったときに、受ける二次被害として最も深刻だと思われる被害は何ですか。(選択肢6「その他」への記載)

最も深刻という順位付けでなく、どれも二次被害として重なり合う。
2,3,4などの統合的な噂話等による精神的な打撃。本当は1つに絞りたいと思う。1も5も当然。
1つだけに限定できない。犯人の刑が終了した後も心配である。
1～5すべてだと思う。どれか1つだけ選ぶことはできない。
1～5のチェック項目全て。これらの項目はどれか一つでなく同時に発生する深刻な被害と言えます。

自由記載欄(「ご意見・ご要望があれば自由にお聞かせください」への記載)

<p>県の施策等についての情報(アンケート結果なども含めて)を、SNSなども使って、県民が身近に知る、考えることができる方法を検討してほしい。すでにできているなら、広報をして、教えてほしい。情報公開を積極的にしてほしい。 ◆(70歳以上 女性 西部)</p>

<p>何度かまちづくりの取り組みに参加したが、行政職員の人材育成が後回しになっているように感じた。時間がかかるうえインパクトが少ない取り組みではあるが、10年後を見据えると手厚くやっておいた方がいいのではないか。まちづくりについてお金を配るだけの取り組みになってはいないか。お金は使い方を教えることがとても大切である。住民参加のまちづくりを促進したいのであれば、住民の伴走者になる・なれる職員・人材がもっと必要だと感じる。</p> <p>◆(30～39歳 その他・回答したくない 中部)</p>
<p>個人的に衣食住に困ることなく、暮らしやすいとは思いますが、鳥取県の名前を出した際に大抵の方が「砂丘以外に何があるの?」と言います。県民も「なにもない」と言う方もいます。なので、県民にも県外の方にも伝わるような特徴的なものが増える or 積極的にアピールするといったと思います。</p> <p>◆(20～29歳 その他・回答したくない 西部)</p>
<p>もう少し若い人の意見を取り入れて欲しい!</p> <p>◆(18～19歳 男性 中部)</p>
<p>鳥取県は、自然豊かで人と人が密なコミュニティが作られている地域だと思います。暮らしやすく愛溢れる鳥取県の魅力を最大限にPRし、古き良きものは残し、新しい風を入れながら、若者が住みやすく、子育てしやすい環境が構築される町づくりが必須だと思います。高齢者社会の先陣を切る勢いで、高齢者と若者比率が大きい鳥取県。この高齢化を支える若者が、生き生きと生きる地域を鳥取県から発信して欲しいです。</p> <p>◆(18～19歳 女性 東部)</p>
<p>人口減少が問題となっている昨今ですが、人口増加に結び付く対策が喫緊の課題だと思っています。若い方々が結婚しやすく、子育てしやすい鳥取県独自の取り組みを全国にアピールして、鳥取県が人口増加の先進県となるよう期待しています。最後に、あらゆる税金が高すぎます。鳥取に安心して永住できるよう、様々な取り組みをお願いします。</p> <p>◆(50～59歳 男性 東部)</p>
<p>関係人口の創出にフォーカスすると、県外から関心を持つ関係人口予備軍に対してアプローチが弱いと感じている。鳥取県は県外からの移動手段を考えると、羽田空港からの飛行機や鉄道も通ってはいるものの、遠いからなかなか行きづらい固定概念が、県外の人たちは先立ってしまうようで、それが足を運ぶことを阻害してしまっているように思う。関係人口になり得る機会は、県内の多様な場所に溢れてはいるものの、交通の便という初期段階のハードルの高さが、貴重な機会創出の邪魔をしまっているように感じる。また、住んでみたいけど、住むに値する住居や生活環境が場所によってはないことが、貴重な移住機会を遠ざけてしまっているように思う。</p> <p>◆(20～29歳 女性 東部)</p>
<p>県外の外国人留学生は出会う人みんなと言っていいぐらい、名探偵コナンファンです。鳥取に遊びに来てもらっても、鳥取空港に行く公共交通手段がほぼ無いのでせっかくの観光資源を活用できるよう交通を整備して欲しいです。災害時の外国人(在住者、観光客)支援について、もっと具体的、積極的な計画が必要だと思います。子育てに関して、自然の中で育つメリットは大きいですが、中学高校と学びを進める中で、都会の学生に比べて文化的刺激が少ない環境にあります。県外に出るのにも費用がかかり、都会の学生と同じ機会を得るにはハンデが大きいです。大会や学会への参加などの支援として県立高校に補助が出ればと思います。</p> <p>◆(50～59歳 女性 東部)</p>
<p>鉄道・道路の整備の促進をお願いいたします。それにより大都市との距離感もなくなり、豊かな自然を生かした都市環境が構築できる。</p> <p>◆(70歳以上 女性 西部)</p>
<p>総じて鳥取は住み良い町ですが、自家用車が無ければどこへも自由に出かけられません。公共交通機関の更なる充実と復活をお願いしたいです。</p> <p>◆(70歳以上 男性 東部)</p>

<p>老後、交通機関が無いため生活が不安です。バスの本数以外にも、交通機関を増やしてほしい。家の近くまで来てくれる乗り合いバスなど。</p> <p>◆(30～39 歳 女性 中部)</p>
<p>防災が気になっています。災害時本当に何をしたら良いのか経験が無く不安。高齢者、障がい者等弱者の不安にも耳を傾けてほしい。(もしかして私の勉強不足ならすみません)</p> <p>◆(60～69 歳 女性 西部)</p>
<p>男尊女卑はまだまだあります。また、地域差別もまだまだ根強く残っています。世の中がどれだけ綺麗事(差別は無くそう的な)を言っても男尊女卑や地域差別の考えで育った人はなかなか考えを変えるのは難しい。義務教育からしっかり(今もやっていますが)更に時間をかけて教育する事が重要ではないでしょうか。</p> <p>◆(50～59 歳 男性 西部)</p>
<p>生活者が抱える問題は複雑化しており、重層的支援体制の実質的な取り組みが強く求められている。現場に最も近い民間支援団体からの聴取を行いながら支援が当事者への的確に届く施策の推進をお願いしたい。</p> <p>◆(60～69 歳 男性 東部)</p>
<p>障害者が社会の中で安心して生活できる仕組、相談できる窓口などを作って頂きたいです。障害者は一生の中で仕事があったりなかったりするので、安定した生活ができるような社会の仕組を作って欲しいです。障害が軽度の場合ほとんかく就労していくしかない(生きるためには)</p> <p>◆(50～59 歳 男性 西部)</p>
<p>病児保育や学童施設の充実をお願いします。どこも満員で、仕事を休まざるをえません。</p> <p>◆(40～49 歳 男性 東部)</p>
<p>子育て支援において、預かり保育、一時預かりの利用や学童放課後児童クラブの利用をしやすくして欲しい。就労時間が短いと入れないのは非常に困る。小学校低学年での1人の留守番になってしまい危険や不安を感じる。就労している家庭は皆が利用できるようなになればよい。</p> <p>◆(40～49 歳 女性 西部)</p>
<p>小学、中学の特別支援教育の支援強化、拡充をお願いします。</p> <p>◆(70 歳以上 男性 東部)</p>
<p>不登校に対する高校の対策が少ない。子供にとって選択肢になることが少ない。リモート授業でも単位が取れるなど、多くの選択肢が必要。早急に検討が必要です。</p> <p>◆(50～59 歳 女性 西部)</p>
<p>子育て支援に力を入れているのは伝わっているので、若い人が働きたい会社や環境を整えていってほしい。都会と比べ賃金も安い上に選択肢も少ないのでそこがネックになっていると思う。企業誘致なども県で進めていけたら新しい雇用が生まれて活気が出てくると思います。</p> <p>◆(30～39 歳 男性 東部)</p>

鳥取県の政策に関する「県民意識調査」に ご協力をお願いします

県では、都会にはない鳥取県の強みを活かし、県民の皆さんとともに様々な地方創生の取組を進めています。

これからも、県民の皆さんが住み慣れた地域で安全に安心して暮らし続けていただけるよう、現在の状況などについて、あなたの率直なご意見をお伺いし、今後の県政に活かしていきたいと思えます。

ついては、お忙しいところ誠に恐れ入りますが、調査の趣旨をご理解いただき、ご回答いただきますようよろしくお願いいたします。

令和6年6月28日

- この調査は鳥取県が行う「鳥取県の政策に関する県民意識調査」（今年で9回目）です。
- この調査は、本調査票にご記入のうえ郵送いただくか、パソコンやスマートフォンでインターネットを通じて回答いただくことも可能です。

インターネットによる回答方法については、調査票の9ページをご覧ください。

- 調査をお願いする方の選定にあたりましては、県内在住の18歳以上の方から3,000人を各市町村の住民基本台帳より無作為に抽出させていただきました。
- 調査票は無記名になっていますので、お名前を記入していただく必要はありません。
- ご回答いただいた内容は、無記名のまま統計的に集計・分析するため、個人が特定されたり、個々の回答内容が公表されることはありません。
- 調査票は、封筒のあて名の方ご本人がお答えください。ただし、ご本人の回答が難しい場合は、ご家族の方など代わりの方（18歳以上）がお答えいただいて差し支えありません。
- ご記入いただいた調査票は、**同封の返信封筒に入れて 令和6年7月18日（木）までに郵便ポストに投函（切手不要）**してください。
- この調査についてご不明な点がありましたら、下記問合せ先までご連絡ください。

【問合せ先】

鳥取県地域社会振興部 県民課
〒680-8570 鳥取市東町一丁目 220
電話：0857-26-7025、7026
ファクシミリ：0857-26-8112
電子メール：kenmin@pref.tottori.lg.jp



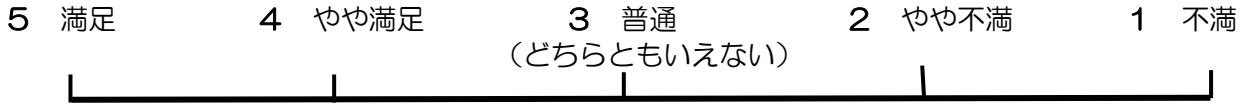
目 次

	ページ
I 鳥取県の住みやすさについて（問1～5）	1
II 鳥取県の施策の満足度と今後の優先度について（問6）	2
1 豊かな自然でのびのび鳥取らしく生きる	2
2 人々の絆が結ばれた鳥取のまちに住む	3
3 幸せを感じながら鳥取の時を楽しむ	4
4 男女共同参画社会づくり（問7～9）	5
III 重点施策への関心・認識 犯罪被害者支援について（問10～13）	6
IV 回答者の情報（問14～17）	8
V 自由記載欄	8
～パソコン、スマートフォンでインターネット回答をされる方へ～ インターネット回答のご案内	9

Ⅱ 鳥取県の施策の満足度と今後の優先度について

【問6】鳥取県が実施している施策等について、あなたの満足度をお聞きしますので、【評価の基準】を参考にそれぞれ5段階で回答をお願いします（各項目の1～5のいずれかの数字に○をしてください。）
また、テーマごとに今後の優先度（重要度）が高いと思われる施策等について3つずつお選びください。

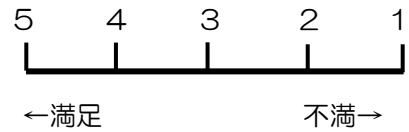
【評価の基準】



1 豊かな自然でのびのび鳥取らしく生きる

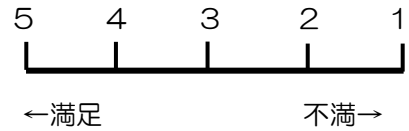
① **豊かな観光資源を活用した観光誘客の取組**

豊かな自然、鉄道、まんが、温泉地等の魅力あるコンテンツを活かしたキャンペーンの展開、観光地を結ぶ交通環境の充実など



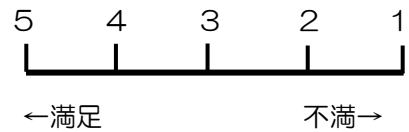
② **外国人観光客や国際交流を拡大する取組**

国際航空便・航路の運航促進、海外メディアやSNS等を通じた魅力発信、海外の友好地域との国際交流の推進など



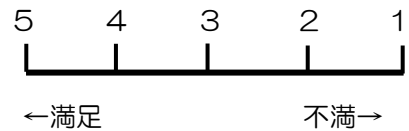
③ **文化・アートのまちづくりの取組**

地域の伝統芸能の継承や文化芸術に親しむ機会の提供、アートを活用した地域づくりや交流、県立美術館の整備など



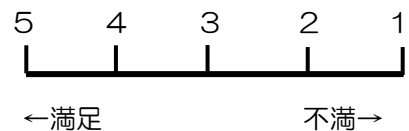
④ **スポーツ活動の振興や交流を拓げる取組**

大規模スポーツ大会・国際大会のキャンプ誘致やホストタウン交流の推進、障がい者スポーツや生涯スポーツ推進など



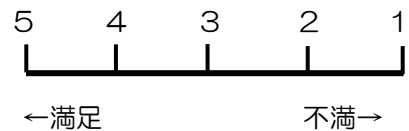
⑤ **強い農林水産業で食の魅力を発信する取組**

デジタル技術による生産力強化、担い手育成の推進、県産食材のブランド化の推進、国内外への情報発信など



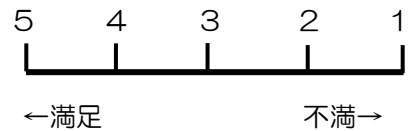
⑥ **地球規模での環境課題への対応**

省エネ住宅の普及啓発促進、省エネ・再エネ推進、プラスチックごみの削減、食品ロスの削減、リサイクルの推進など



⑦ **生物多様性・自然環境保全の取組**

希少野生動物の保全や外来種防除、緑化活動の推進、美しい星空環境の維持、里山整備や森林体験・保全活動等への支援など



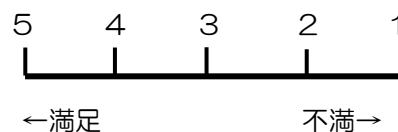
上記の施策等のうち、あなたが今後優先すべき（重要度が高い）と思うものを3つ選んで番号を記入ください。

【 】【 】【 】

2 人々の絆が結ばれた鳥取のまちに住む

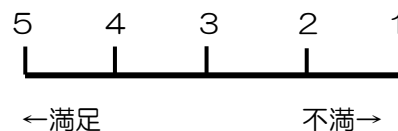
① 日本一子育てしやすい「シン・子育て王国」の推進

出会い・結婚支援、産後ケアの充実、不妊治療への支援、子どもの医療費無償化、保育環境・放課後児童クラブ等の充実、SNS等を活用した子どもの意見募集、男性の育児休業取得促進、医療的ケア児等のサポートの充実、ヤングケアラー相談支援など



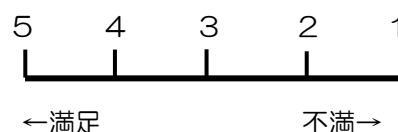
② 智をひらく豊かな学びの取組

情報社会・グローバル社会に対応した教育、キャリア教育の推進、特別支援教育や不登校への支援、特色ある学校づくり、図書館・博物館機能の充実など



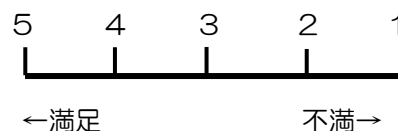
③ 若い力が輝く協働のまちづくりの取組

IJUターン（注1）・定住の促進、若者の県内就職支援、SNSを活用した地域づくり情報発信、若者の意見を県政に届ける仕組みの強化など



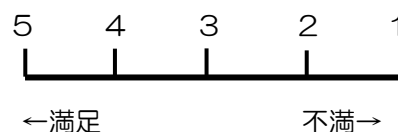
④ 危機を乗り越え、地域を元気にする取組

物価高騰に係る負担軽減支援、賃金上げを行う事業者に対する支援、令和5年台風第7号による被災地の復旧や住民生活・事業活動の再建支援など



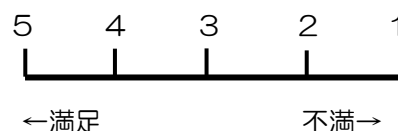
⑤ 中山間地の生活や社会機能を守る取組

買い物環境や医療環境等の維持、持続可能な地域交通インフラの確立、空き家対策、地域コミュニティの活性化など



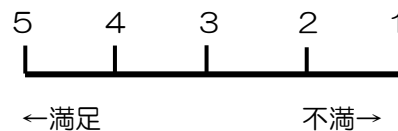
⑥ 地域の健康と安心を守る取組

がん・生活習慣病・更年期障がいへの対応、遠隔医療の普及、効率的な医療提供体制の確立、医療・介護人材の確保と育成、自死対策の推進、フレイル対策（注2）等による健康寿命延伸など



⑦ 誰もが尊重される共生社会の取組

様々な困難を抱える人に向けた相談体制の充実、障がい者支援、ジェンダー平等、性的少数者・外国人支援、犯罪被害者支援、情報モラル教育・啓発の強化、人権相談支援体制の充実など



上記の施策等のうち、あなたが今後優先すべき（重要度が高い）と思うものを3つ選んで番号を記入ください。

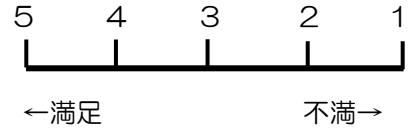
【 】【 】【 】

注1：IJUターンのうち、Iターンとは生まれ育った場所で働いたのち出身地ではない場所へ移住して働くこと、Jターンとは地方出身者が一度都会で就職し他の地方に移住・転職すること、Uターンとは生まれ育った場所以外で働いたのち再び生まれた故郷に戻り働くこと。
注2：フレイルとは、年齢とともに心身の機能が衰え始めている状態のこと。

3 幸せを感じながら鳥取の時を楽しむ

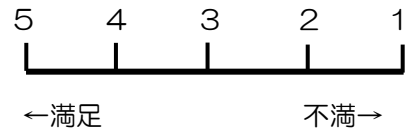
① 移住定住の促進

「とっとり暮らし」の情報発信や市町村支援の拡充、リモートワーク（注3）など新しい働き方に対応した移住等の推進、移住者の地域定着支援など



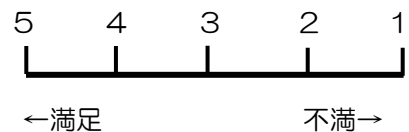
② 関係人口の創出を進める取組

家族向けのワーケーション（注4）の推進や都市部の親子を対象とした幼稚園等留学の受け入れ、鳥取県のファンを開拓するメンバーシップの登録者数増など



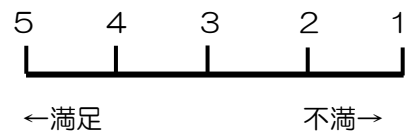
③ 県内産業の持続的発展をめざす取組

生産性向上や付加価値の拡大に対する支援、海外展開支援対策の強化、新産業の創出、事業承継の促進、建設・運輸業界の労働環境改善・人材確保など



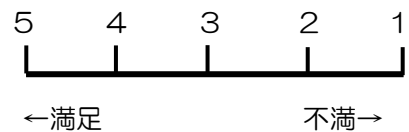
④ 県内産業を支える人づくりの推進

企業の持続的な発展や経営課題を解決する優れた産業人材の育成、就職支援の充実や企業とのマッチング、外国人や障がい者を含む多様な人材の活用など



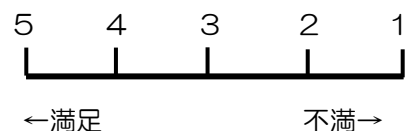
⑤ 防災・減災対策の強化

的確な避難行動の推進、デジタルを活用した災害情報の収集・伝達体制強化、治水対策の強化や危険木の計画的な事前伐採、耐震化の働きかけ、避難所環境の整備、原子力防災など



⑥ 暮らしやすく元気になるまちづくりを進める取組

防犯・交通事故防止に係る意識の向上や安全対策の推進、消費者被害の防止、地域と連携した動物愛護・管理の取組推進など



上記の施策等のうち、あなたが今後優先すべき（重要度が高い）と思うものを3つ選んで番号を記入ください。

【 】【 】【 】



注3：情報通信技術を活用した時間や場所を有効に活用できる柔軟な働き方のこと（在宅勤務、サテライトオフィス勤務等）。

注4：「ワーク（仕事）」と「バケーション（休暇）」から作られた造語。普段働いている職場を離れて、リゾート地などで休暇を取りながら遠隔勤務を行うこと。

4 男女共同参画社会づくり

【問7】男女に関する役割などについてお聞きします。次の項目（設問）についてどう思われますか。
1～8の設問ごとに表中の「選択」の中から1つ選んで○を記入してください。

設 問	選 択				
	そう 思う	どちらかと言 えばそう思う	どちらかと言え ばそう思わない	そう思 わない	わから ない
1 現実として家事が女性の役割となっていると思う					
2 現実として子育てが女性の役割となっていると思う					
3 現実として介護が女性の役割となっていると思う					
4 学校教育の場において男女差は無いと思う					
5 就職の機会に男女差は無いと思う					
6 就労環境、待遇に男女差は無いと思う					
7 社会的立場や地位は男女とも平等だと思う					
8 性別に関係なく個人が輝ける社会になっていると思う					

【問8】男性の家事、育児、介護への積極的な参画を促進するために、行政が行うべき施策は何だと思えますか。該当する数字に○をしてください。（○は3つまで）

- 1 男性の家事・育児・介護への参画を当たり前のことと捉える社会全体の機運の醸成
- 2 男性の家庭での活躍を促す、経営者・従業員に向けた職場における意識啓発
- 3 ワーク・ライフ・バランス(注5)を実現できる労働環境整備への支援
- 4 家族間での家事・育児の分担を見直すような普及啓発（研修会の開催、家事分担手帳の配布等）
- 5 男性が参加しやすい家事・育児・介護の手法研修（講習）会の開催
- 6 家事・育児・介護に積極的に参画している男性の事例、男性の家庭参画によるメリット等の発信
- 7 性別に関係なく家事・育児・介護に参画することについての若い世代や未婚者への普及啓発
- 8 その他（下記に具体的にお書きください）

【問9】男女共同参画社会を実現するために、行政が特に力を入れるべきことは何だと思えますか。該当する数字に○をしてください。（○は3つまで）

- 1 固定的性別役割分担意識(注6)の解消など男女共同参画の視点に立った教育や学習機会等の充実
- 2 男女共同参画に関する相談の場の拡充及び周知
- 3 性別によらない雇用や公正な待遇の確保、または働きやすい環境の整備を進める企業の取組支援
- 4 保育・介護の施設・サービスや子育て・介護支援の充実など、仕事との両立を可能とする環境の整備
- 5 長時間労働の縮減やテレワーク制度の普及など、働き方の見直しの啓発
- 6 子育てや介護等で離職した人の再就職支援
- 7 県の審議会委員や管理職など、政策決定の場への女性の積極的な登用
- 8 民間企業・団体などにおいて管理職への女性の登用が進むような取組支援、登用の事例やメリットの発信
- 9 女性に対する暴力を根絶するための取組推進
- 10 その他（下記に具体的にお書きください）

注5：ワーク・ライフ・バランス（仕事と生活の調和）とは、だれもが、仕事、家庭生活、地域活動、個人の自己啓発など、さまざまな活動を自分の希望するバランスで実現できる状態のこと。

注6：「男性は外で働き、女性は家庭を守るべきである」というような性別に基づく固定的な役割分担意識のこと。

Ⅲ 重点施策への関心・認識

<犯罪被害者支援について>

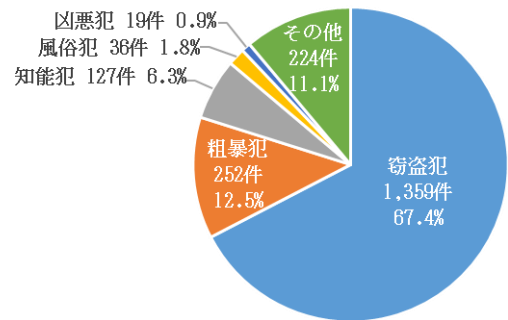
近年、予期できない様々な犯罪被害が後を絶たず、誰もが犯罪被害に巻き込まれる可能性があります。

犯罪にあわれた方やその家族、遺族は、ある日突然の違法な行為によって、生命や財産を奪われ、絶望感・孤独感にさいなまれ、大きな身体的、経済的、精神的な負担を強いられる様々な困難に直面します。さらには配慮に欠けた言葉や接し方などから、二次的な被害にまで苦しんでいる方もあります。

犯罪被害にあわれた方が一日も早く平穏な生活に戻れるためには、支援の充実や支援を受けられる環境を整えることに加え、被害に直面された方への理解が進むことも必要です。

鳥取県は、令和6年4月1日、犯罪被害者を支援する専門組織である「犯罪被害者総合サポートセンター」を設置し、関係機関と連携して、犯罪被害者等に寄り添った支援を提供できるよう支援する体制を設けるとともに、支援施策のさらなる充実強化を図るなど犯罪被害者支援の取組を進めています。

鳥取県における刑法犯の認知件数
(R4:2,017件)



窃盗犯：窃盗(空き巣、万引き等)
粗暴犯：暴行・傷害・脅迫・恐喝等
知能犯：詐欺・横領・偽造等
風俗犯：賭博、強制わいせつ等
凶悪犯：殺人・強盗・放火・強制性交等
その他：上記以外の犯罪(逮捕監禁、器物損壊等)

【問10】あなたは、これまで犯罪の被害者となった場合のことを考えたり、被害を受けた後の生活などを想像して不安を感じたことがありますか。該当する数字に○をしてください。(○は1つだけ)

- 1 考えたことがあり、不安を感じている
- 2 考えたことがあるが、不安は感じていない
- 3 考えたことはないが、不安はある
- 4 考えたことはなく、不安もない
- 5 その他(下記に具体的にお書きください)

()

【問11】あなたは、犯罪被害にあわれた方や、そのご家族の方々にワンストップで様々な支援を行う、鳥取県犯罪被害者総合サポートセンターの存在を知っていますか。該当する数字に○をしてください。

(○は1つだけ)

- 1 サポートセンターの存在も取組内容も知っている
- 2 サポートセンターの存在は知っているが、取組内容については知らない
- 3 県内で犯罪被害者等の支援に関する広報や啓発活動等について見聞きしたことがあるが、サポートセンターの存在は知らない
- 4 知らない

【問12】あなたが犯罪被害にあった場合を想定したとき、行政に求めたい支援は何ですか。該当する数字に○をしてください。 (○は2つまで)

- 1 犯罪被害者等が相談しやすい相談窓口の設置
- 2 必要となる医療費や裁判費用などの負担軽減、生活再建等に至る経済的な支援
- 3 弁護士相談や裁判に関する手続き等の情報の提供
- 4 犯罪被害者等の心身の不調回復や負担軽減のための休暇制度の普及
- 5 インターネットによる拡散など、二次被害を生じさせないための意識啓発
- 6 その他（下記に具体的にお書きください）

()

【問13】あなたが犯罪にあったときに、受ける二次被害として最も深刻だと思われる被害は何ですか。該当する数字に○をしてください。 (○は1つだけ)

二次被害…生命・身体・財産などに対する直接の被害（一次被害）だけでなく、その一次被害に起因する誹謗中傷や不適切な対応などによる精神的な苦痛や身体の不調などの被害

- 1 捜査、裁判の過程での精神的・時間的負担
- 2 知人・友人の言動、近隣の噂や中傷
間違った言葉かけ・態度、哀れみや無遠慮な視線、遠巻きにする態度、興味本位の話しかけ 等
- 3 配慮に欠ける職場環境や偏見
仕事上での配慮不足、受診や裁判傍聴等で休みづらい、退職せざるを得ない 等
- 4 報道機関の配慮に欠けた取材や報道、インターネット上の偽情報や誤情報の拡散
- 5 家族、親族、友人などとの関係の悪化
- 6 その他（下記に具体的にお書きください）

()

Ⅳ 回答者の情報

あなたの年代や性別などをお答えください。該当する項目に○印をお願いします。
なお、この情報はアンケート集計以外には利用いたしません。

【問14】年代

- 1 18～19歳 2 20～29歳 3 30～39歳 4 40～49歳
5 50～59歳 6 60～69歳 7 70歳以上

【問15】性別

- 1 男性 2 女性 3 その他・回答したくない

【問16】お住まいの住所

- 1 鳥取市 2 米子市 3 倉吉市 4 境港市 5 岩美町
6 八頭町 7 若桜町 8 智頭町 9 湯梨浜町 10 三朝町
11 北栄町 12 琴浦町 13 南部町 14 伯耆町 15 日吉津村
16 大山町 17 日南町 18 日野町 19 江府町

【問17】職業

- 1 会社員（含 公務員） 2 自営業（含 家族従業者） 3 パート・アルバイト
4 学生 5 専業主婦・主夫 6 無職

Ⅴ 自由記載欄

ご意見・ご要望があれば自由にお聞かせください。

以上で質問は終わりです。ご協力誠にありがとうございました

◆記入もれがないか再度ご確認ください、同封の返信用封筒に入れて郵便ポストに投函（切手不要）してください。なお、本調査の結果は10月中旬頃に「とりネットホームページ」に掲載予定です。

◆既にパソコン・スマートフォンによりインターネット回答をされた方は、この調査票へのご記入や郵便ポストへの投函は不要です。

この調査票を使用されず、インターネット回答をされる方は、次のページの案内をご覧ください。

～パソコン、スマートフォンでインターネット回答をされる方へ～

インターネット回答のご案内

このページは、パソコン、スマートフォンでインターネット回答をされる方へのご案内を掲載しています。

調査票にご記入いただき郵便ポストに投函される方は、インターネット回答は不要です。

<インターネット回答の手順>

インターネット回答ページは、鳥取県版電子申請システム(とっとり電子申請サービス)に設けています。
7月18日(木)までに回答していただきますようお願いいたします。

(1) インターネットで回答される方は、次のいずれかの方法でインターネット回答ページにアクセスしてください。

①直接、次の URL を入力してアクセスする。

https://apply.e-tumo.jp/pref-tottori-u/offer/offerList_detail?tempSeq=12208

②右のQRコードを読み込んでアクセスする。



(2) 回答ページ(はじめに)の「調査票番号」入力欄に、以下の**6けたの数字**を入力してください。
※御回答いただいた方に再度回答依頼を送付しないための入力欄で、個人の回答内容と結びつけることはありません。

(3) 設問に沿って回答してください。

(4) 回答を途中で保存したい場合は、画面の一番下の「入力中のデータを保存する」ボタンをクリックして、データを一時保存してください。

(5) 回答が完了したら、「確認へ進む」ボタンをクリックし、内容を確認後に、「申込む」ボタンをクリックしてください。以上で回答の手続きは終了です。

～ご協力いただき誠にありがとうございました～

性		年 代 別		地 域 別		其 他		性 別		年 代 別		地 域 別		其 他														
項目(3つまで)	重要度が高い	項目(3つまで)		項目(3つまで)		項目(3つまで)		項目(3つまで)		項目(3つまで)		項目(3つまで)		項目(3つまで)														
		重要度が低い	重要度が高い	重要度が低い	重要度が高い	重要度が低い	重要度が高い	重要度が低い	重要度が高い	重要度が低い	重要度が高い	重要度が低い	重要度が高い	重要度が低い	重要度が高い													
性別		男性(183)	372	62	17	07	316	489	107	52	19	07	284	427	168	96	38	06	178	328	217	142	123	12				
年 代 別		18～19歳(18)	502	118	94	26	101	203	562	129	77	24	04	138	417	235	158	50	03	220	300	217	151	107	09			
地 域 別		東 京 圏(82)	446	48	37	08	403	461	84	35	13	06	382	448	28	28	05	14	08	382	448	224	133	133	12			
其 他		その他(46)	391	109	65	65	435	283	196	62	65	57	283	348	196	87	87	00	10.9	283	174	217	217	11.1				
性 別	年 代 別	地 域 別	其 他	性別		男性(183)	372	62	17	07	316	489	107	52	19	07	284	427	168	96	38	06	178	328	217	142	123	12
				年 代 別		18～19歳(18)	502	118	94	26	101	203	562	129	77	24	04	138	417	235	158	50	03	220	300	217	151	107
地 域 別		東 京 圏(82)	446	48	37	08	403	461	84	35	13	06	382	448	28	28	05	14	08	382	448	224	133	133	12			
其 他		その他(46)	391	109	65	65	435	283	196	62	65	57	283	348	196	87	87	00	10.9	283	174	217	217	11.1				
性 別	年 代 別	地 域 別	其 他	性別		男性(183)	372	62	17	07	316	489	107	52	19	07	284	427	168	96	38	06	178	328	217	142	123	12
				年 代 別		18～19歳(18)	502	118	94	26	101	203	562	129	77	24	04	138	417	235	158	50	03	220	300	217	151	107
地 域 別		東 京 圏(82)	446	48	37	08	403	461	84	35	13	06	382	448	28	28	05	14	08	382	448	224	133	133	12			
其 他		その他(46)	391	109	65	65	435	283	196	62	65	57	283	348	196	87	87	00	10.9	283	174	217	217	11.1				

項目(3つまで)	重要度が低い	重要度が高い	項目(3つまで)		項目(3つまで)		項目(3つまで)		項目(3つまで)		項目(3つまで)		項目(3つまで)		項目(3つまで)		項目(3つまで)											
			重要度が低い	重要度が高い	重要度が低い	重要度が高い	重要度が低い	重要度が高い	重要度が低い	重要度が高い	重要度が低い	重要度が高い	重要度が低い	重要度が高い	重要度が低い	重要度が高い	重要度が低い	重要度が高い										
性別		男性(183)	372	62	17	07	316	489	107	52	19	07	284	427	168	96	38	06	178	328	217	142	123	12				
年 代 別		18～19歳(18)	502	118	94	26	101	203	562	129	77	24	04	138	417	235	158	50	03	220	300	217	151	107	09			
地 域 別		東 京 圏(82)	446	48	37	08	403	461	84	35	13	06	382	448	28	28	05	14	08	382	448	224	133	133	12			
其 他		その他(46)	391	109	65	65	435	283	196	62	65	57	283	348	196	87	87	00	10.9	283	174	217	217	11.1				
性 別	年 代 別	地 域 別	其 他	性別		男性(183)	372	62	17	07	316	489	107	52	19	07	284	427	168	96	38	06	178	328	217	142	123	12
				年 代 別		18～19歳(18)	502	118	94	26	101	203	562	129	77	24	04	138	417	235	158	50	03	220	300	217	151	107
地 域 別		東 京 圏(82)	446	48	37	08	403	461	84	35	13	06	382	448	28	28	05	14	08	382	448	224	133	133	12			
其 他		その他(46)	391	109	65	65	435	283	196	62	65	57	283	348	196	87	87	00	10.9	283	174	217	217	11.1				

